
**芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書**



平成29（2017）年3月

芦屋市

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	5
	1 性別	5
	2 年齢別構成	5
	3 職業別構成	6
	4 未既婚	7
	(1) 未既婚	7
	(2) 配偶者・パートナーの職業	8
	5 子どもの状況	9
	(1) 子どもの有無	9
	(2) 末子の就学状況	10
	6 同居家族構成	11
III	調査結果の概要	12
IV	調査結果	15
	【1】男女平等意識について	15
	1 男女の平等意識	15
	【2】結婚・家庭生活について	22
	1 結婚・家庭生活に関する考え	22
	2 家庭内の仕事の分担について	26
	(1) 理想とする分担	26
	(2) 現実の分担	27
	3 希望する介護者	39
	4 家族介護についての考え	42
	5 男性が家事や子育て等を行うイメージについて	44
	6 男性が積極的に家事や子育て等を行うために必要なこと	47
	【3】子どもの教育について	51
	1 子育てについての考え方	51
	2 子どもの性別による教育機会の希望	55
	3 子どもの性別による生き方の重要度	59

【4】 職業生活について -----	67
1 就労状況・就労意向 -----	67
(1) 就労の有無 -----	67
(2) 未就労の理由 -----	68
(3) 就労意向 -----	70
(4) 就労形態の希望 -----	71
(5) 共働き世帯による育児・介護休業の理想的な取得パターン ---	72
(6) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実 -----	74
2 女性が職業をもつことについて -----	76
3 女性が活躍できる仕事・職場環境に必要なこと -----	79
4 女性が働き続けるために必要なこと -----	82
5 離職した女性の社会復帰について -----	86
【5】 市民活動（地域活動）について -----	89
1 市民活動への参加状況について -----	89
(1) 各市民活動への参加状況・参加意向 -----	89
(2) 市民活動への不参加・参加したくない理由 -----	94
(3) 市民活動における男女協力の状況 -----	97
2 地域活動や政策決定の場への女性の参画状況について -----	99
3 各分野への女性参画の影響について -----	102
【6】 配偶者や交際相手からの暴力等について -----	105
1 配偶者からのドメスティック・バイオレンス -----	105
(1) 過去5年間における配偶者の有無 -----	105
(2) 配偶者からのDV経験について -----	106
(3) 配偶者からのDVの相談相手 -----	109
(4) 配偶者からのDVについて相談しなかった理由 -----	111
2 交際相手からのドメスティック・バイオレンス -----	113
(1) 過去5年間における交際相手の有無 -----	113
(2) 交際相手からのDV経験について -----	113
3 セクシュアル・ハラスメントについて -----	116
(1) 過去5年間におけるセクシュアル・ハラスメントの有無 ---	116
(2) セクシュアル・ハラスメントへの対処方法 -----	118
【7】 男女共同参画の取組について -----	119
1 男女共同参画社会に向けた取組の認知状況 -----	119
2 男女共同参画関連用語の認知状況 -----	123
3 男女共同参画推進にとって重要なこと -----	125

I 調査の概要

【調査の目的】

「第3次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」と「芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画」の見直しに当たって、市民の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、「芦屋市女性活躍推進計画」を含む今後の計画づくりのための基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

【調査対象】

本市に居住する18歳以上の市民2,000人（男女各1,000人）

【対象者抽出方法】

住民基本台帳による無作為抽出

【調査方法】

調査票による本人記入方式

郵送による配付・回収（お礼状兼回収依頼1回配布）

【調査期間】

平成28（2016）年8月18日～8月31日

【回収結果】

	配付数	有効回収数	有効回収率
全体	2,000件	965件	48.3%
女性	1,000件	535件	53.5%
男性	1,000件	415件	41.5%

※有効回収数の全体には、無回答15件が含まれています。

※性別の選択肢は、「1.女性」「2.男性」「3.（ ）」としましたが、3の回答は0人。

【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、回答比率の合計は100%にならない場合があります。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)設問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)です。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数*を「n」で表記しています。
- (4) 図表中における年齢層別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、年齢層別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合があります。
- (5) 図中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%, 0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合があります。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合があります。
- (6) 図表中、クロス集計の項目軸については、長文を省略している場合があります。また、設問によっては、回答割合を考慮した上で「わからない」と「無回答」を合算して表記している場合があります。
- (7) 表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示しています。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていません。また「無回答」は表記から省略しています。
- (8) 設問によっては、本市で過去に実施した調査(平成23年10月~11月実施)との比較を行っており(図表等では「前回調査」と表記)、また、「第3回県民モニターアンケート調査(平成26年9月実施)」(図表等では「兵庫県」と表記)、「国の世論調査(平成24年10月実施調査)」(図表等では「国」と表記)、「国の女性活躍推進に関する世論調査(平成26年8月実施調査)」(図表等では「女性活躍」と表記)との比較を行っています。なお、比較した設問によっては選択肢が一致しない場合がありますので、その選択肢については比較を行っていません。
- (9) その他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載しました。

※(例)問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における「男性」や「30歳代」…など、限定された回答者数

【比較調査の概要】

(1) 前回調査

①調査目的

平成 19 年度策定の「第 2 次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン（後期計画）」の見直しにあたり，次期計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

②調査対象

平成 23 年 10 月現在，本市に住民登録，外国人登録している 18 歳以上の市民 2,000 人（男女各 1,000 人）を無作為抽出

③調査期間

平成 23（2011）年 10 月 20 日～11 月 4 日

④調査方法

調査票による本人記入方式

郵送による配布・回収（お礼状兼回収依頼 1 回配布）

⑤回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
全 体	2,000 件	1,105 件	55.3%
女 性	1,000 件	663 件	66.3%
男 性	1,000 件	428 件	42.8%

※有効回収数の全体には，性別不明 14 件が含まれています。

(2) 第 3 回県民モニターアンケート調査結果（兵庫県）

①調査対象

県民モニター 2,248 人（平成 26 年 10 月 8 日時点での登録者）

③調査期間

平成 26 年 9 月 25 日～10 月 8 日

④調査方法

インターネットを利用し県ホームページ上のアンケートフォームに入力

⑤回収状況

回答者数	回答率
1,472 人	65.5%

(3) 男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）

①調査目的

男女共同参画社会に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

②調査対象

全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人を無作為抽出
（層化 2 段無作為抽出法）

③調査期間

平成 24 年 10 月 11 日～10 月 28 日

④調査方法

調査員による個別面接聴取法

⑤回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
全 体	5,000 件	3,033 件	60.7%

(4) 女性の活躍推進に関する世論調査（内閣府）

①調査目的

女性の活躍推進に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

②調査対象

全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人を無作為抽出
（層化 2 段無作為抽出法）

③調査期間

平成 26 年 8 月 28 日～9 月 14 日

④調査方法

調査員による個別面接聴取法

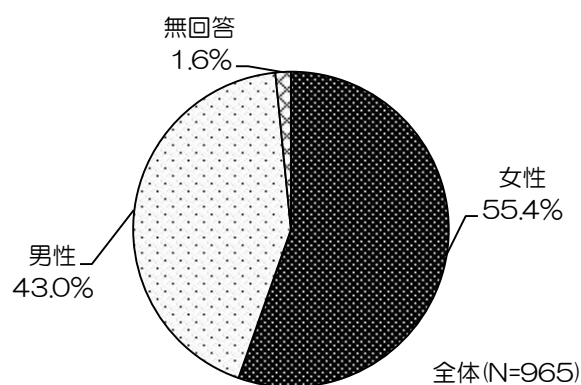
⑤回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
全 体	5,000 件	3,037 件	60.7%

II 回答者の属性

1 性別

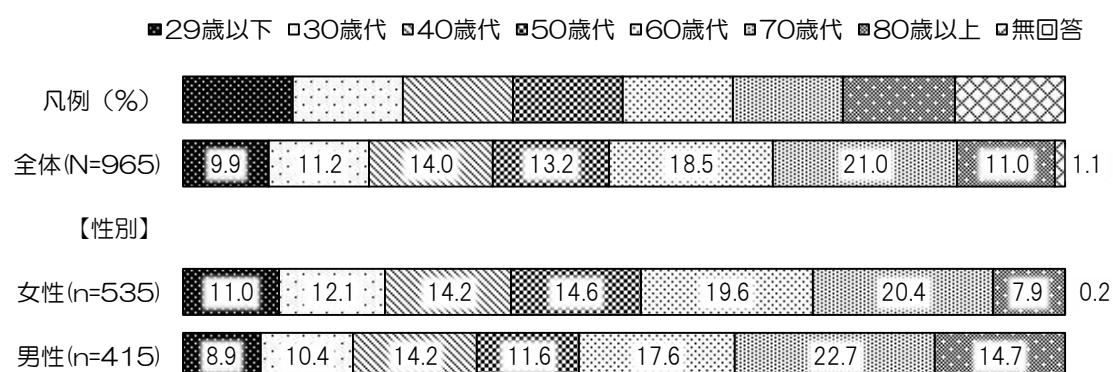
性別構成比は、「女性」55.4%、「男性」43.0%で、女性の割合がやや高くなっています。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「70 歳代」が 21.0%と最も高く、次いで「60 歳代」(18.5%)と続き、60 歳代以上で合計半数 (50.5%) を占めます。以下、40 歳代 (14.0%)、50 歳代 (13.2%)、30 歳代 (11.2%) の順となっています。

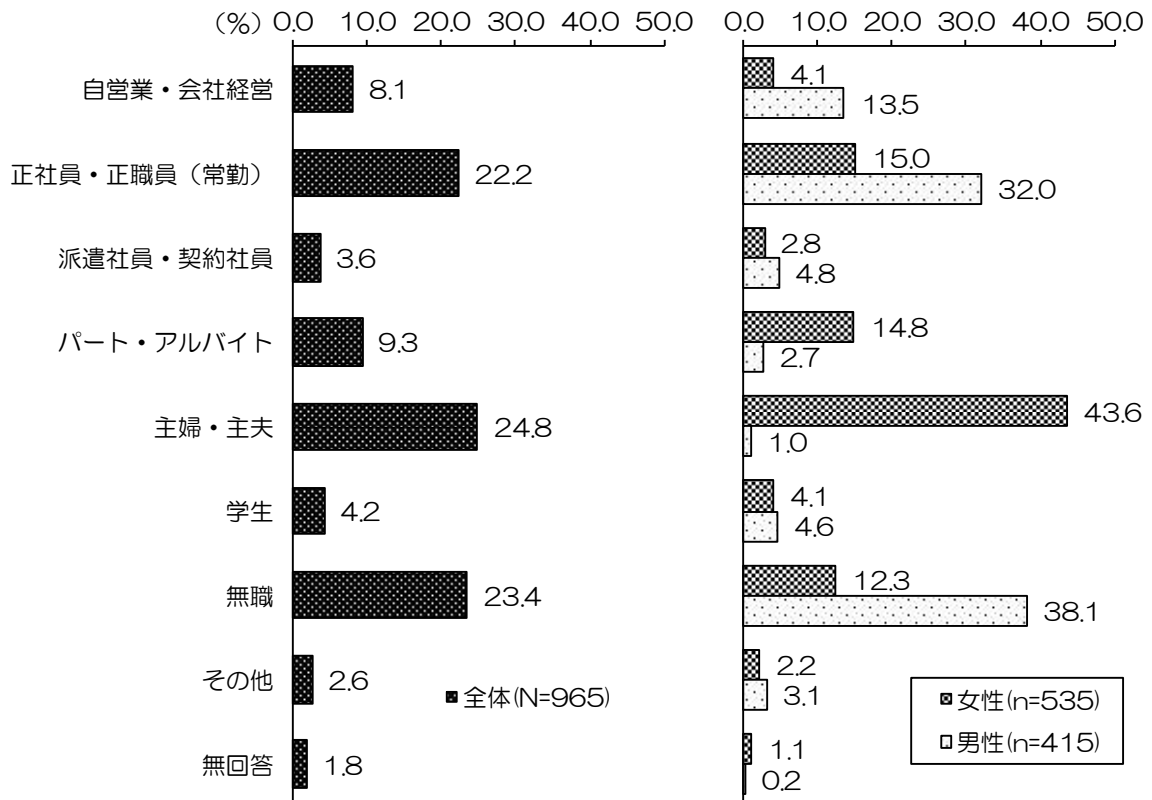
性別では、男性に比べて女性で 50 歳代以下が高く、男性は 70 歳代以上が高くなっています。



3 職業別構成

職業別構成については、「主婦・主夫」が24.8%と最も高く、次いで「無職」(23.4%)、「正社員・正職員(常勤)」(22.2%)の順となっています。

性別では、女性で「主婦・主夫」「正社員, 正職員(常勤)」「パート・アルバイト」、男性で「無職」「正社員・正職員(常勤)」「自営業・会社経営」がそれぞれ高くなっています。



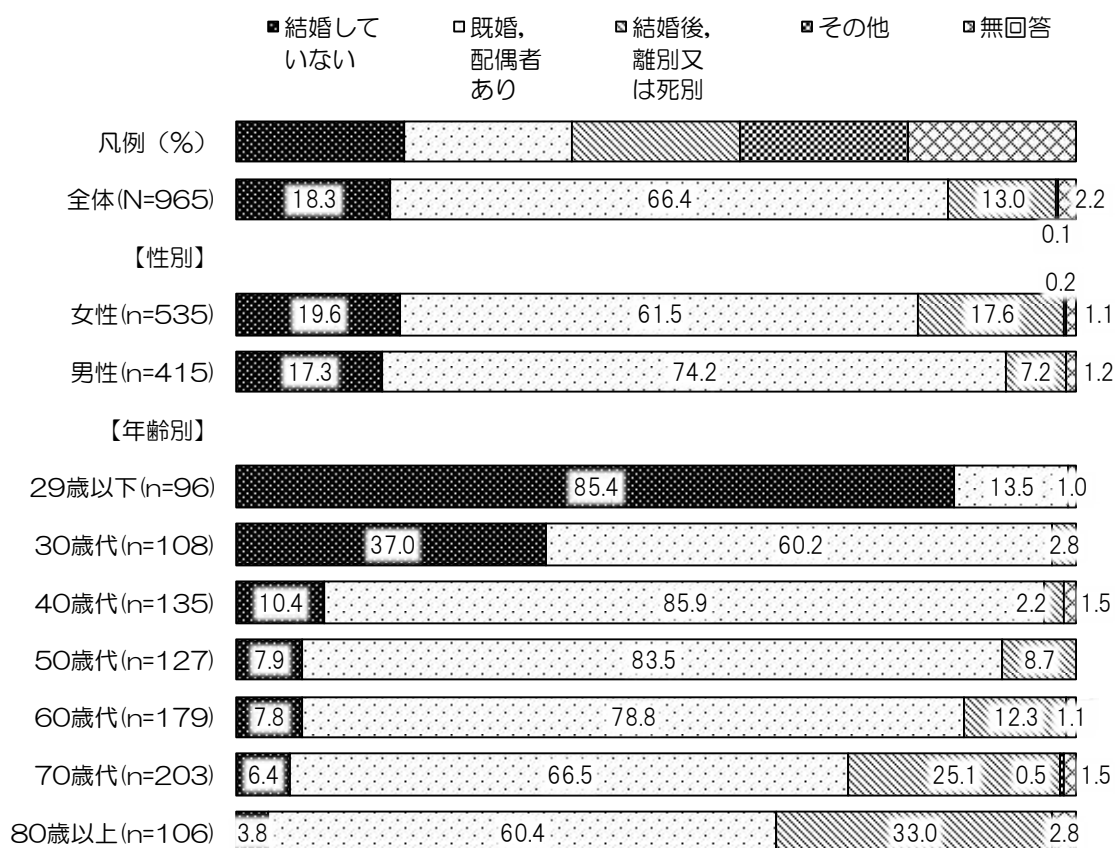
4 未既婚

(1) 未既婚

未既婚については、「結婚していない」が18.3%、「既婚，配偶者あり」が66.4%、「結婚後，離別又は死別」が13.0%となっています。

性別では，男性に比べて女性で「結婚後，離別又は死別」が高くなっています。

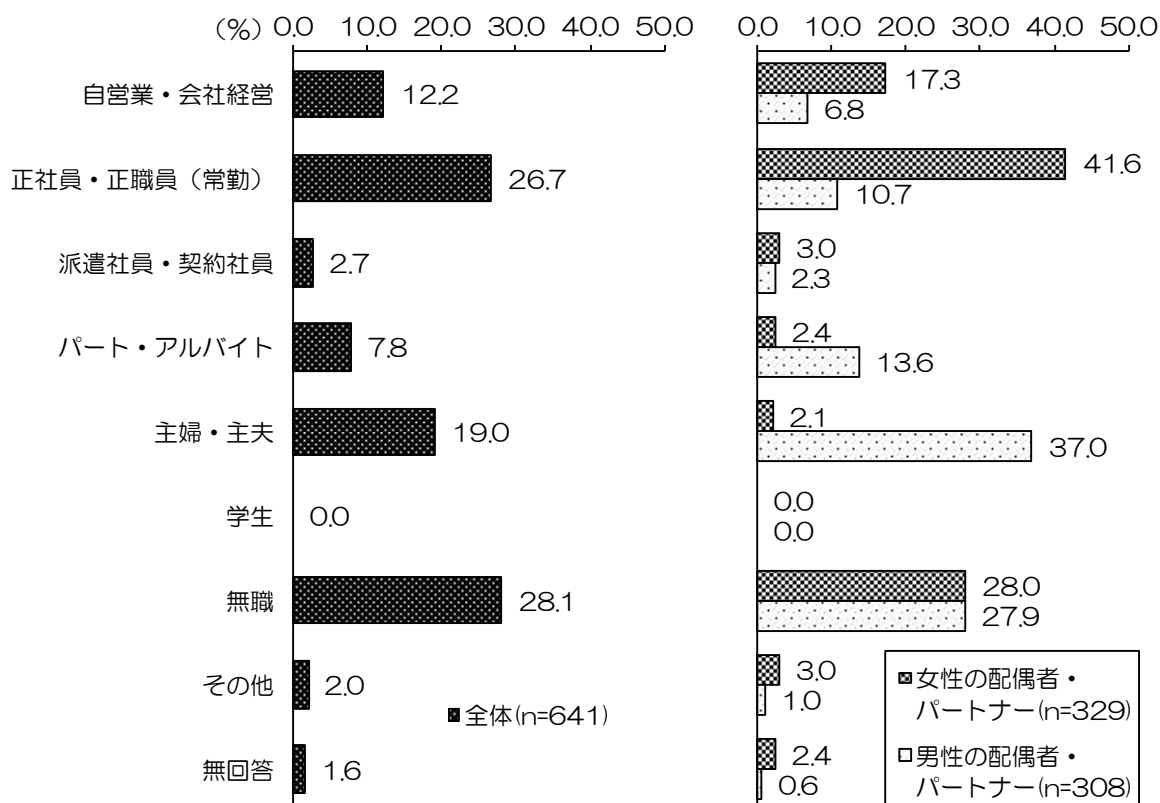
年齢別では，若い年齢層ほど「結婚していない」が高くなっていて，29歳以下の未婚率は8割以上を占めます。



(2) 配偶者・パートナーの職業

配偶者・パートナーの職業については、「無職」が28.1%と最も高く、次いで「正社員・正職員（常勤）」（26.7%）、「主婦・主夫」（19.0%）、「自営業・会社経営」（12.2%）の順となっています。また、「無職」「主婦・主夫」「無回答」を除く共働き率は51.3%でした。

性別では、女性の配偶者・パートナーは「正社員・正職員（常勤）」「無職」「自営業・会社経営」、男性の配偶者・パートナーは「主婦・主夫」「無職」「パート・アルバイト」の順に高くなっています。

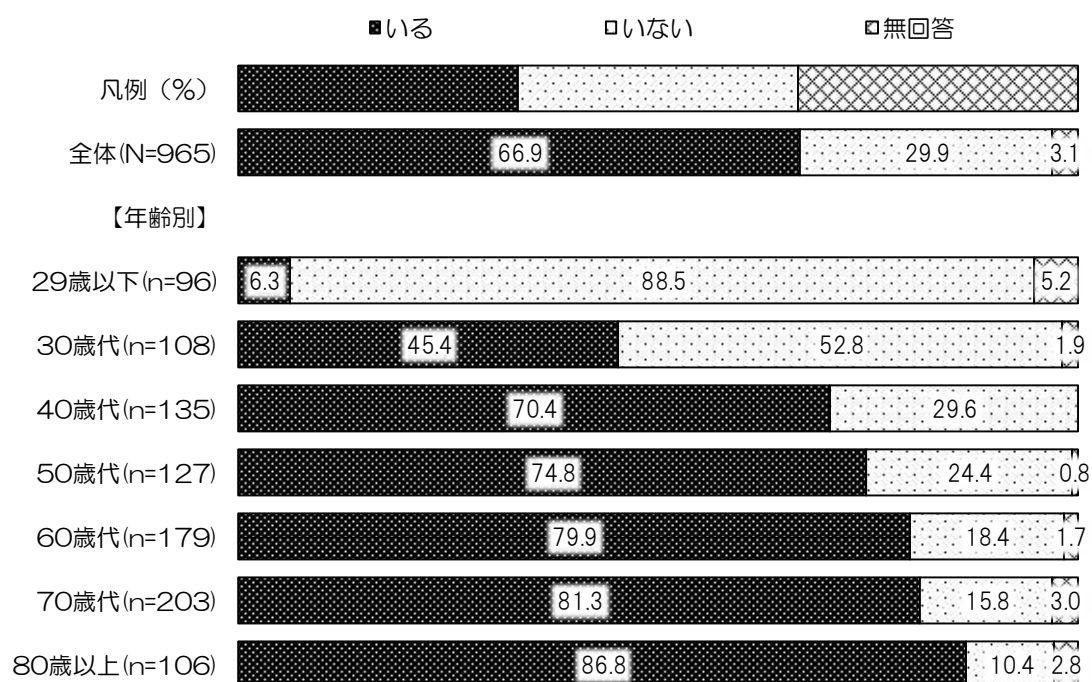


5 子どもの状況

(1) 子どもの有無

子どもの有無については、「いる」が66.9%、「いない」が29.9%となっています。

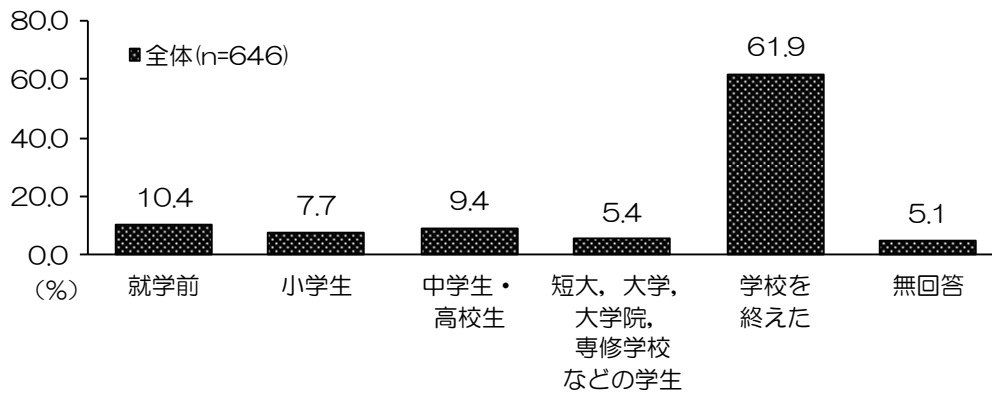
年齢別では、年齢が上がるほど「いる」が高くなっています。一方、29歳以下で9割近く、30歳代の過半数が「いない」と回答しています。



(2) 末子の就学状況

末子の就学状況については、「学校を終えた」が61.9%と最も高くなっています。

年齢別では、30歳代で「就学前」、40歳代で「中学生・高校生」、50歳代で「学校を終えた」がそれぞれ高くなっています。



単位 (%)	サンプル数 (件)	就学前	小学生	中学生・高校生	の院短 学, 大 生, 専 修, 大 学学 校, 大 学	学校を終えた
全体	646	10.4	7.7	9.4	5.4	61.9
【年齢別】						
29歳以下	6	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	49	79.6	20.4	0.0	0.0	0.0
40歳代	95	21.1	32.6	40.0	5.3	1.1
50歳代	95	3.2	5.3	22.1	20.0	48.4
60歳代	143	0.0	1.4	0.7	7.7	88.1
70歳代	165	0.0	1.2	0.6	0.0	90.9
80歳以上	92	0.0	0.0	0.0	0.0	82.6

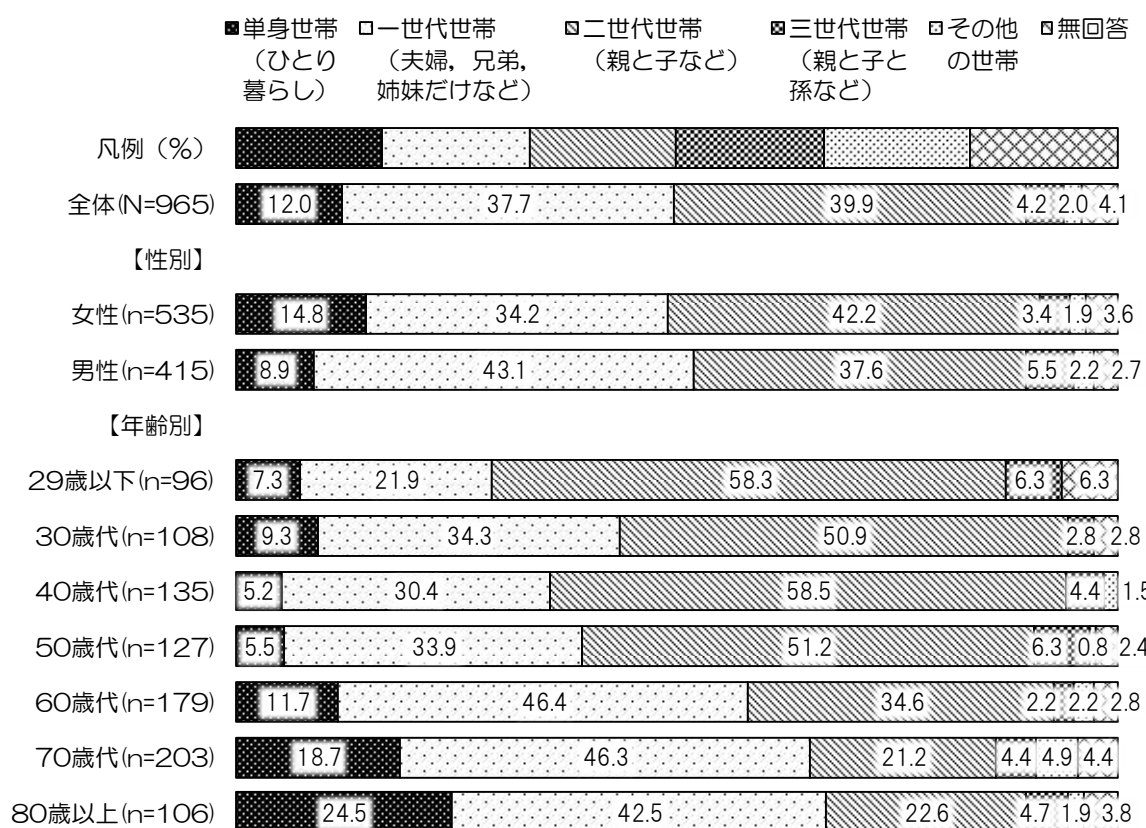
※該当件数(n=)が10未満の項目については参考値として参照。(本報告書においては、以下同様)

6 同居家族構成

同居世帯の構成は、「二世帯世帯（親と子など）」が 39.9%と最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦、兄弟、姉妹だけなど）」(37.7%),「単身世帯（ひとり暮らし）」(12.0%)の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「単身世帯（ひとり暮らし）」がやや高くなっています。

年齢別では、29 歳以下から 50 歳代のすべてで「二世帯世帯（親と子など）」、60 歳代以上で「一世帯世帯（夫婦、兄弟、姉妹だけなど）」がそれぞれ高くなっています。



Ⅲ 調査結果の概要

回答者の属性

性別構成比は、女性 55.4%、男性 43.0%と女性が過半数を占めており、年代別構成は、70 歳代が 21.0%と最も高く、10 歳代から 50 歳代の合計は5割弱（48.3%）、60 歳以上が5割強（50.5%）を占めています。職業は、「主婦・主夫」が 24.8%と最も高く、続いて「無職（23.4%）」、「正社員・正職員（常勤）（22.2%）」の順となっています。家族構成は、「二世帯世帯」が 39.9%と最も高く、続いて「一世帯世帯」が 37.7%となっています。

【1】男女平等意識について

男女の平等意識について、「平等である」への回答をみると、「⑤学校教育の場で」の割合が 61.6%が最も高く、続いて「④地域活動の場で（47.9%）」、「①家庭生活の場で（40.7%）」、「⑦法律や制度の上で（39.0%）」の順となっています。男性優遇意識については、特に「⑧社会通念や慣習、しきたり等で」、「⑨社会全体として」、「③職場の中で（賃金・昇進等）」の割合が高くなっています。

【2】結婚・家庭生活について

結婚・家庭生活に関する考えについて、『賛成意向』については、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が最も高く、次いで「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」となっています。「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については、『賛成意向』が 31.5%、『反対意向』が 62.1%となっています。

家庭における役割分担について、『理想』はおおむねどの項目も「夫婦同程度」の割合が最も高く、「②掃除・洗濯」、「④食事のしたく」、「⑥日常の家計管理」は、「主として妻」に割合が4割を超えています。『現実』では、「夫婦同程度」が最も高いのは「⑧近所や親せきとのつきあい」、「⑨家庭における重要な決定」、「⑪子どものしつけ・教育」、「⑫介護」にとどまり、「①生活費の確保」を除く他の項目については「主として妻」の割合が最も高くなっています。

家族の介護については、「男性も女性とともに介護すべき」が 46.0%と最も高い一方、「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」が 17.4%、「介護は社会で担い行うべき」が 23.8%となっています。

男性が家事、子育て等に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が 61.6%最も高く、続いて「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」が 52.1%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が 48.3%となっています。

【3】子どもの教育について

子育ての考え方については、「男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」は、「そう思う」が8割を超えています。また、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」では、『賛成意向』が5割を超え、『反対意向』より15.9ポイント高くなっていますが、「あまりそう思わない」は28.5%となっています。

子どもに望む生き方については、女の子、男の子のいずれも「①社会的な地位を得るように」を除くすべての項目で『重要』の割合が最も高くなっており、女の子は、「②経済的に自立できるように」が「重要」と「やや重要」の合計が90.6%となっています。『重要』が最も高い項目は、女の子が「③家事等身の回りのことが自分でできるように」で75.0%、男の子が「②経済的に自立できるように」で87.0%となっており、『男は仕事、女は家庭』という固定的役割意識の傾向が少なからず見られます。

【4】職業生活について

職業の有無については、「仕事をしていない」が49.4%となっており、その理由としては「定年、高齢だから」が60.0%で最も高くなっています。仕事をしていない方のうち、今後の就業意向については、就業したい割合が21.6%となっており、そのうち希望する働き方については、「正社員・正職員（常勤）」が42.7%、「パート・アルバイト」が30.1%となっています。

【育児休業】、【介護休業】については、いずれも「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も高くなっていますが、【育児休業】については、「妻が取るのがよい」が34.0%となっています。

ワーク・ライフ・バランスについては、【希望】が「仕事と生活をバランスよく」で76.2%と最も高い一方で、【現実】は「仕事を優先」が54.2%と最も高いものの、3割近くの方は「仕事と生活をバランスよく（29.3%）」と回答しています。

女性が職業をもつことについては、「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」が35.4%、続いて「結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」が34.9%となっています。

【5】市民活動（地域活動）について

いずれの市民活動も「参加したことがない」割合が最も高くなっていますが、その理由としては、順に「仕事が忙しい（36.3%）」、「どんな活動があるかわからない（35.4%）」となっています。活動における男女の協力については、【協力しあっている】の割合が58.3%となっています。

自治会や市民活動等の方針決定の場における女性の参画状況については、「ある程度参加ができている」が21.1%、「あまり参加できていない」が16.8%となっていますが、「わからない」が42.0%で最も高くなっています。

【6】配偶者や交際相手からの暴力等について

過去5年間に配偶者がおられる（おられた）方のうち、DVの経験についてはいずれの項目も「まったくない」が最も高くなっていますが、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた」で、「何度もあった」が6.4%、「1，2度あった」が12.6%と他の項目より【経験あり】の割合が高くなっています。

DVを受けた時の相談先については、「家族や親戚」が21.2%、「友人・知人」が26.9%となっていますが、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が48.7%と半数近くになっています。相談しなかった方の理由については、「相談するほどのことではないと思った」が60.5%と最も高く、続いて「自分にも悪いところがある」が34.2%となっていますが、「だれにも話す気持ちになれなかった」が21.1%、「相談しても無駄だと思った」が17.1%となっています。

過去5年間に交際相手がおられる（おられた）方のうち、DVの経験についてはいずれの項目も「まったくない」が最も高くなっていますが、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた」で、「何度もあった」が3.4%、「1，2度あった」が7.7%と配偶者からのDV経験と同じく、他の項目より【経験あり】の割合が高くなっています。

過去5年間のセクシュアル・ハラスメントの有無については、「自分や自分の周りに被害にあった人はいない」が53.3%となっています。セクシュアル・ハラスメントの被害を自身が受けた、周りの人が受けたと回答された方のうち、対応・相談先については、「家族や友人に相談した」が26.1%、「相手に直接抗議した」が24.6%、「職場や学校に相談した」が24.6%となっている一方、「がまんした（何もしなかった）」が29.0%で最も高い割合となっています。

【7】男女共同参画の取組について

本市の取組の認知状況については、いずれの項目も「知らない・聞いたことがない」が最も高くなっているものの、「言葉も内容も知っている」と「言葉を聞いたことがある」を合わせると、「①芦屋市男女共同参画推進条例」が36.7%、「⑧女性の悩み相談（心の悩み、家事調停、法律相談）」が35.5%、「④芦屋市男女共同参画センターウィザスあしや」が33.2%、「⑨芦屋市DV相談室（芦屋市配偶者暴力相談支援センター）」が30.0%となっています。

男女共同参画に関する「ことがら」の見聞きについては、「ストーカー規制法」が62.0%で最も高く、続いて「男女雇用機会均等法」が57.7%、「DV防止法」が53.2%の順となっていますが、その他の項目では、「ジェンダー」が37.2%、「ワーク・ライフ・バランス」が27.8%、「男女共同参画社会基本法」が26.7%にとどまっています。

今後、あらゆる分野で男女がさらに対等な社会となるために、重要なことについては、「保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が59.7%と最も高く、続いて「子育てや介護等で、いったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が58.3%、「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるようにする」が51.0%の順となっています。

IV 調査結果

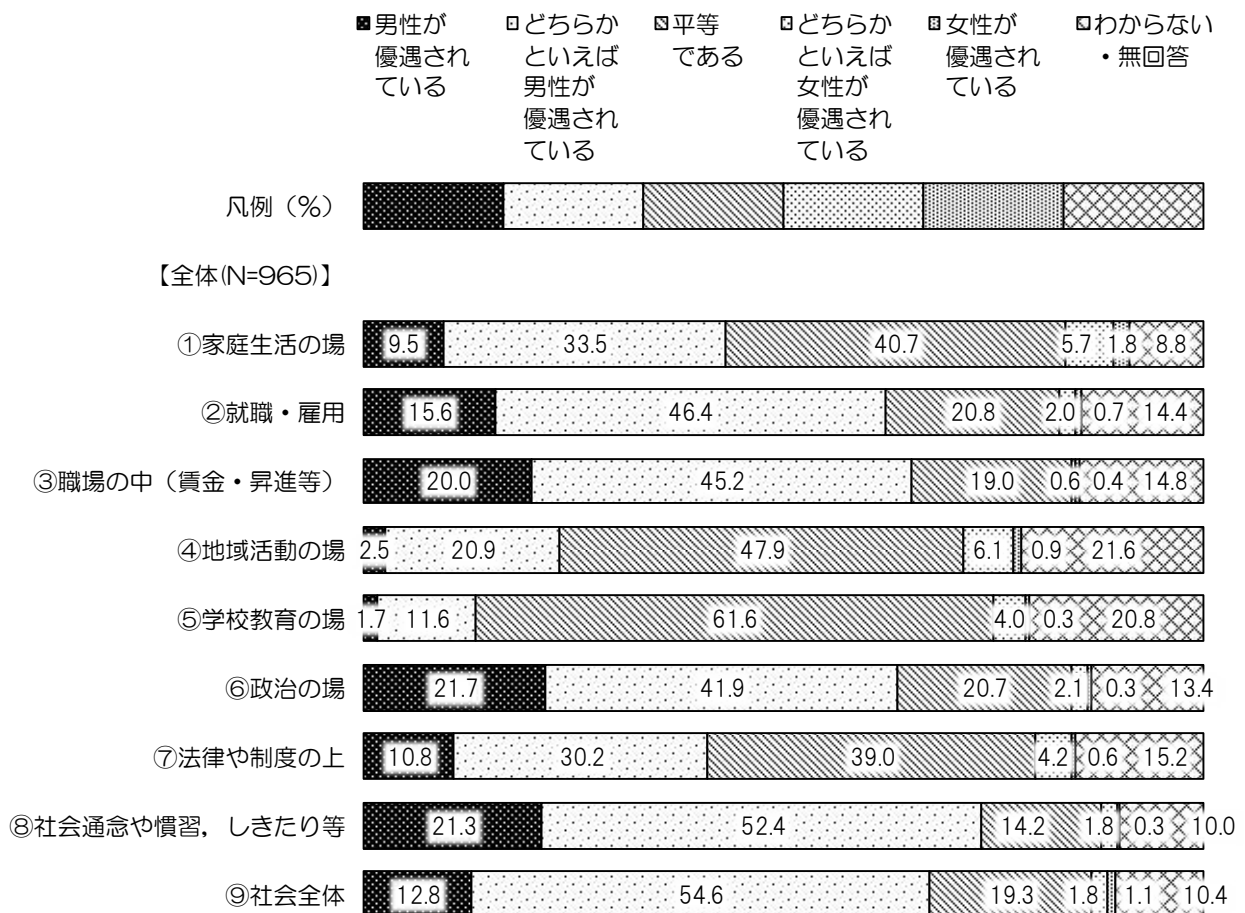
【1】男女平等意識について

1 男女の平等意識

問7. 次の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。次の各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。（〇はそれぞれ1つずつ）

男女の平等意識に関するすべての分野において、『男性優遇*』意識が『女性優遇*』意識を上回っています。『男性優遇』意識が高い順に、「⑧社会通念や慣習、しきたり等」（73.7%）、「⑨社会全体」（67.4%）、「③職場の中（賃金・昇進等）」（65.2%）、「⑥政治の場」（63.6%）、「②就職・雇用」（62.0%）となっています。

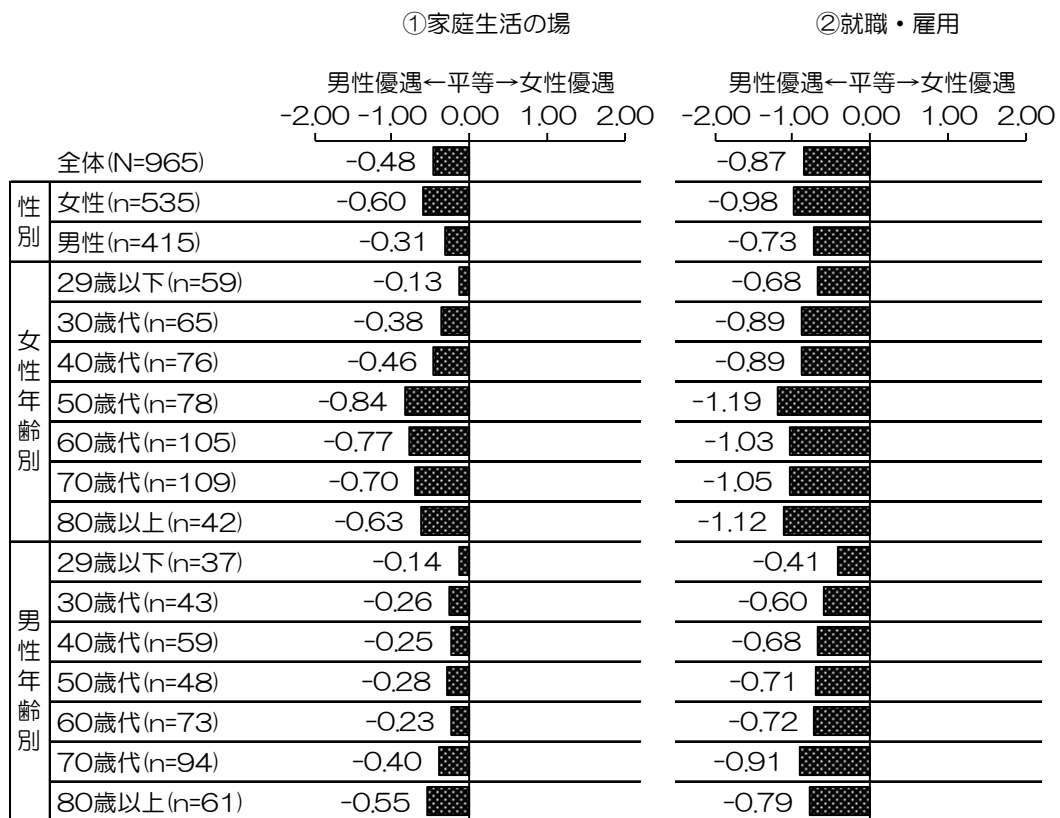
一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「⑤学校教育の場」（61.6%）、「④地域活動の場」（47.9%）、「①家庭生活の場」（40.7%）などがあげられます。



*「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせて『女性優遇』としています。

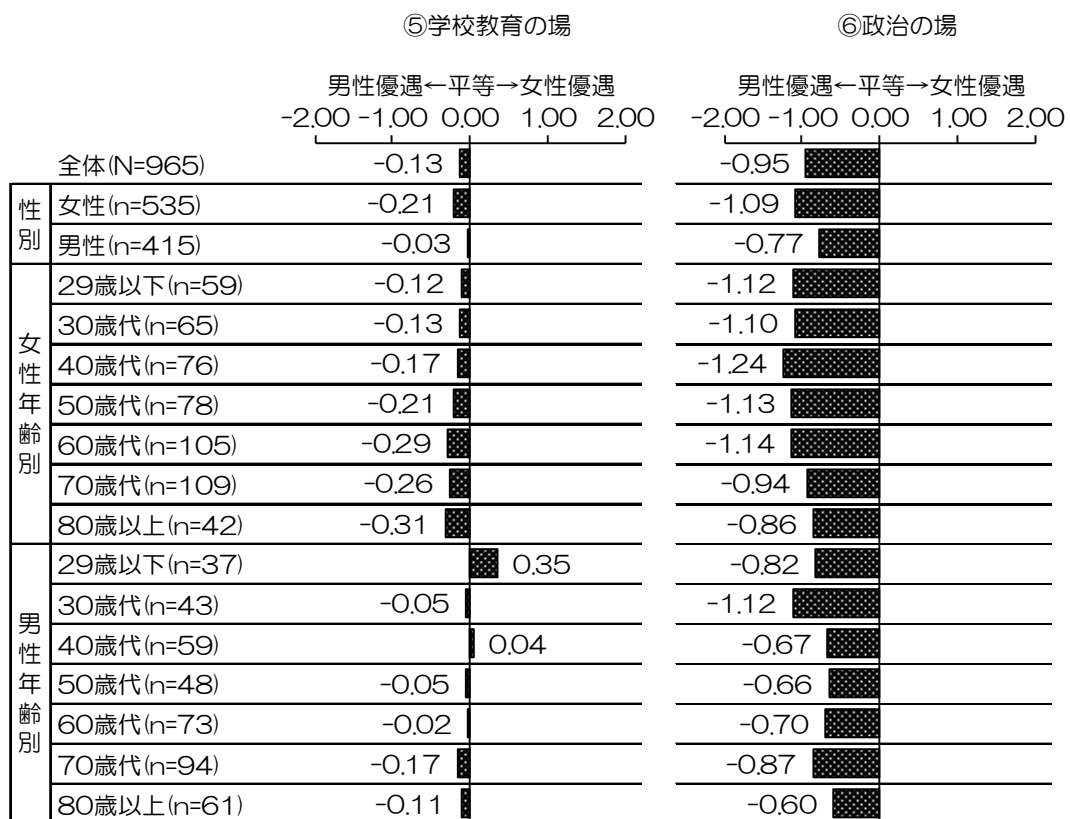
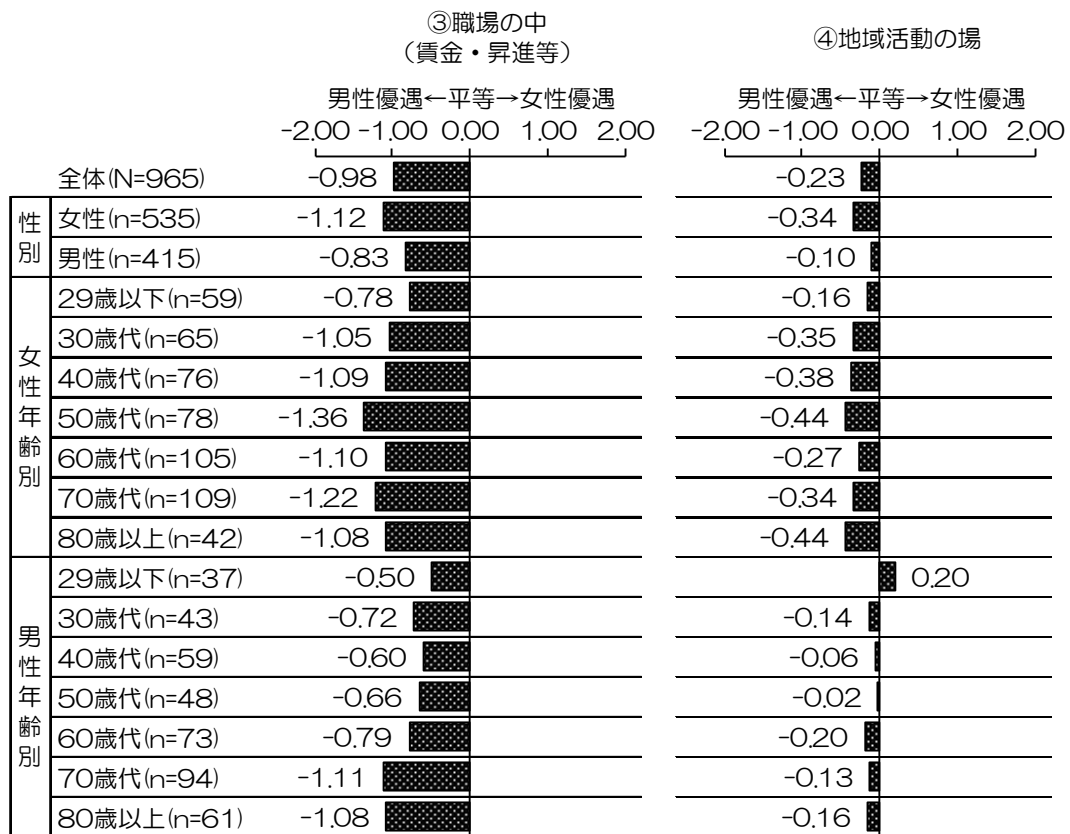
加重平均値*による属性別傾向をみると、性別では、すべての分野で女性の『男性優遇』意識が男性より高くなっており、特に「⑦法律や制度の上」でその差が大きくなっています。一方、男女とも「④地域活動の場」「⑤学校教育の場」についてはおおむね『平等』意識となっています。

性・年齢別でみると、「②就職・雇用」「③職場の中（賃金・昇進等）」については女性50歳代、「⑥政治の場」「⑧社会通念や慣習、しきたり等」については女性40歳代で『男性優遇』意識がそれぞれ特に高くなっています。一方、男性29歳以下で「④地域活動の場」「⑤学校教育の場」などについては、『女性優遇』意識がやや高くなっています。

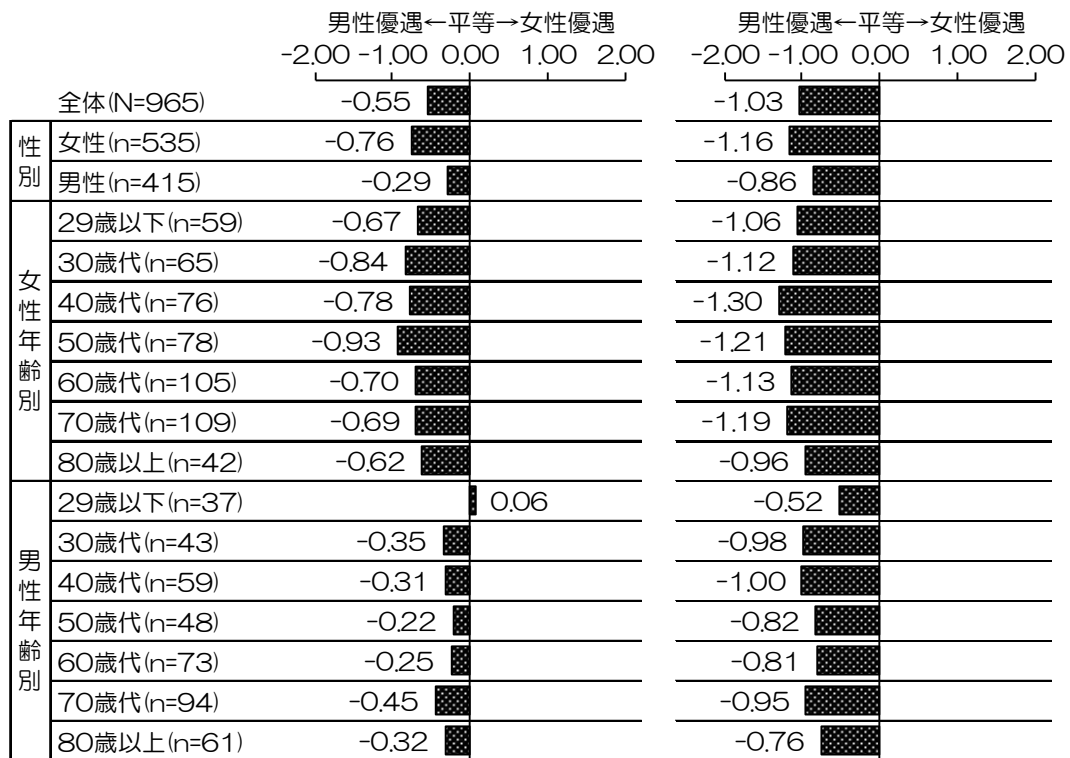


※加重平均値による属性別傾向

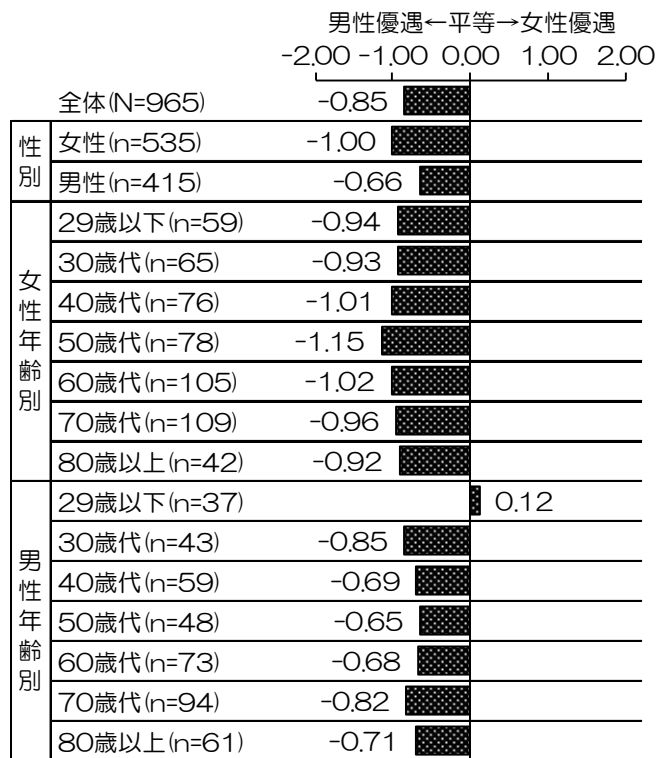
加重平均値とは、「男性が優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性が優遇されている」に-1点、「平等」に0点、「どちらかといえば女性が優遇されている」に+1点、「女性が優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標です。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではありません。



⑦法律や制度の上

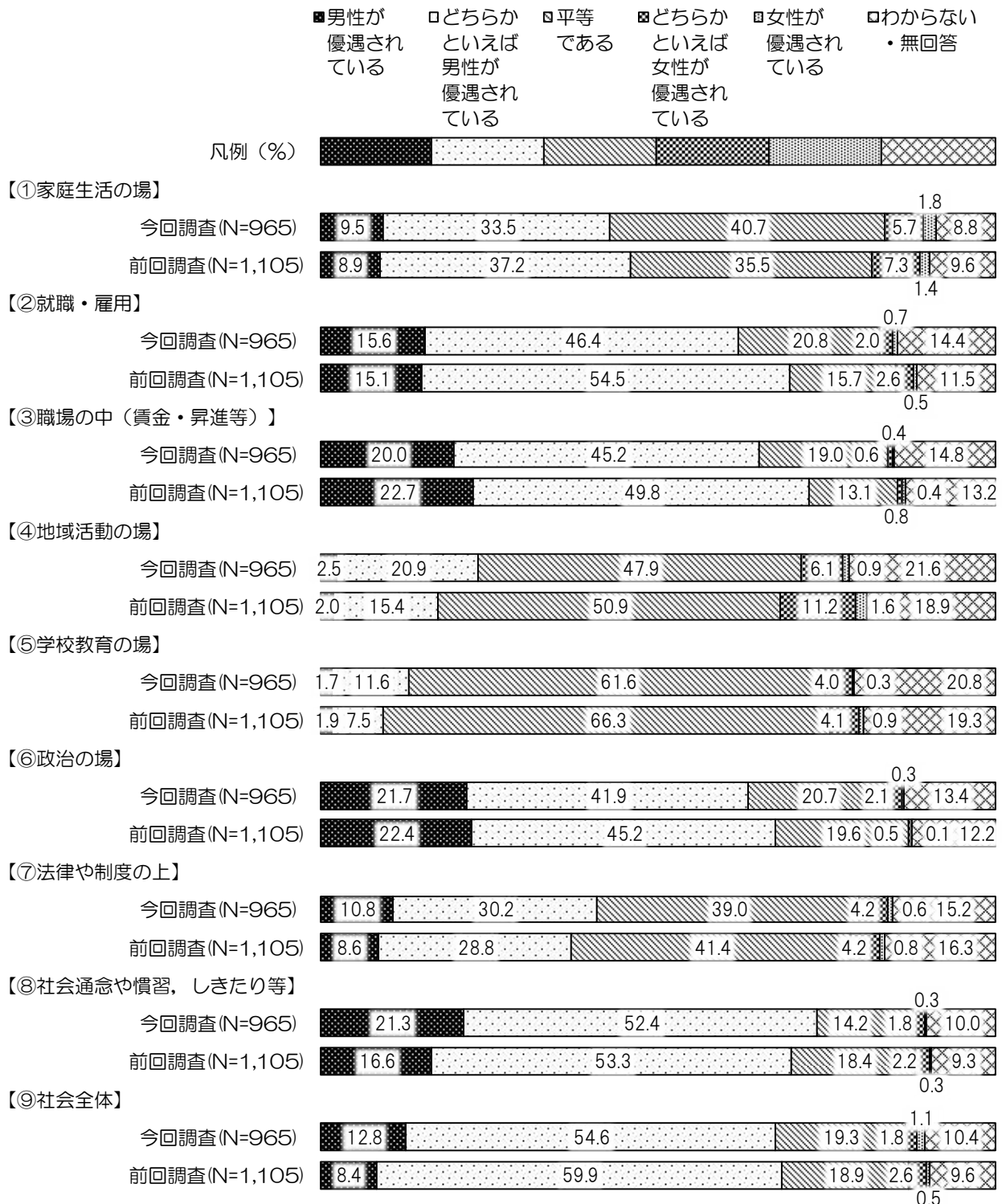


⑨社会全体



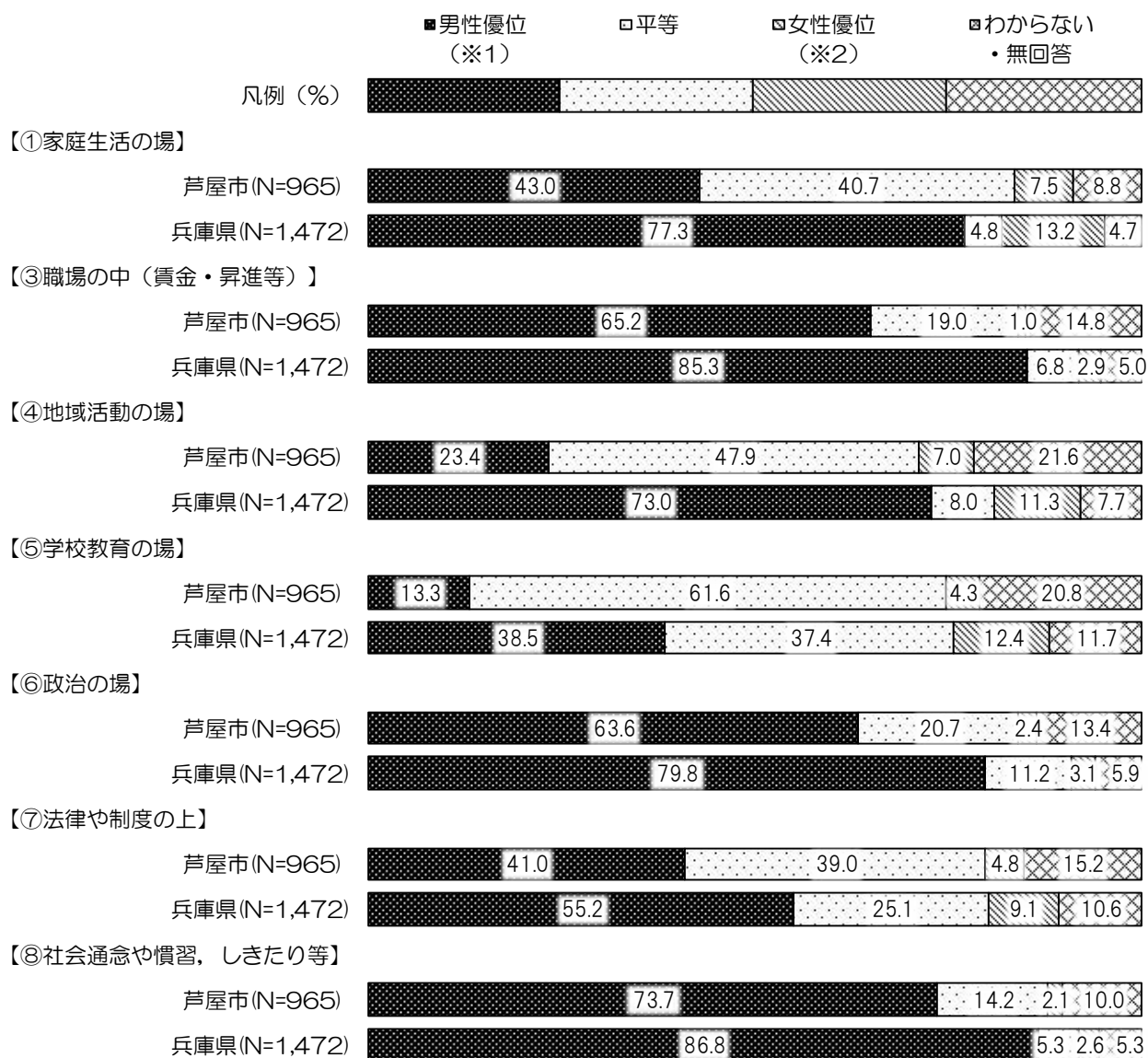
参考／前回調査との比較

①家庭生活の場、②就職・雇用、③職場の中（賃金・昇進等）、⑥政治の場については前回調査よりも『男性優遇』の割合が低くなっていますが、⑨社会全体については大きな変化はみられません。



参考／兵庫県との比較

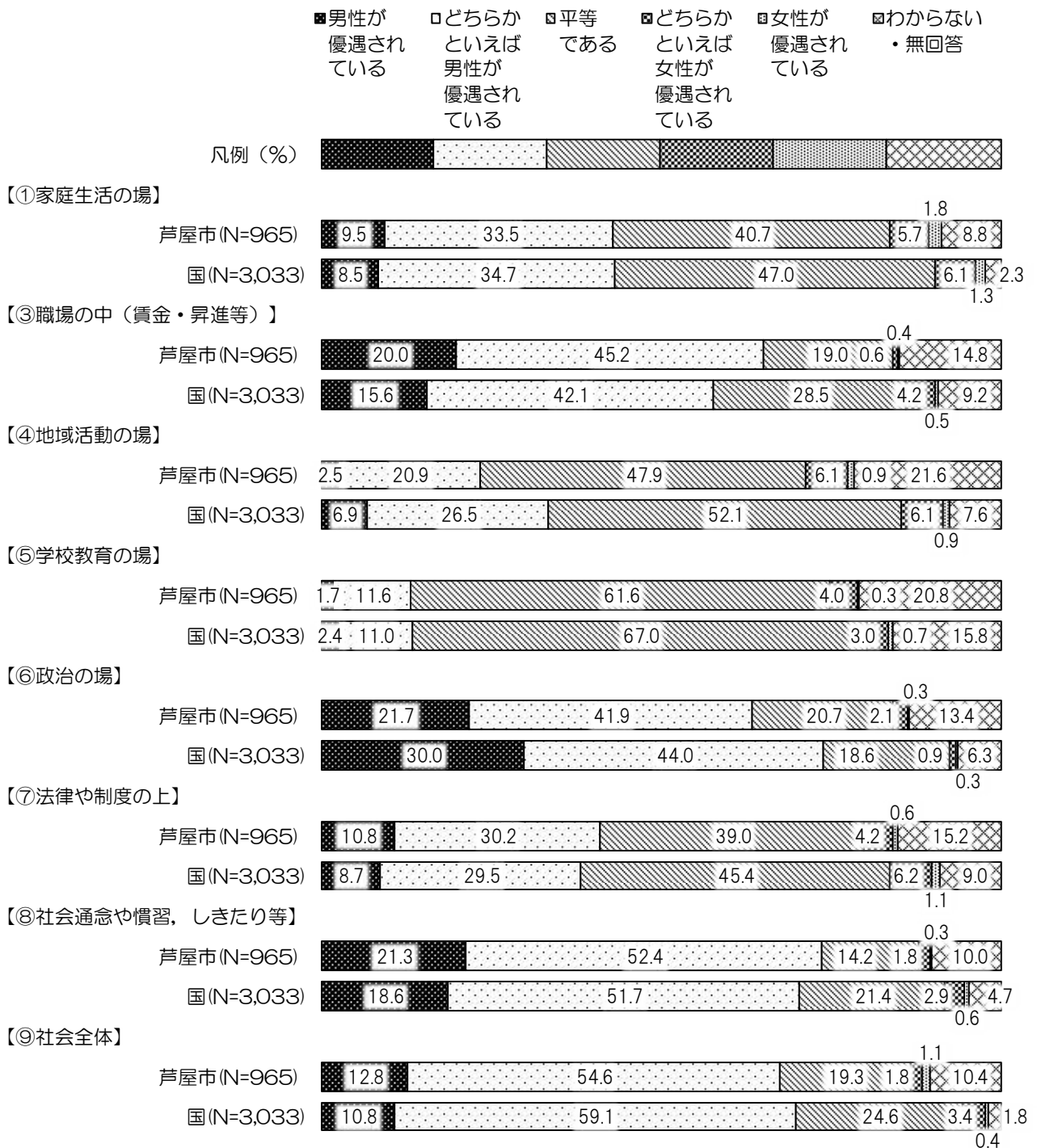
すべての分野において、兵庫県よりも『男性優遇』の割合が低くなっていて、特に①家庭生活の場、④地域活動の場、⑤学校教育の場については大幅に低くなっています。



(※1)『男性優位』は、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計値。
 (※2)『女性優位』は、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計値。
 (※3)兵庫県では「優位」という言葉を使用。

参考／国との比較

④地域活動の場、⑥政治の場については国よりも『男性優遇』の割合が低くなっていますが、③職場の中（賃金・昇進等）、⑦法律や制度の上、⑧社会通念や慣習、しきたり等については、わずかながら高くなっています。



【2】結婚・家庭生活について

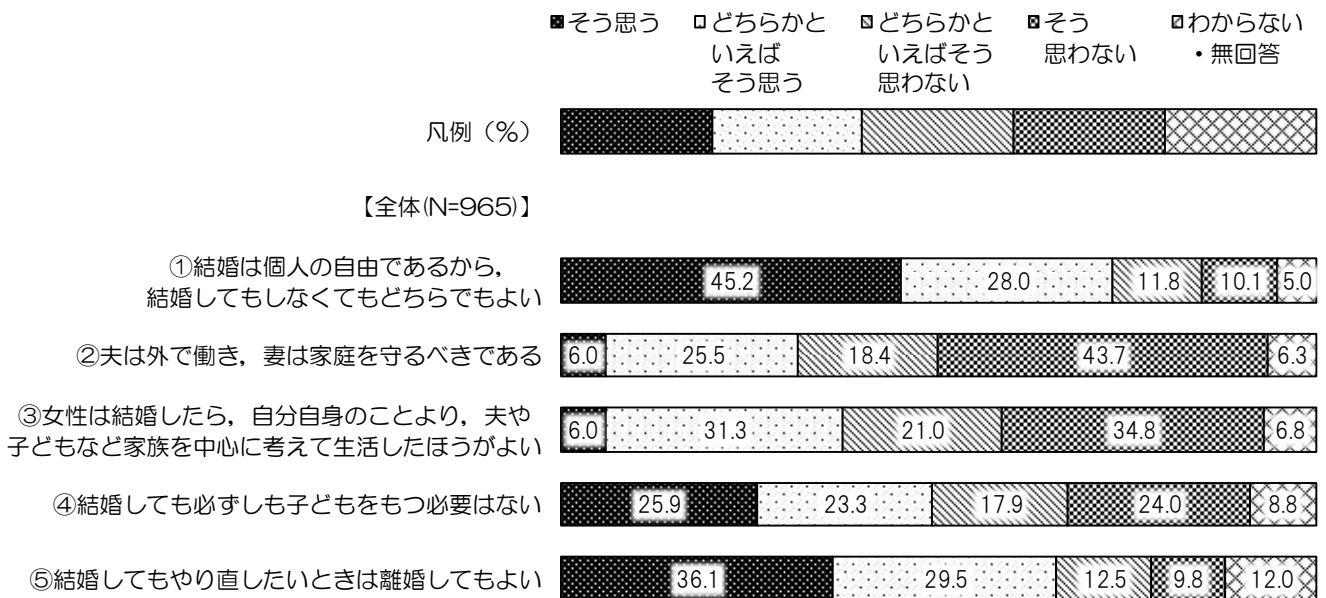
1 結婚・家庭生活に関する考え

問8. 結婚・家庭生活について、あなたのお考えをお聞かせください。

(○はそれぞれ1つずつ)

結婚・家庭生活に関する考えについて、『賛成意向*』の割合が高い順に「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(73.2%)、「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」(65.6%)となっています。

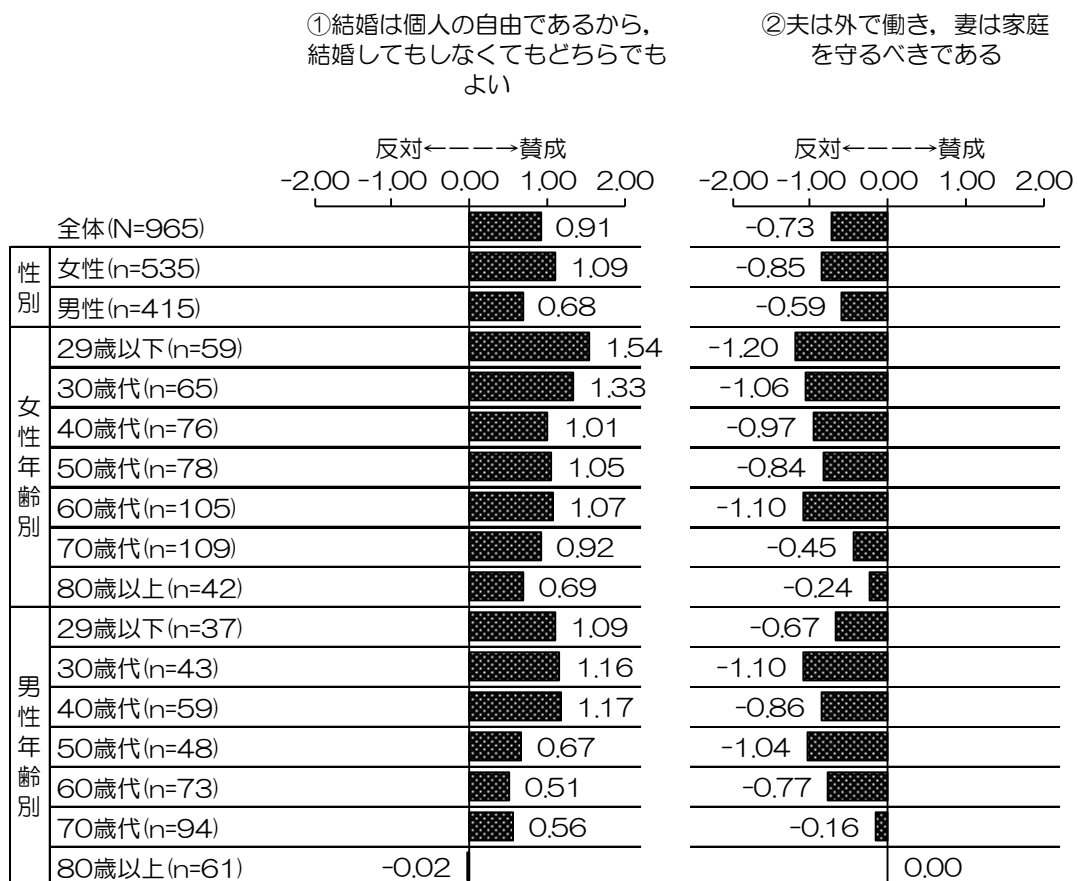
逆に『反対意向*』の割合が高い順では、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(62.1%)、「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」(55.8%)となっています。



※「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて『賛成意向』, 「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせて『反対意向』としています。

加重平均値*による属性別傾向をみると、性別では、男性に比べて女性で特に「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「④結婚してもしなくても子どもをもつ必要はない」「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」の『賛成意向』の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、男女とも若い年齢層ほど『賛成意向』の割合がおおむね高くなる傾向にあります。「④結婚してもしなくても子どもをもつ必要はない」は、女性では29歳以下や30歳代で『賛成意向』の割合が高い一方で、男性では50歳代以上で『反対意向』の割合が高くなっています。また、「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」は、男性30～40歳代で『反対意向』の割合が他の層に比べて高くなっています。

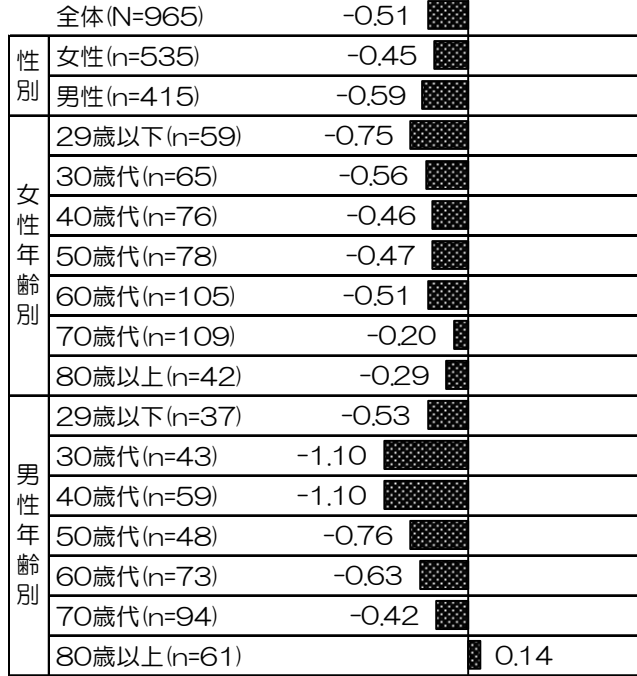


※加重平均値による属性別傾向

加重平均値とは、「そう思わない」に－2点、「どちらかといえばそう思わない」に－1点、「どちらかといえばそう思う」に＋1点、「そう思う」に＋2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、－2点に近いほど反対、＋2点に近いほど賛成を示す指標です。

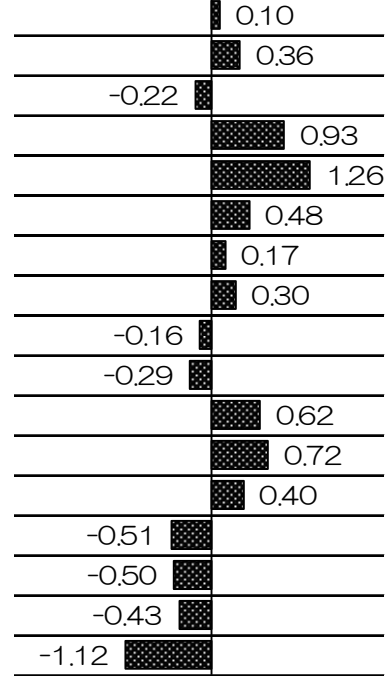
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい

反対 ← — — — → 賛成
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



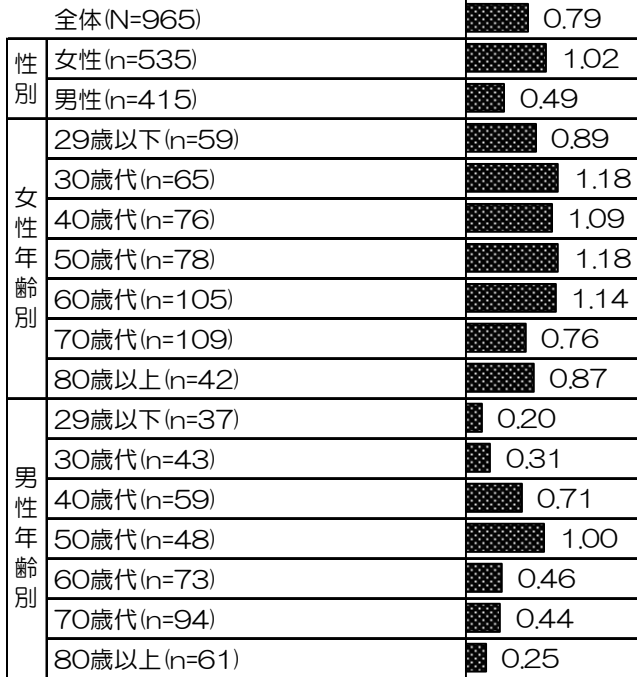
④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

反対 ← — — — → 賛成
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



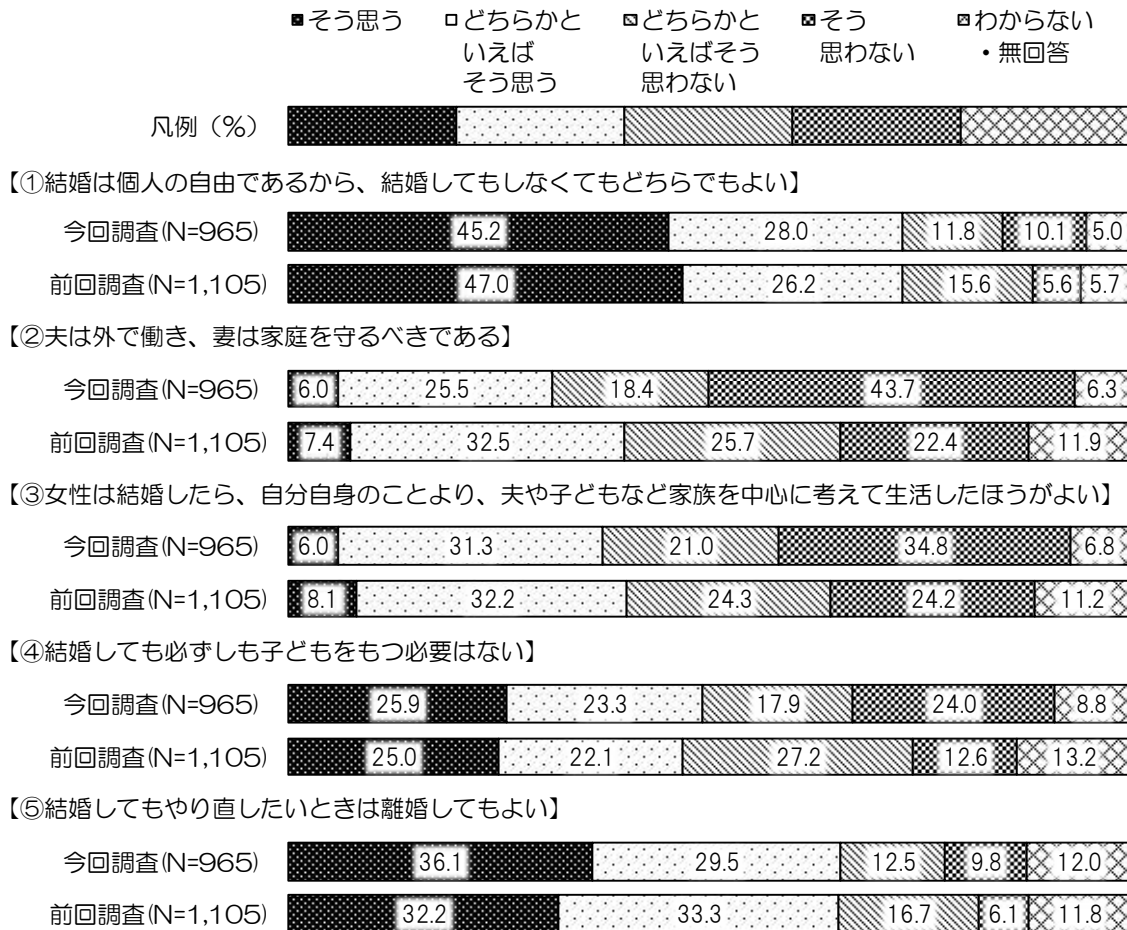
⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい

反対 ← — — — → 賛成
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



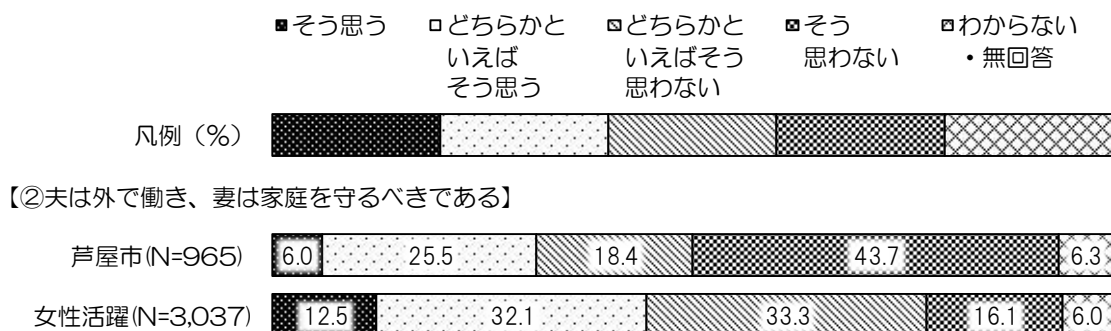
参考／前回調査との比較

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるについては前回調査よりも『賛成意向』の割合が8.4ポイント低くなっています。その他の項目については大きな変化はみられません。



参考／女性活躍との比較

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるについては『賛成意向』の割合が13.1ポイント低くなっています。

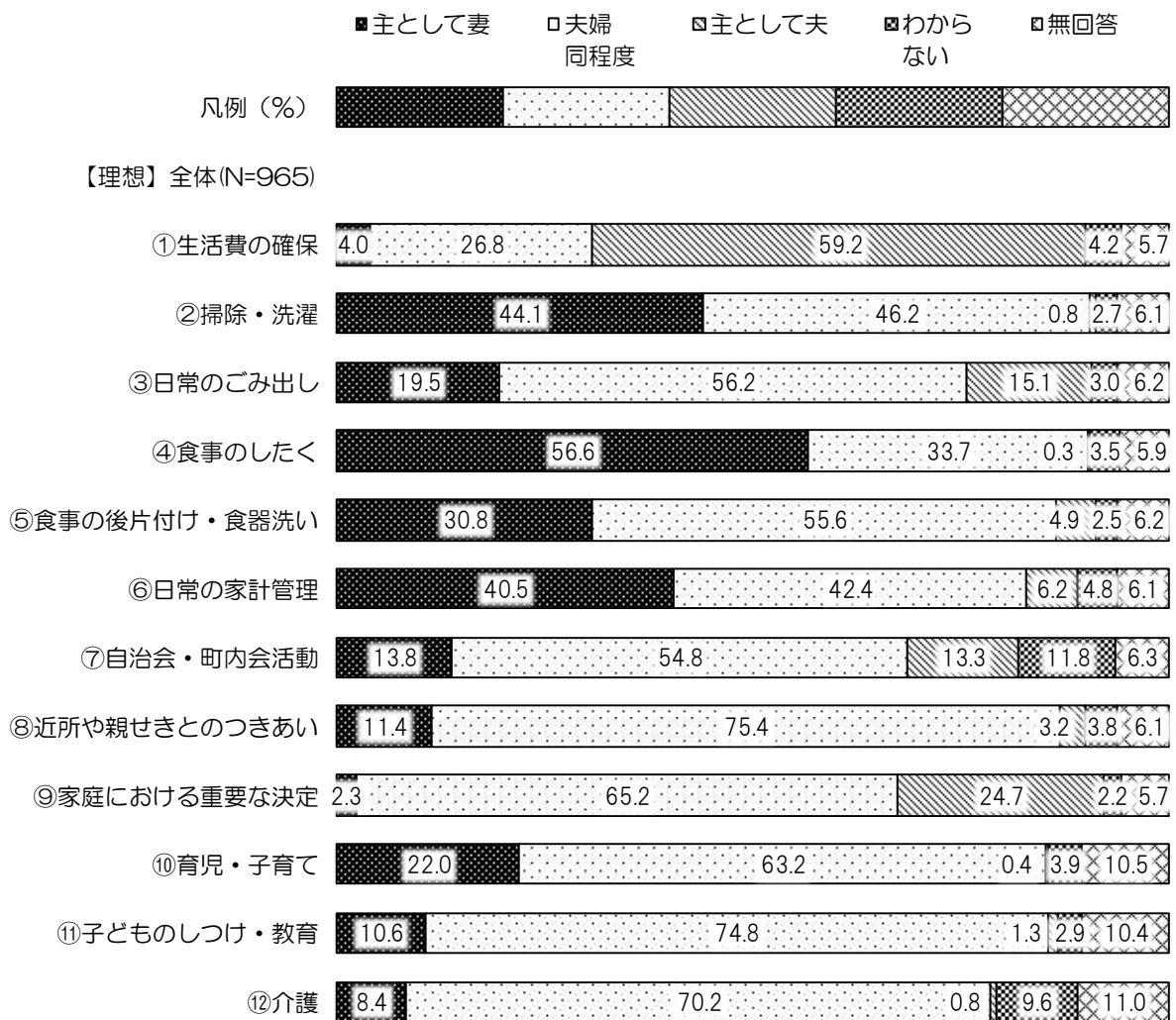


2 家庭内の仕事の分担について

問9. 次にあげる家庭でのことがらに関する夫婦の分担について、おたずねします。
 (A, Bとも〇はそれぞれ1つずつ)

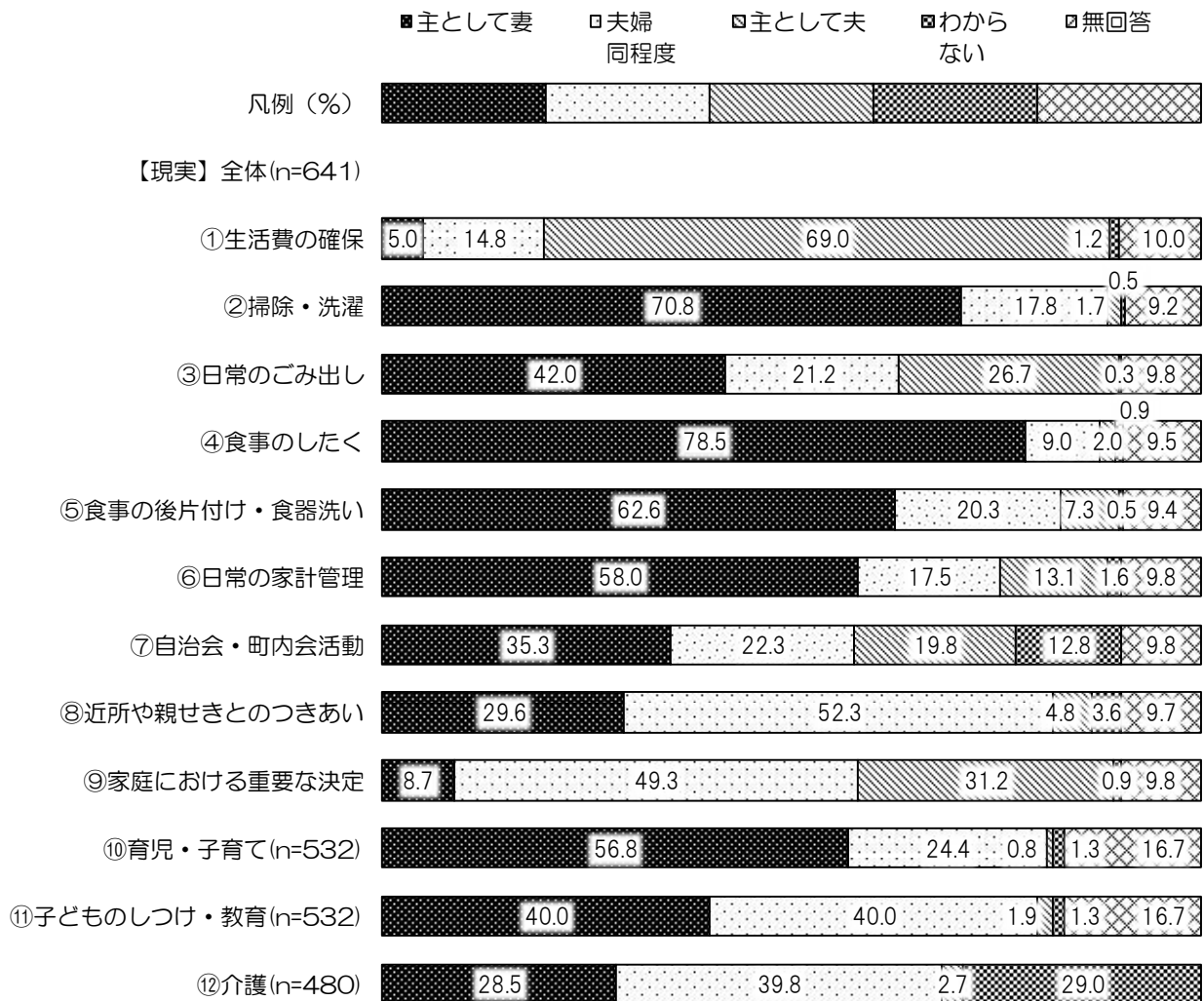
(1) 理想とする分担

理想とする分担について、「④食事のしたく」は「主として妻」、「①生活費の確保」は「主として夫」の割合がそれぞれ高くなっています。また、「⑧近所や親せきとのつきあい」「⑪子どものしつけ・教育」「⑫介護」は「夫婦同程度」の割合が高くなっています。



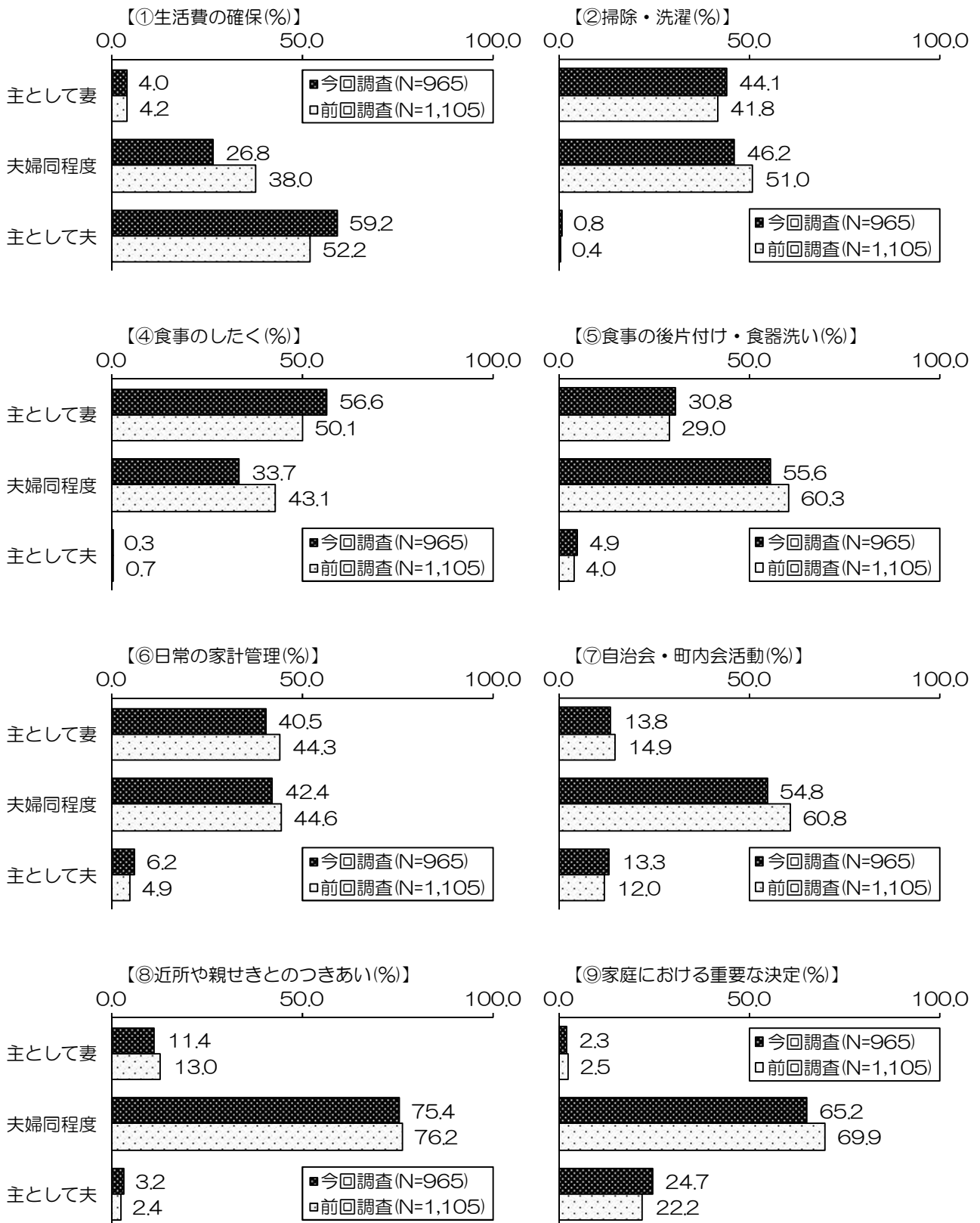
(2) 現実の分担

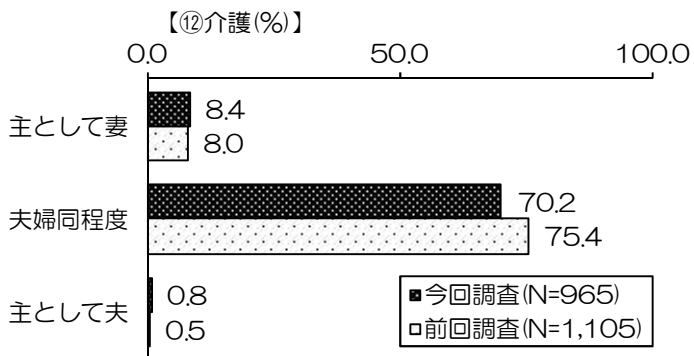
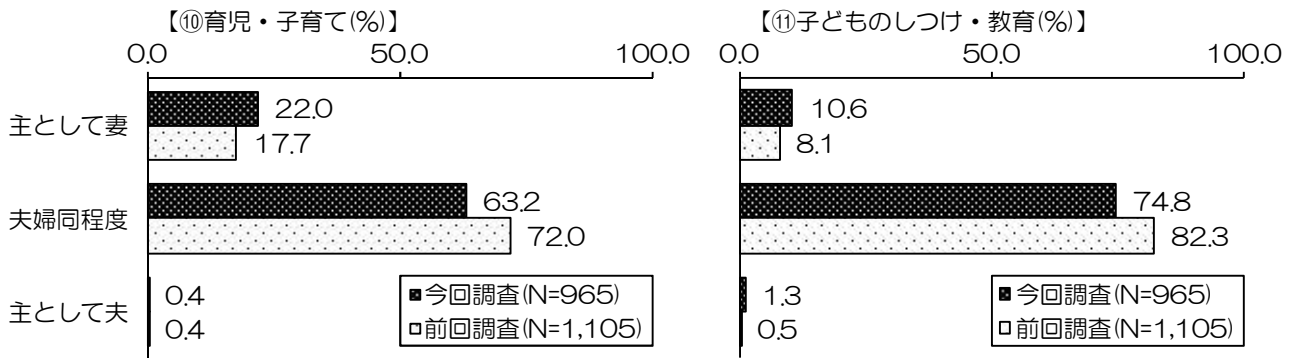
現実の分担について、「④食事のしたく」「②掃除・洗濯」「⑤食事の後片付け・食器洗い」「⑥日常の家計管理」「⑩育児・子育て」は「主として妻」,「①生活費の確保」は「主として夫」の割合が高くなっています。また、「⑧近所や親せきとのつきあい」「⑨家庭における重要な決定」は「夫婦同程度」の割合が高くなっています。



参考／前回調査との比較（理想）

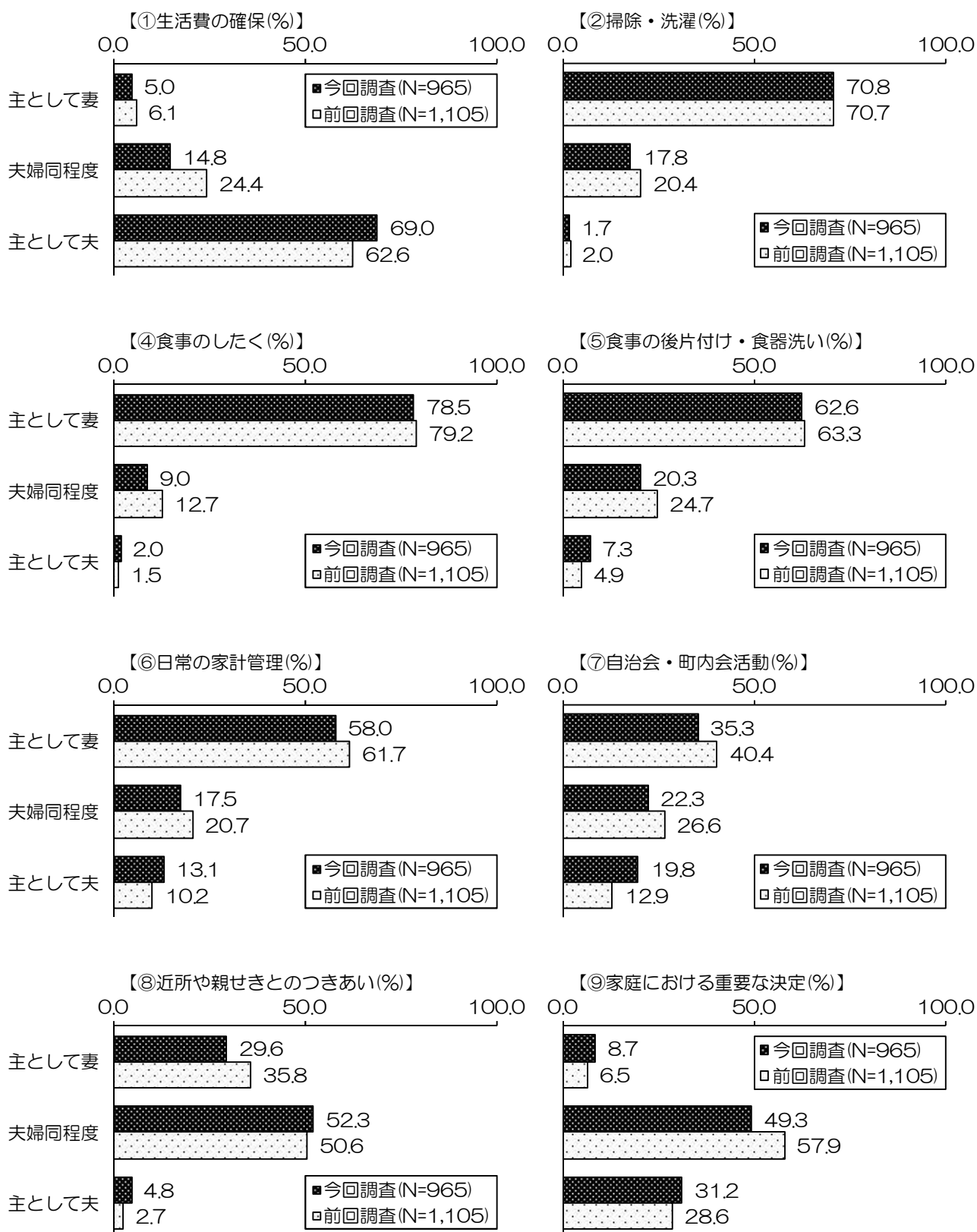
① 活費の確保については前回調査よりも「夫婦同程度」の割合が 11.2 ポイント低くなり、②掃除・洗濯、④食事のしたくなどの【家事】や⑩育児・子育てについては「主として妻」の割合がわずかながら高くなっています。

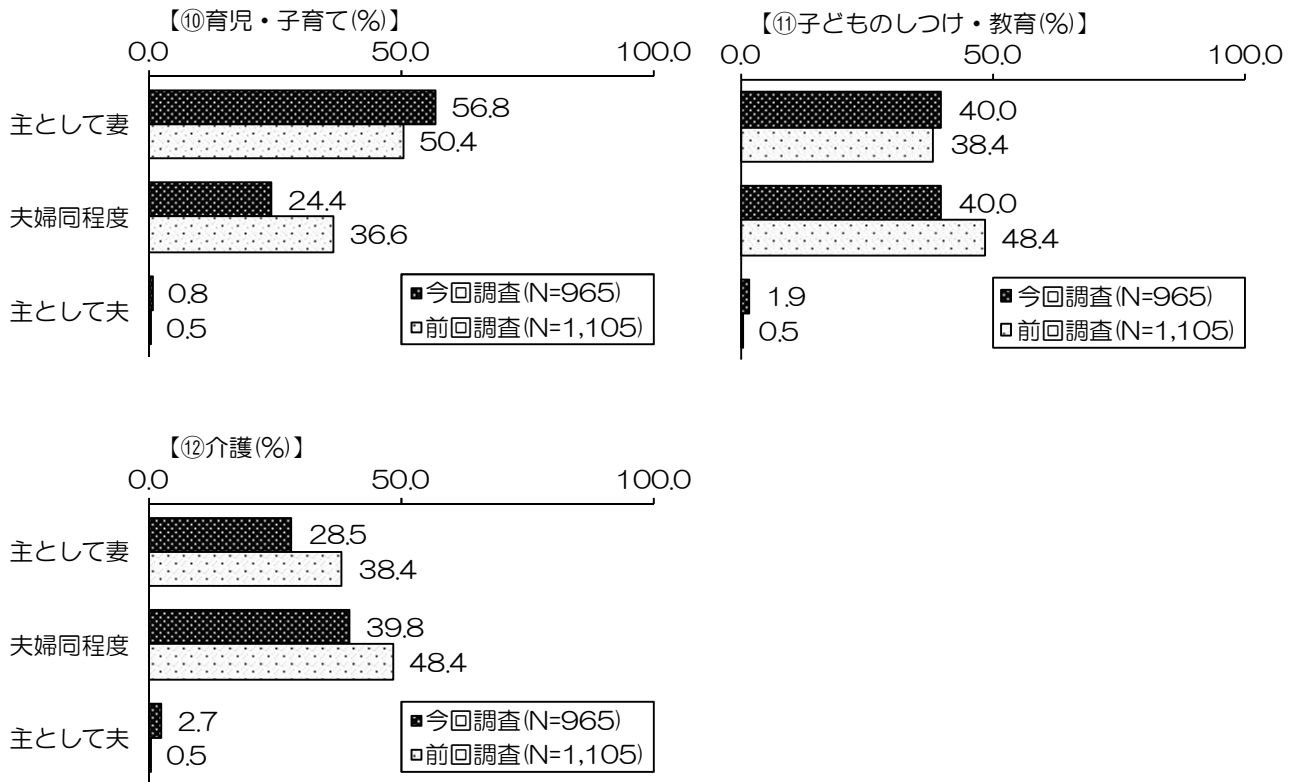




参考／前回調査との比較（現実）

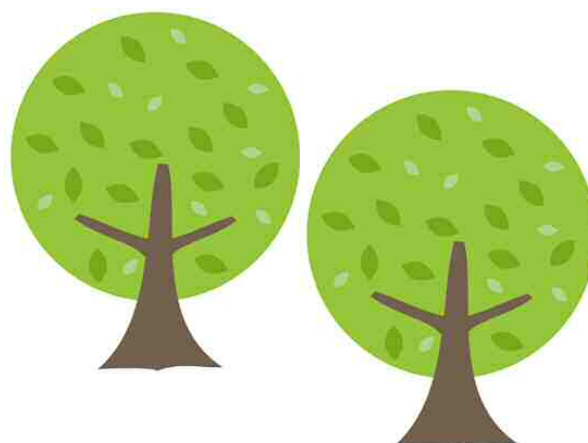
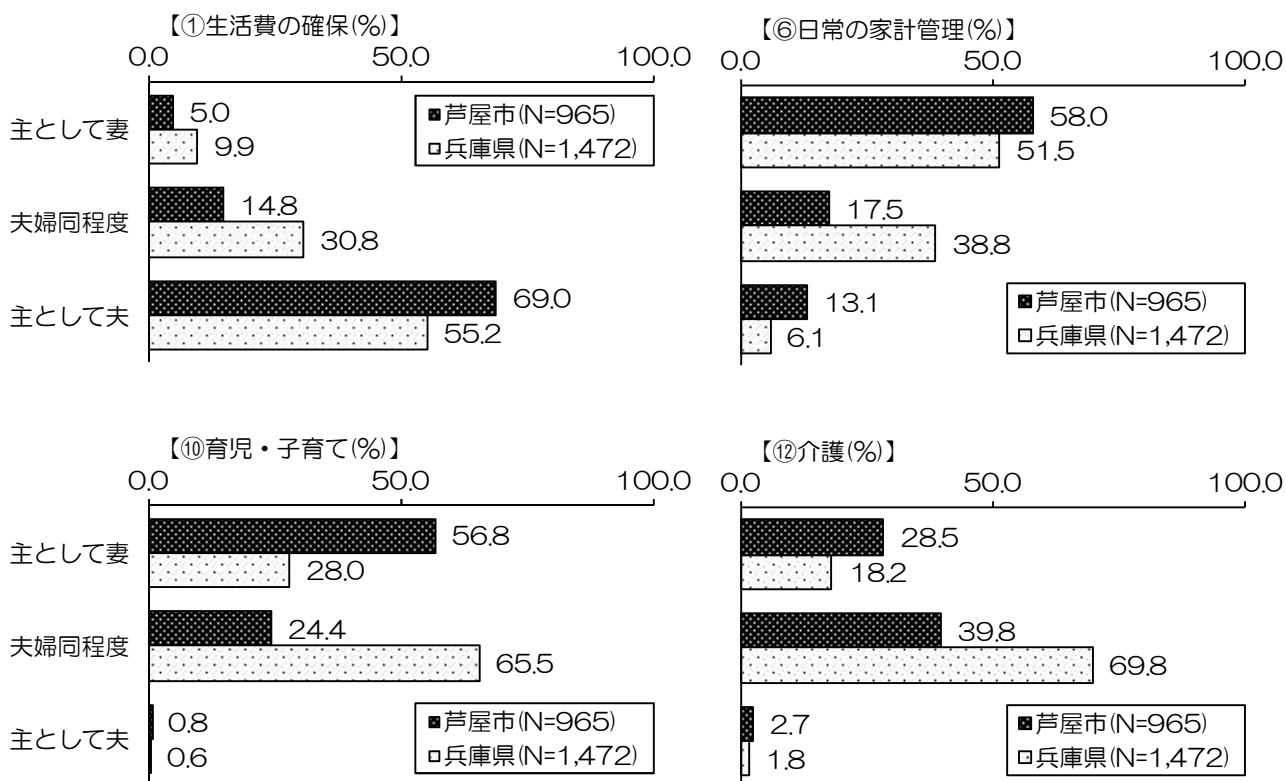
①生活費の確保については前回調査よりも「夫婦同程度」の割合が9.6ポイント低くなり、⑩育児・子育て、⑪子どものしつけ・教育については「主として妻」の割合がわずかながら高くなっています。





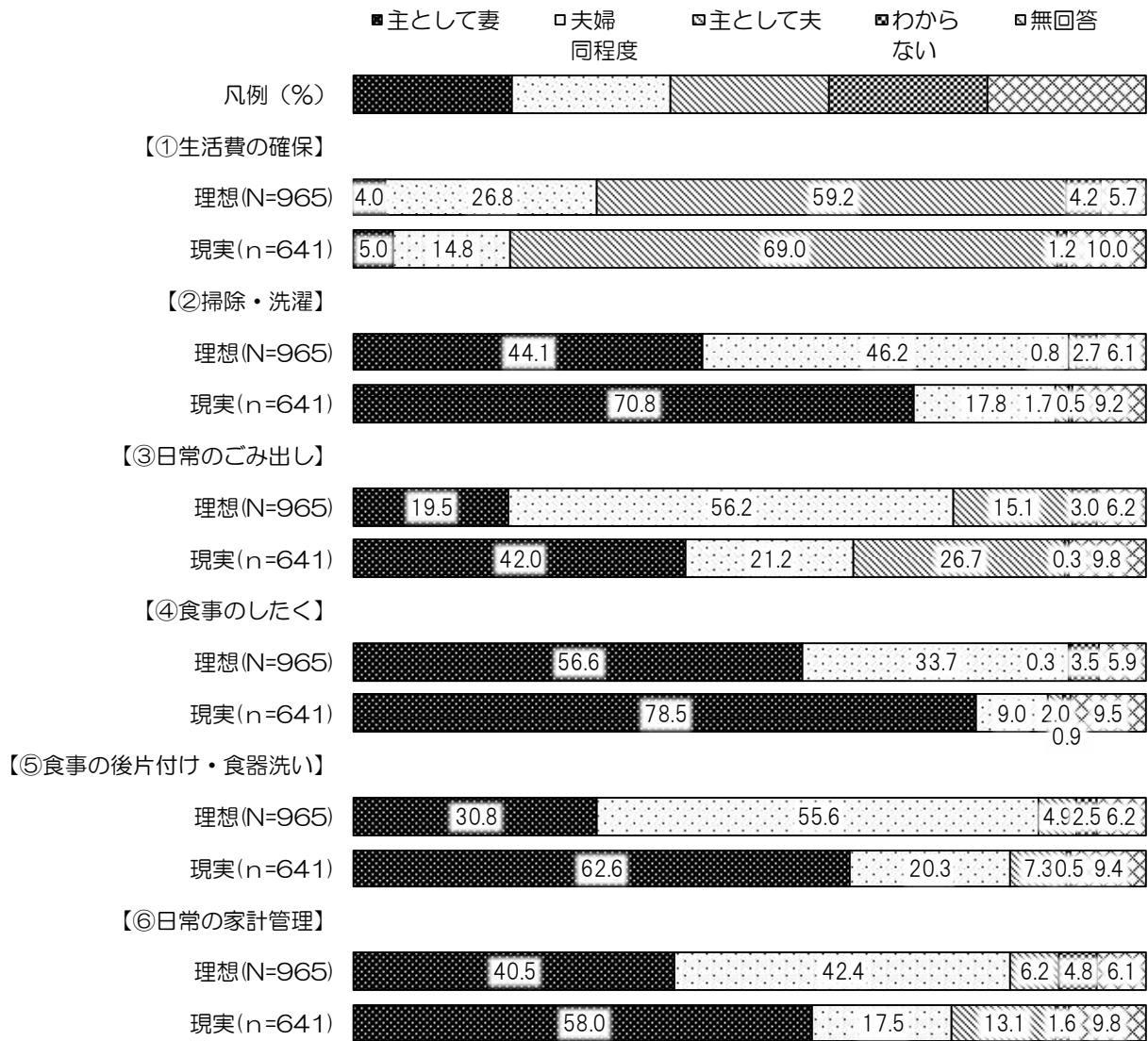
参考／兵庫県との比較（現実）

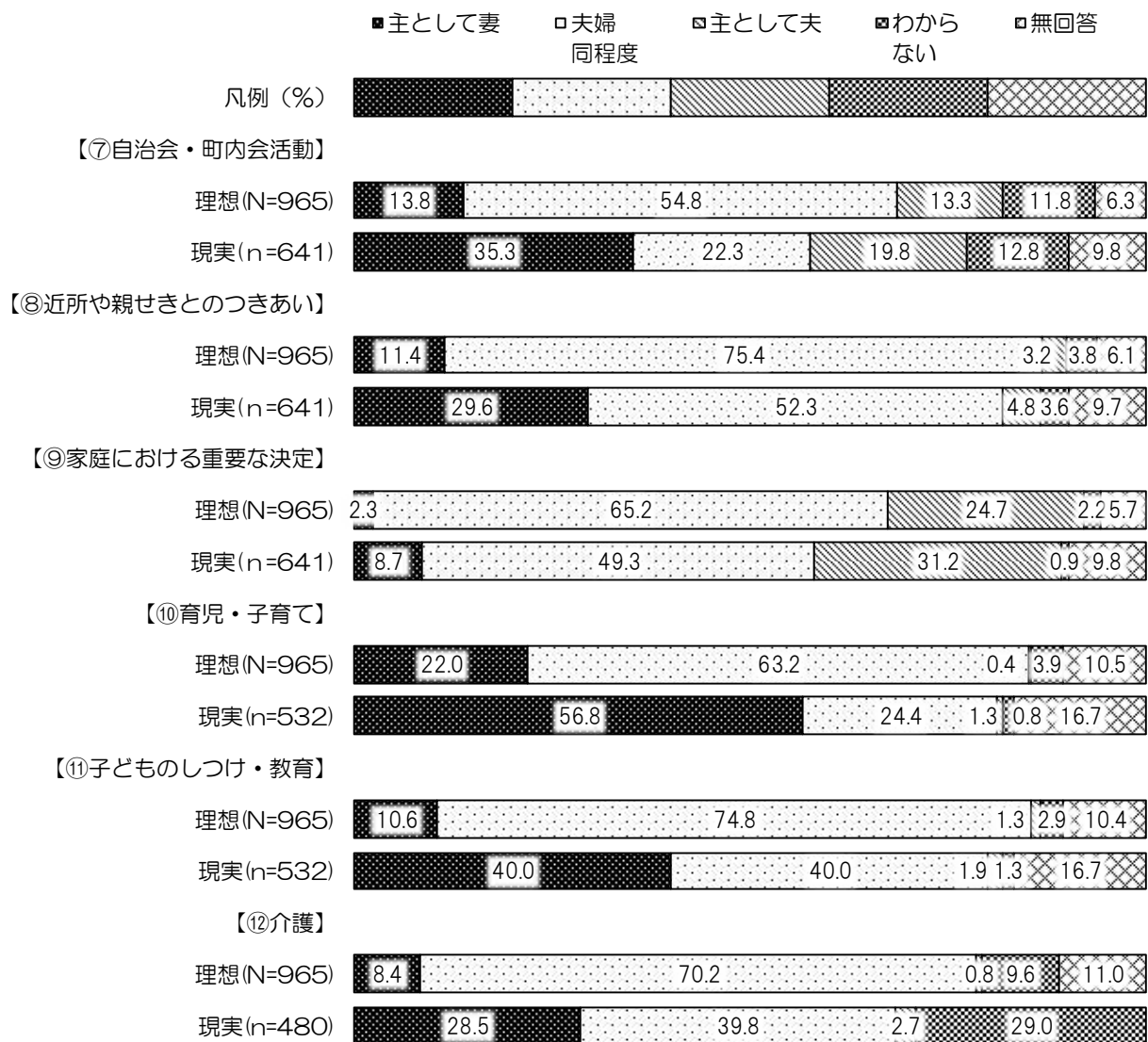
①生活費の確保については兵庫県よりも「主として夫」の割合が13.8ポイント高い一方で、⑩育児・子育て、⑫介護については「夫婦同程度」の割合が大幅に低くなっています。



理想と現実を比較してみると、理想に比べて現実には、「②掃除・洗濯」「④食事のしたく」「⑤食事の後片付け・食器洗い」などの家事全般、「⑥日常の家計管理」「⑩育児・子育て」など家庭内の多くの仕事を「主として妻」が担っています。

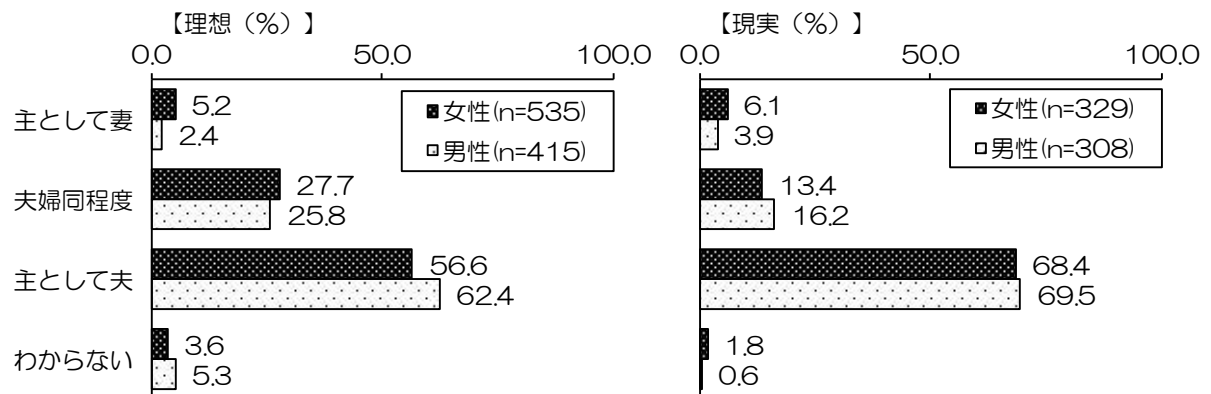
◆理想と現実の比較◆



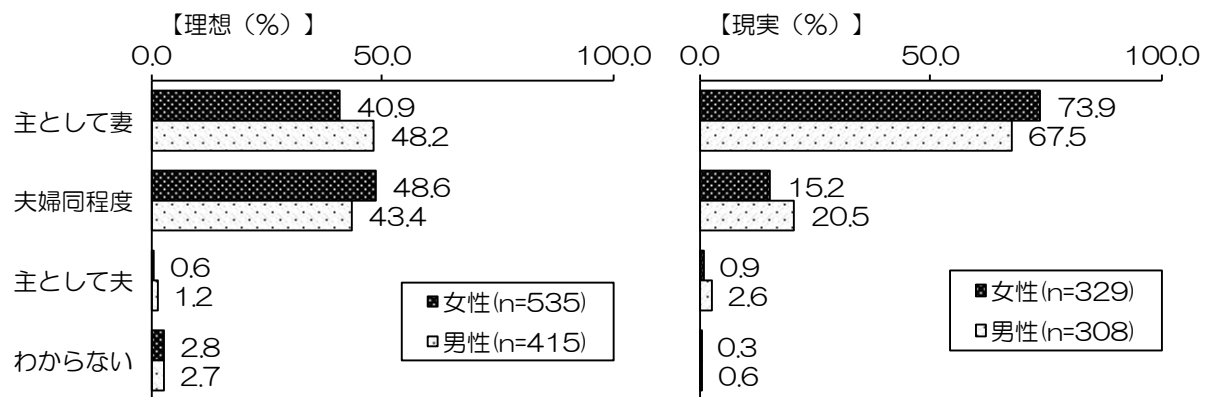


◆理想と現実の比較(性別)◆

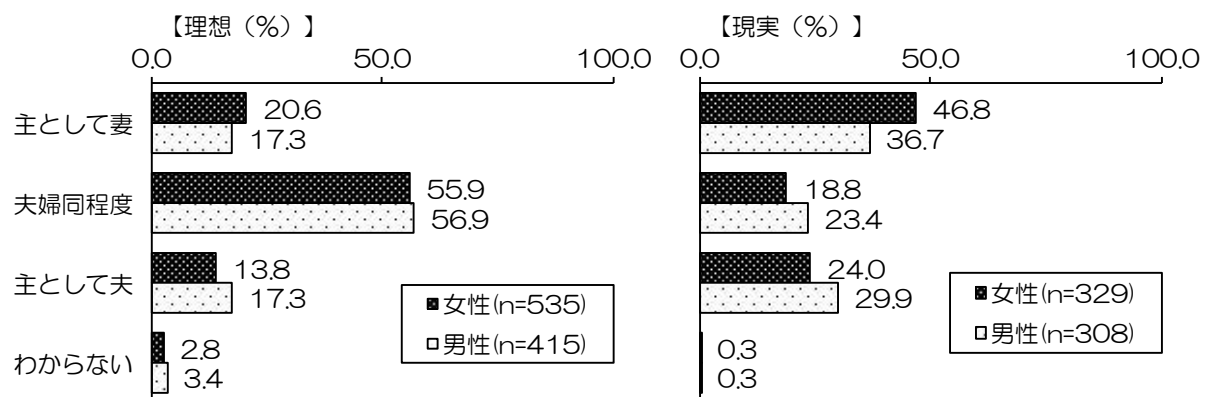
①生活費の確保



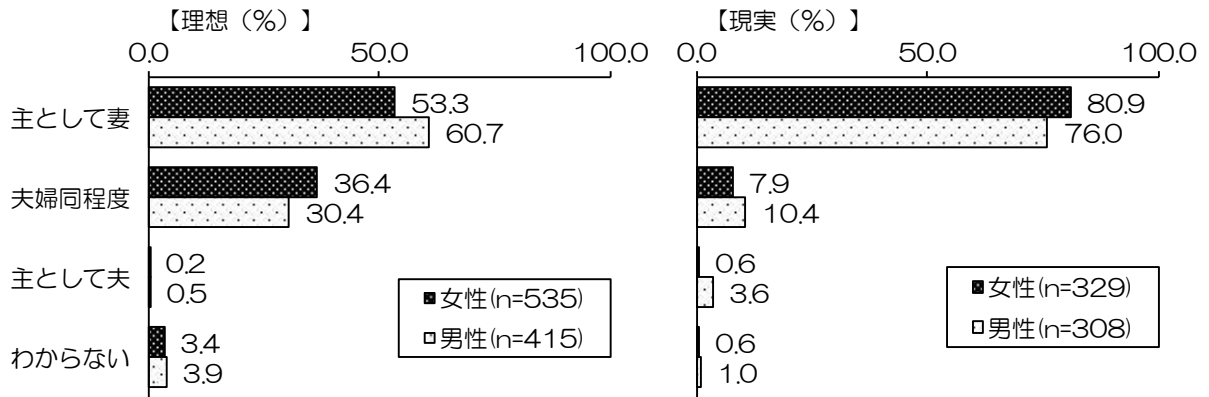
②掃除・洗濯



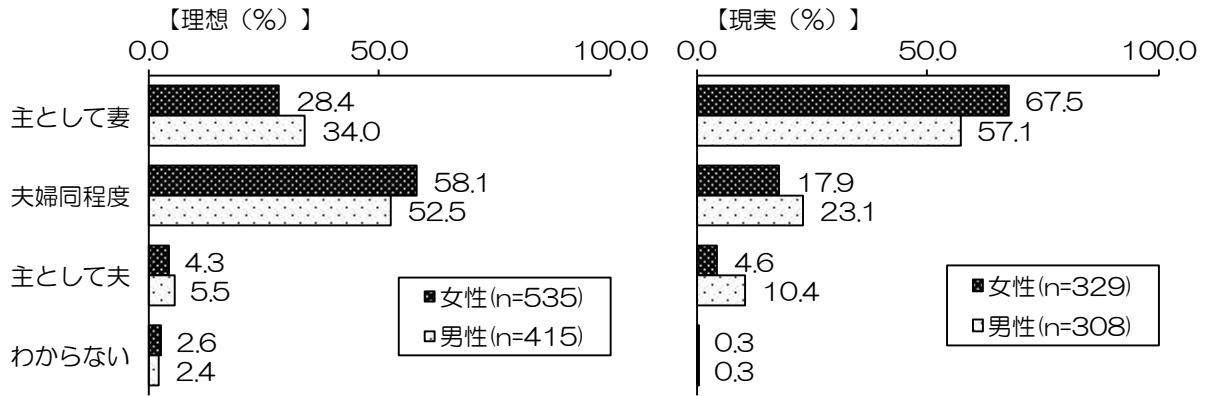
③日常のごみ出し



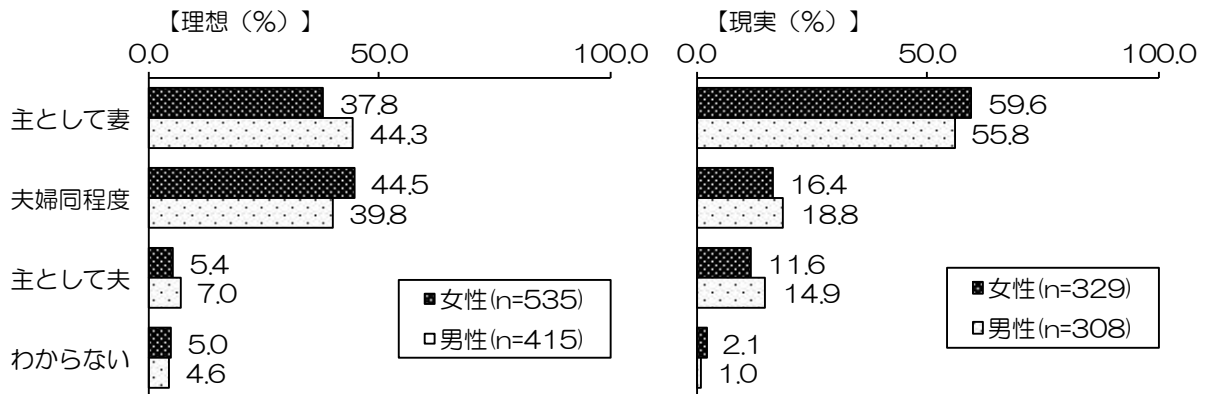
④ 食事のしたく



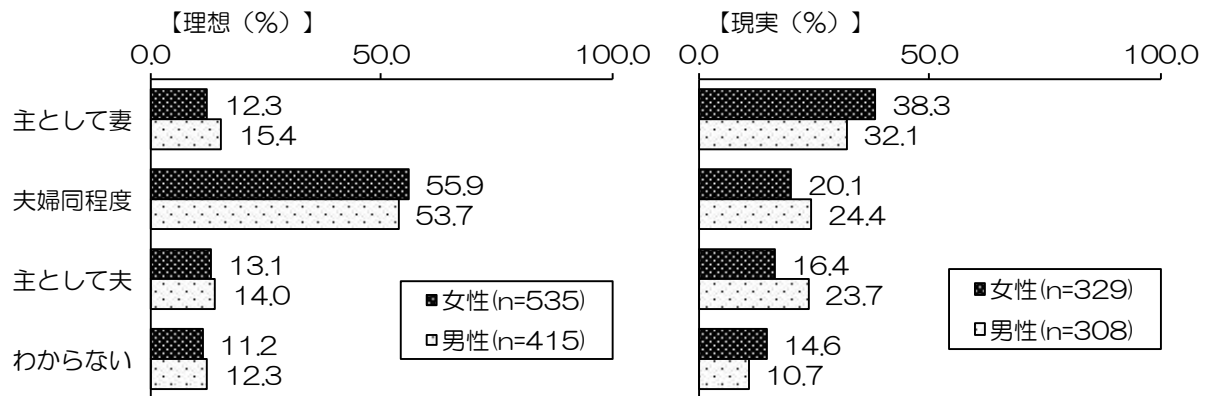
⑤ 食事の後片付け・食器洗い



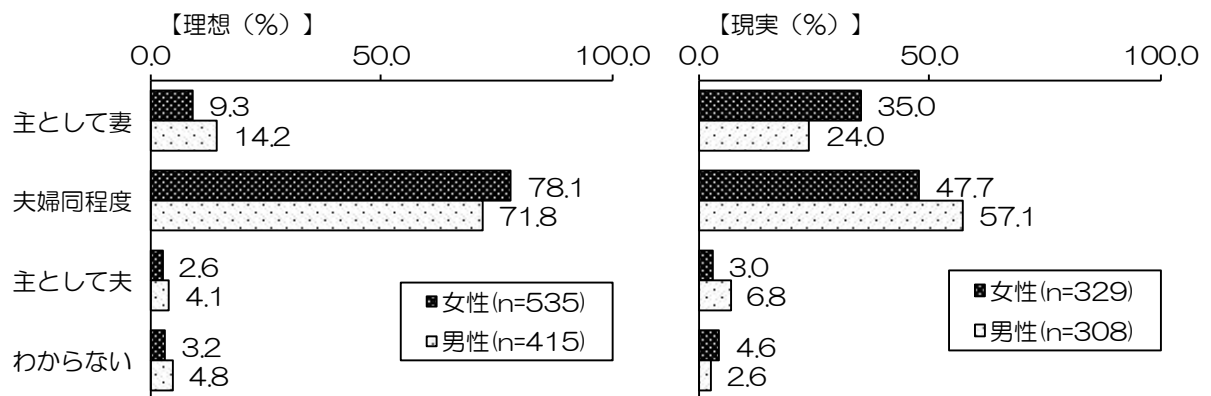
⑥ 日常の家計管理



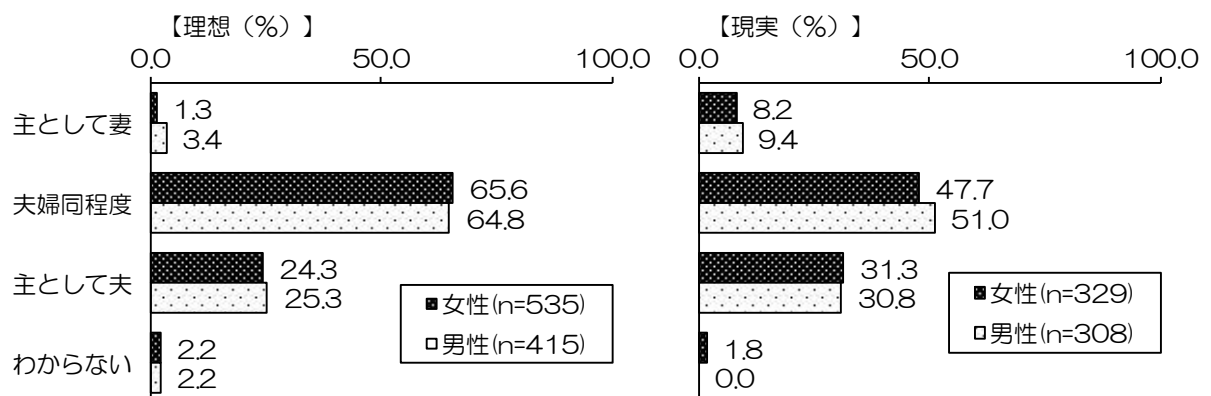
⑦ 自治会・町内会活動



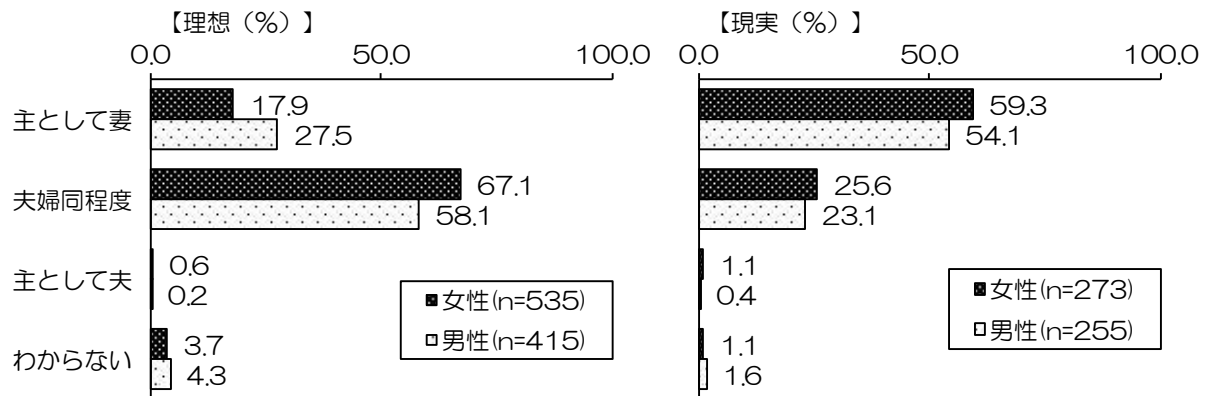
⑧ 近所や親せきとのつきあい



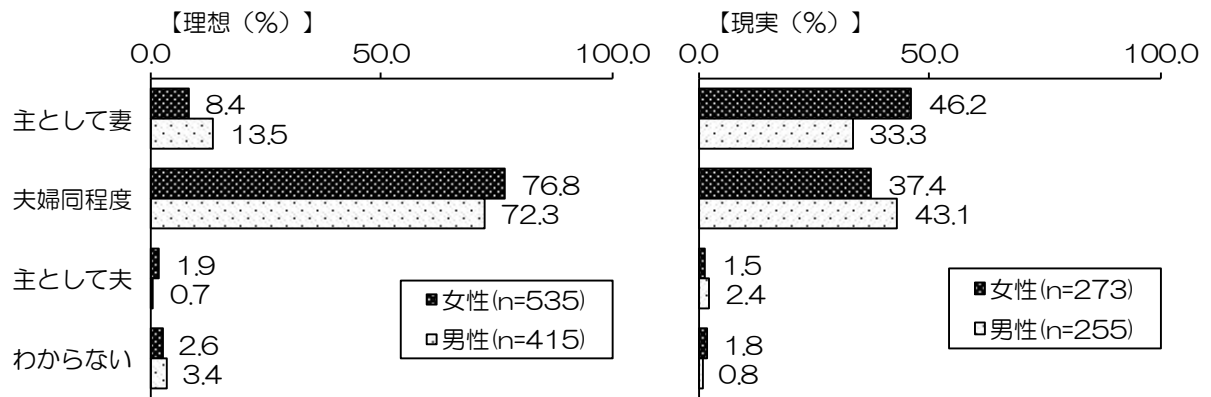
⑨ 家庭における重要な決定



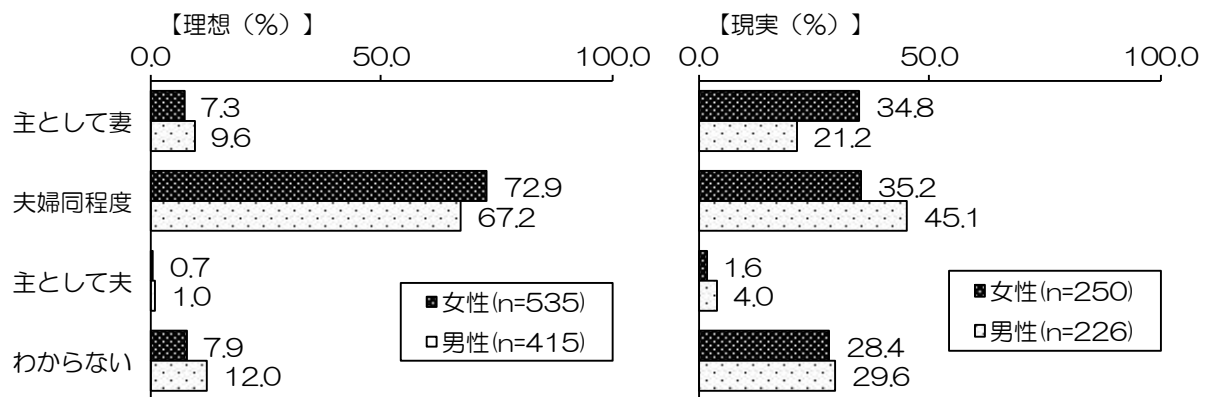
⑩ 育児・子育て



⑪ 子どものしつけ・教育



⑫ 介護

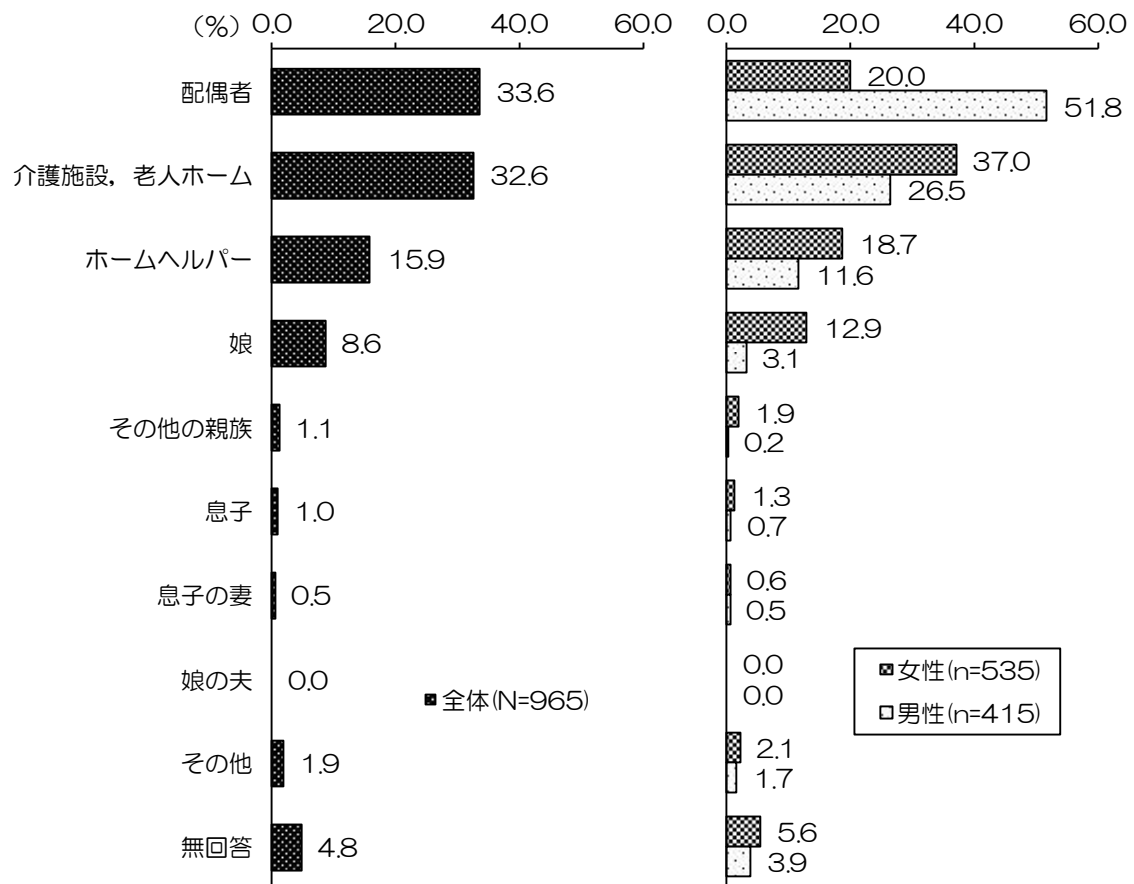


3 希望する介護者

問 10. あなたは、介護が必要になった場合（現在、介護が必要な場合）、だれに介護をしてもらいたいですか。（〇は1つ）

希望する介護者としては、「配偶者」の割合が 33.6%と最も高く、次いで「介護施設、老人ホーム」(32.6%)、「ホームヘルパー」(15.9%)、「娘」(8.6%)となっています。

性別では、女性で「介護施設、老人ホーム」の割合が最も高く、男性で「配偶者」が過半数を占めます。



性・年齢別では、年齢にかかわらずおおむね男性は「配偶者」、女性は「介護施設、老人ホーム」の割合がそれぞれ高くなっています。また、女性の30歳代と80歳以上で「娘」の割合が他の層に比べて高くなっています。

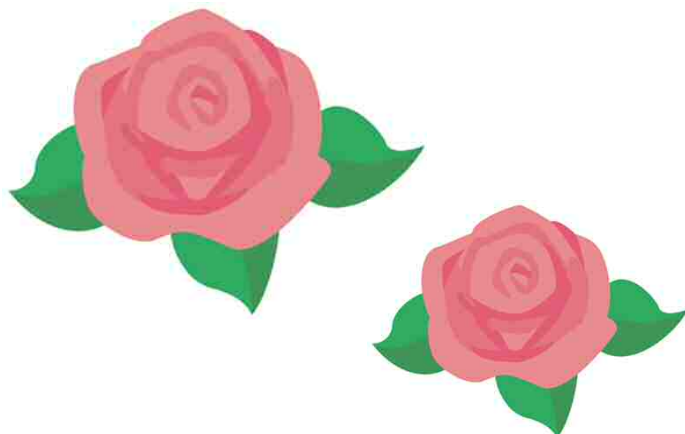
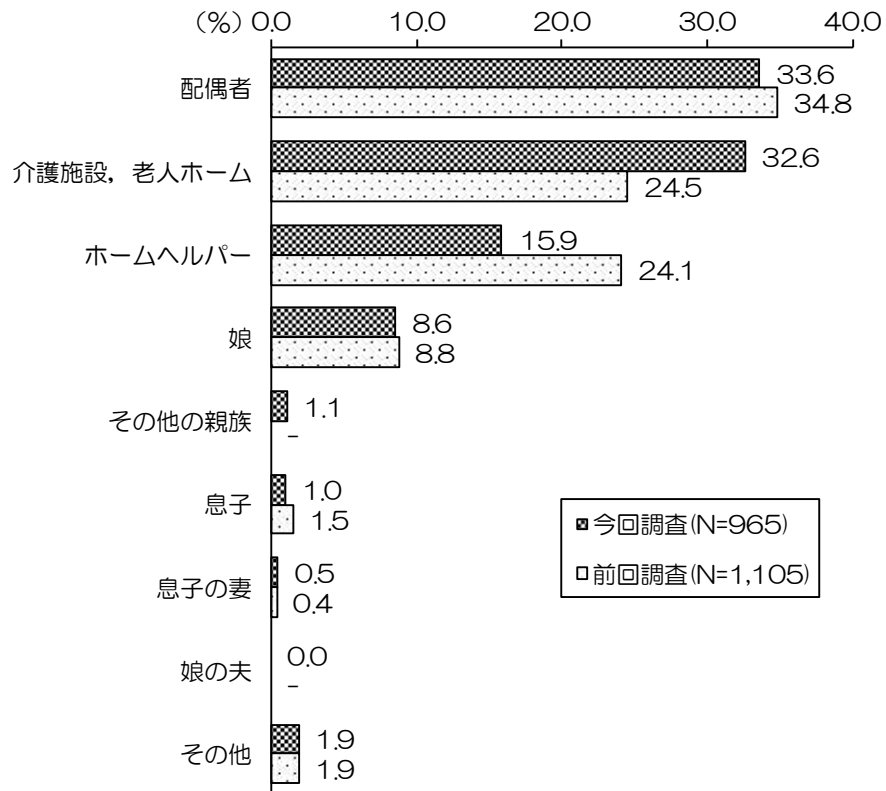
家族構成別では、単身世帯で「介護施設、老人ホーム」「ホームヘルパー」の割合が高くなっています。

未既婚別では、既婚で「配偶者」の割合が高くなっています。

単位 (%)		サンプル数 (件)	配偶者	介護施設・老人ホーム	ホームヘルパー	娘	その他の親族	息子	息子の妻	娘の夫	その他
全体		965	33.6	32.6	15.9	8.6	1.1	1.0	0.5	0.0	1.9
【性・年齢別】											
女性	29歳以下	59	23.7	28.8	16.9	11.9	3.4	0.0	0.0	0.0	5.1
	30歳代	65	24.6	26.2	18.5	20.0	1.5	1.5	0.0	0.0	3.1
	40歳代	76	23.7	44.7	15.8	10.5	0.0	1.3	0.0	0.0	1.3
	50歳代	78	15.4	46.2	20.5	9.0	2.6	1.3	0.0	0.0	0.0
	60歳代	105	23.8	35.2	18.1	12.4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	70歳代	109	16.5	34.9	22.9	11.0	2.8	3.7	0.9	0.0	2.8
	80歳以上	42	9.5	42.9	14.3	21.4	2.4	0.0	4.8	0.0	0.0
男性	29歳以下	37	35.1	27.0	16.2	2.7	0.0	2.7	0.0	0.0	8.1
	30歳代	43	48.8	30.2	16.3	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3
	40歳代	59	52.5	27.1	13.6	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	1.7
	50歳代	48	43.8	35.4	8.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
	60歳代	73	53.4	27.4	11.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳代	94	56.4	27.7	10.6	3.2	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
	80歳以上	61	60.7	13.1	8.2	6.6	1.6	0.0	1.6	0.0	1.6
【家族構成別】											
単身世帯		116	9.5	47.4	22.4	9.5	3.4	1.7	0.0	0.0	1.7
一世代世帯		364	46.4	28.0	12.6	5.8	1.1	0.8	0.3	0.0	1.1
二世帯世帯		385	29.1	32.7	16.9	11.7	0.5	1.0	0.8	0.0	2.9
三世帯世帯		41	34.1	29.3	12.2	7.3	2.4	2.4	2.4	0.0	0.0
その他の世帯		19	52.6	21.1	15.8	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【未既婚別】											
未婚		177	23.2	33.9	17.5	7.9	4.0	0.6	0.0	0.0	6.8
既婚		766	36.4	32.2	15.4	8.7	0.5	1.2	0.7	0.0	0.8

参考／前回調査との比較

「介護施設、老人ホーム」については、前回調査よりも8.1ポイント高い一方で、「ホームヘルパー」については8.2ポイント低くなっています。



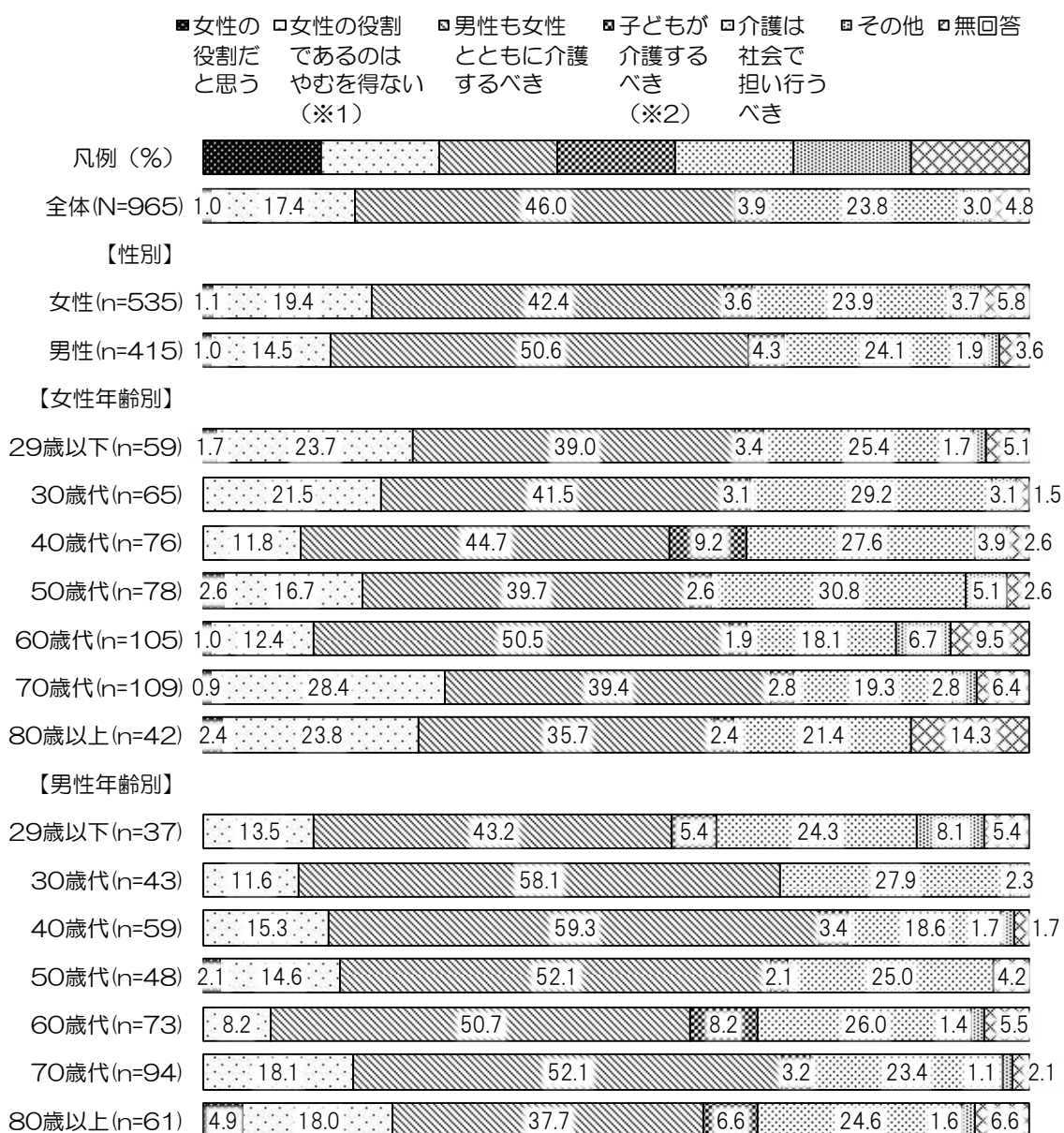
4 家族介護についての考え

問 11. あなたは、家族の介護について、どのように考えますか。(〇は1つ)

家族介護についての考えは、「男性も女性とともに介護すべき」が46.0%と最も高く、次いで「介護は社会で担い行うべき」(23.8%), 「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」(17.4%)の順となっています。

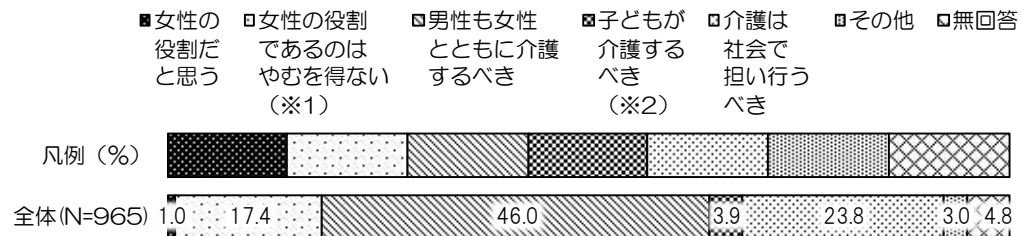
性別では、女性で「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」がやや高くなっていますが、大きな差は目立ちません。

性・年齢別では、女性70歳代で「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」、男性30~40歳代で「男性も女性とともに介護すべき」が他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

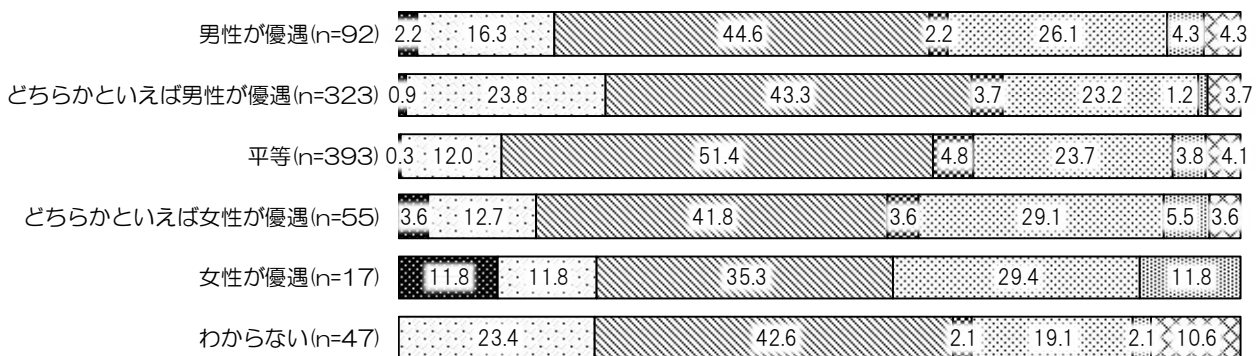


(※1) 女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない
 (※2) 性別にかかわらず子どもが介護するべき

男女の平等意識「①家庭生活の場」での評価別では、どちらかといえば男性が優遇と評価する層で「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」が高く、女性が優遇と評価する層で「女性の役割だと思う」が高くなっています。



【男女の平等意識「①家庭生活の場」での評価別】



(※1)女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない

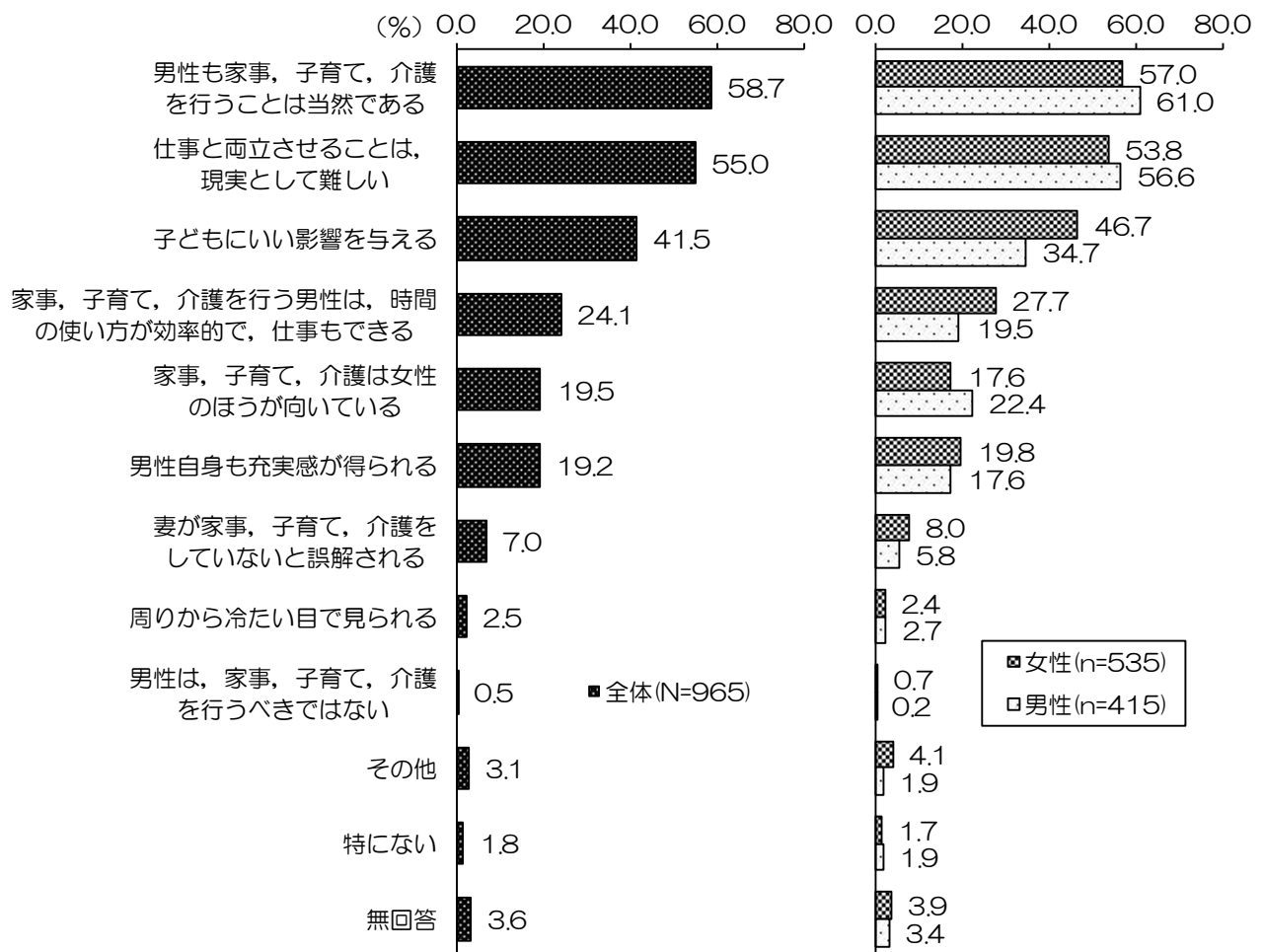
(※2)性別にかかわらず子どもが介護すべき

5 男性が家事や子育て等を行うイメージについて

問 12. あなたは、男性が家事、子育て、介護を行うことについて、どのようなイメージをおもちですか。（〇はいくつでも）

男性が家事や子育て等を行うイメージについては、「男性も家事、子育て、介護を行うことは当然である」の割合が 58.7%と最も高く、次いで「仕事と両立させることは、現実として難しい」（55.0%）、「子どもにいい影響を与える」（41.5%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「子どもにいい影響を与える」「家事、子育て、介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」の割合が高くなっています。

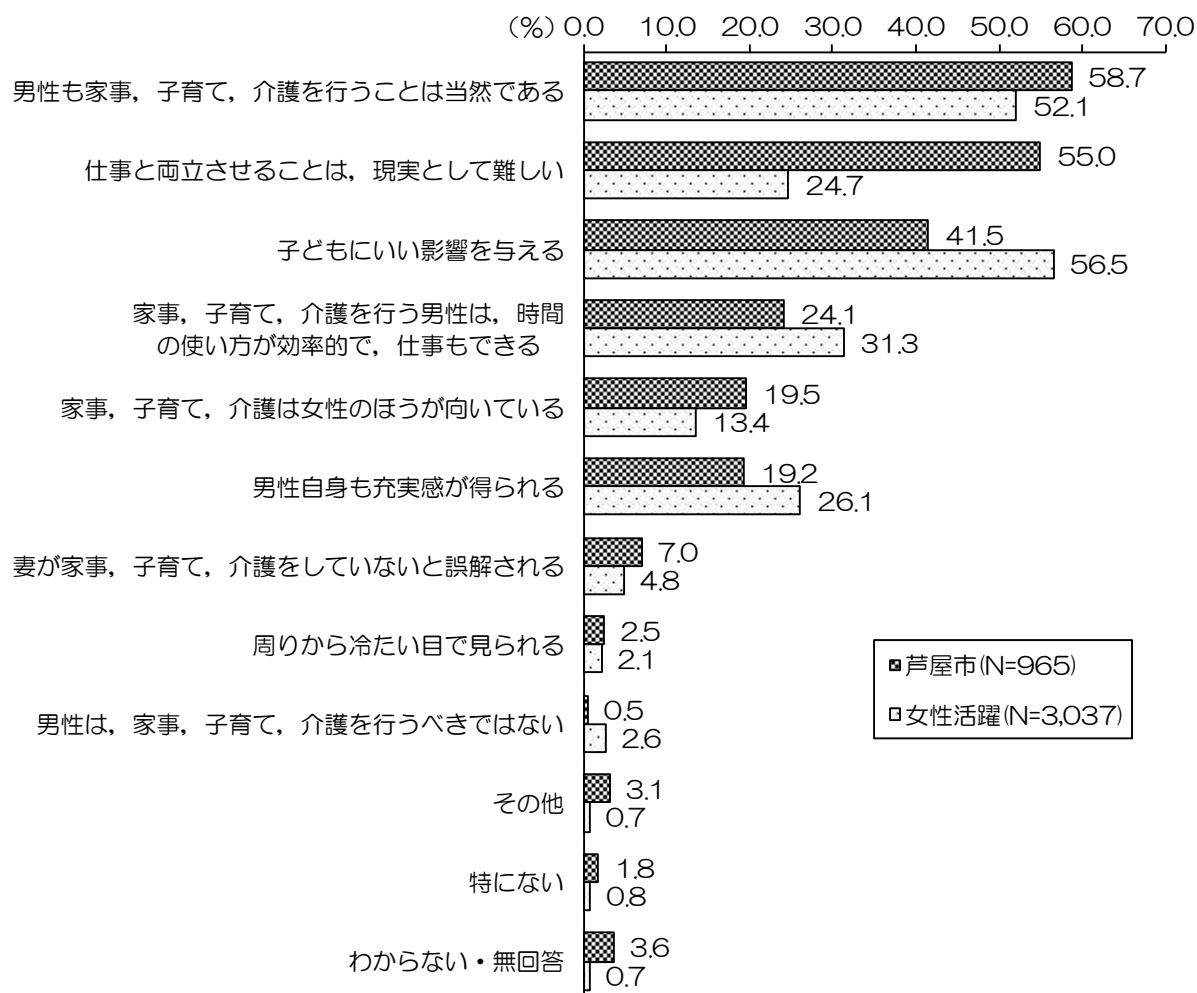


性・年齢別では、女性 40～50 歳代で「子どもにいい影響を与える」の割合が高く、男性は 60 歳代以上で「家事、子育て、介護は女性のほうが向いている」の割合が高くなっています。また、男性 60 歳代で「仕事と両立させることは、現実として難しい」が他の層に比べて高い割合になっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	男性も家事を行うことは、当然である	仕事と両立させることは、現実として難しい	子どもにいい影響を与える	家事では、子育て、介護を行う効率的な時間、使用できる	家事、子育て、介護は女性のほうが向いている	男性自身も充実感が得られる	妻が家事、子育て、介護をしていない、と誤解される	周りから冷たい目で見られる	男性は、家事、子育て、介護は、介	その他	特にな	
全体	965	58.7	55.0	41.5	24.1	19.5	19.2	7.0	2.5	0.5	3.1	1.8	
【性・年齢別】													
女性	29歳以下	59	52.5	37.3	44.1	30.5	11.9	18.6	5.1	3.4	0.0	1.7	6.8
	30歳代	65	61.5	56.9	44.6	30.8	9.2	16.9	10.8	7.7	1.5	4.6	1.5
	40歳代	76	61.8	51.3	52.6	31.6	14.5	18.4	9.2	3.9	0.0	5.3	0.0
	50歳代	78	48.7	57.7	52.6	29.5	15.4	20.5	9.0	1.3	1.3	6.4	0.0
	60歳代	105	61.9	59.0	46.7	25.7	17.1	22.9	11.4	1.0	1.0	5.7	1.0
	70歳代	109	53.2	62.4	43.1	19.3	27.5	18.3	4.6	0.0	0.9	2.8	2.8
	80歳以上	42	59.5	35.7	40.5	33.3	23.8	23.8	4.8	2.4	0.0	0.0	0.0
男性	29歳以下	37	51.4	62.2	45.9	16.2	16.2	13.5	2.7	5.4	0.0	2.7	2.7
	30歳代	43	67.4	53.5	41.9	34.9	4.7	18.6	14.0	2.3	0.0	4.7	0.0
	40歳代	59	57.6	62.7	42.4	20.3	11.9	20.3	1.7	1.7	1.7	5.1	1.7
	50歳代	48	56.3	54.2	25.0	25.0	6.3	16.7	2.1	0.0	0.0	2.1	6.3
	60歳代	73	65.8	65.8	35.6	17.8	21.9	19.2	6.8	1.4	0.0	0.0	0.0
	70歳代	94	66.0	48.9	33.0	17.0	35.1	10.6	5.3	3.2	0.0	0.0	1.1
	80歳以上	61	55.7	52.5	24.6	11.5	42.6	26.2	8.2	4.9	0.0	1.6	3.3

参考／女性活躍との比較

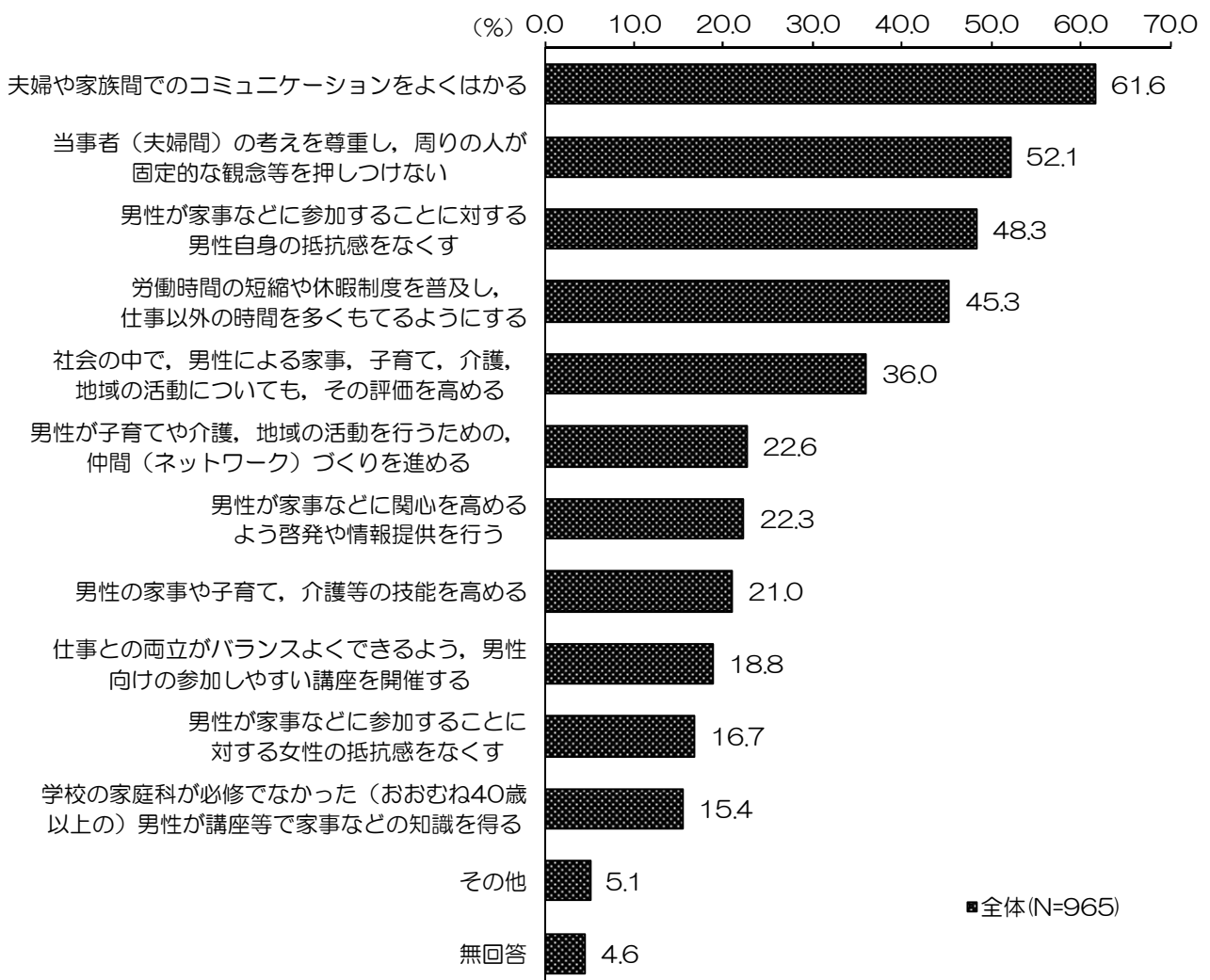
「仕事と両立させることは、現実として難しい」が、女性活躍よりも 30.3 ポイントも大幅に高い一方で、「子どもにいい影響を与える」については 15.0 ポイント低くなっています。



6 男性が積極的に家事や子育て等を行うために必要なこと

問 13. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域の活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

男性が積極的に家事や子育て等を行うために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が 61.6%と最も高く、次いで「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」（52.1%）、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」（48.3%）、「労働時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにする」（45.3%）の順となっています。



性別では、男性に比べて女性で高くなっているのは、「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域の活動についても、その評価を高める」「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」となっています。

性・年齢別で他の層に比べて高いのは、女性 29 歳以下で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」、女性 50～60 歳代で「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」、男性 60 歳代で「男性が子育てや介護、地域の活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進める」となっています。また、男女とも若い年齢層ほど「労働時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにする」がおおむね高くなる傾向にあります。その他、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域の活動についても、その評価を高める」は女性 50 歳代と男性 30 歳代、「男性の家事や子育て、介護等の技能を高める」「学校の家庭科が必修でなかった（おおむね 40 歳以上の）男性が講座等で家事などの知識を得る」は女性 80 歳以上と男性 60 歳代で共通して高くなっています。

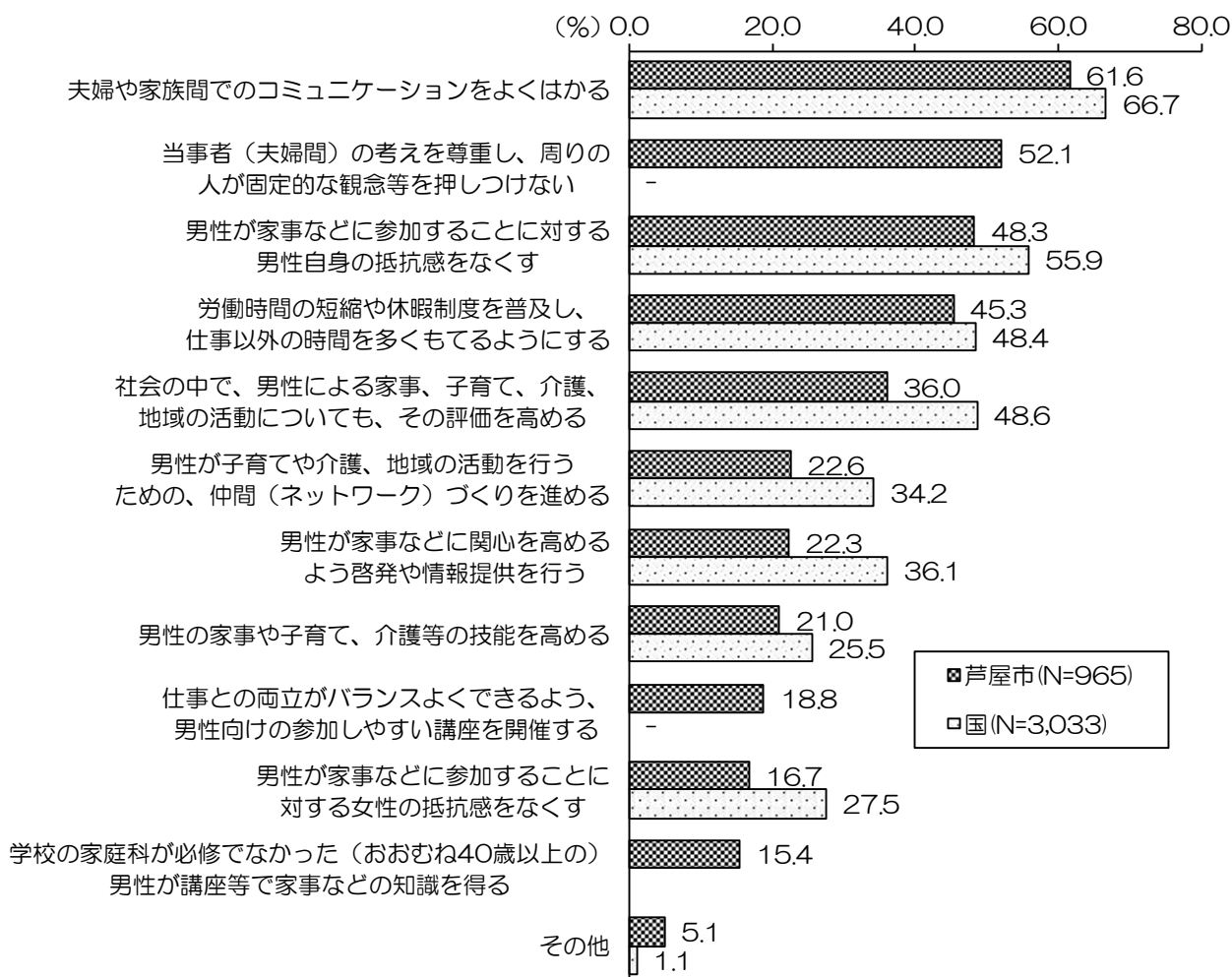
未既婚別では、未婚で「労働時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにする」が高くなっています。



単位 (%)	サンプル数 (件)	シヨンや家族間でのコミュニケーションをはかる	押しつけない	当事者(夫婦間)の考えを尊重	男性が家事などに参加すること	よ、仕事以外の時間を多くもてる	労働時間の短縮や休暇制度を普及	も、その評価を高める	育、その地域の活動につ	社会の中で、男性による家事	ク)づくりを進め、地域の活動	男性が子育てや介護(地域の活動	う啓発や情報提供を行う	男性が家事などに関心を高めるよ	能を高める	男性の家事や子育て、介護等の技	講座を開催する	仕事との両立がバランスよくでき	講座等での家事などの知識を得る	学校のおおむね40歳以上の男性が	その他
全体	965	61.6	52.1	48.3	45.3	36.0	22.6	22.3	21.0	18.8	16.7	15.4	5.1								
【性別】																					
女性	535	64.7	56.8	54.4	45.2	40.7	23.0	24.3	20.6	18.5	22.6	16.4	6.0								
男性	415	57.3	46.0	41.0	45.5	30.1	21.9	20.2	21.9	19.3	8.9	14.2	4.1								
【性・年齢別】																					
女性	29歳以下	59	74.6	59.3	57.6	55.9	42.4	22.0	23.7	10.2	10.2	18.6	8.5	6.8							
	30歳代	65	64.6	44.6	43.1	56.9	40.0	21.5	21.5	18.5	16.9	21.5	12.3	9.2							
	40歳代	76	60.5	50.0	57.9	42.1	40.8	15.8	21.1	19.7	11.8	26.3	15.8	6.6							
	50歳代	78	65.4	65.4	55.1	52.6	47.4	17.9	20.5	10.3	14.1	19.2	12.8	5.1							
	60歳代	105	63.8	63.8	52.4	48.6	40.0	31.4	32.4	24.8	22.9	25.7	19.0	6.7							
	70歳代	109	67.0	56.0	59.6	33.0	40.4	24.8	23.9	23.9	23.9	21.1	19.3	4.6							
	80歳以上	42	52.4	52.4	50.0	28.6	31.0	23.8	21.4	38.1	28.6	23.8	28.6	2.4							
男性	29歳以下	37	62.2	45.9	35.1	59.5	29.7	27.0	10.8	13.5	27.0	8.1	5.4	0.0							
	30歳代	43	60.5	51.2	41.9	62.8	48.8	30.2	16.3	16.3	27.9	7.0	9.3	4.7							
	40歳代	59	50.8	37.3	32.2	47.5	35.6	10.2	16.9	8.5	10.2	8.5	5.1	11.9							
	50歳代	48	54.2	50.0	31.3	50.0	20.8	10.4	22.9	18.8	16.7	8.3	14.6	4.2							
	60歳代	73	61.6	47.9	35.6	47.9	37.0	35.6	20.5	32.9	20.5	8.2	26.0	4.1							
	70歳代	94	58.5	44.7	50.0	38.3	21.3	17.0	20.2	24.5	13.8	7.4	10.6	2.1							
	80歳以上	61	54.1	47.5	52.5	27.9	24.6	24.6	29.5	29.5	26.2	14.8	23.0	1.6							
【未既婚別】																					
未婚	177	62.1	51.4	50.3	55.9	38.4	24.9	20.9	16.9	19.2	14.7	11.3	5.1								
既婚	766	61.4	52.5	48.6	43.1	35.4	22.1	23.0	22.2	18.7	17.1	16.6	5.2								

参考／国との比較

「男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」が国よりも13.8ポイント、続いて「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める」が12.6ポイント低くなっています。



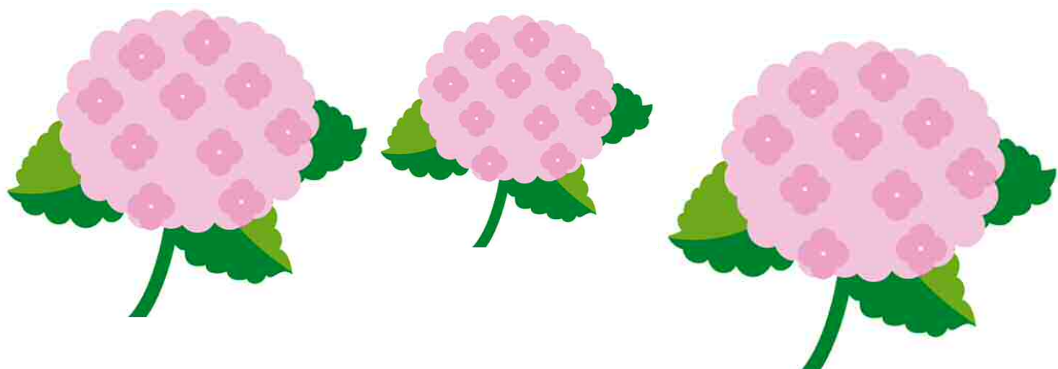
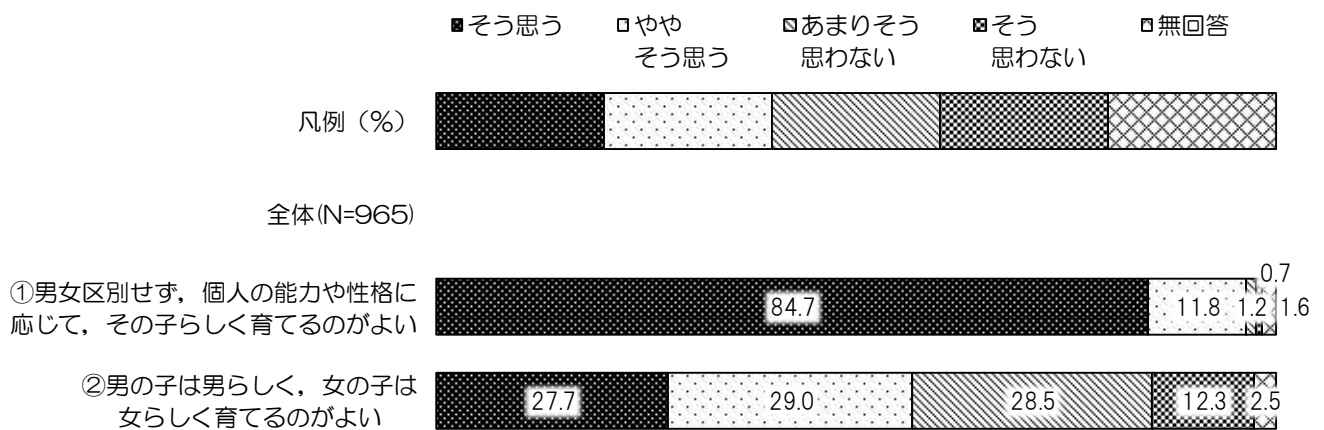
【3】子どもの教育について

1 子育てについての考え方

問 14. もしあなたに子どもがいたら、子育てについての次のような考え方をどう思いますか。(①, ②ともに〇は1つ)

子育てについての考え方は、「①男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」は8割以上(84.7%)が「そう思う」と回答しており、「ややそう思う」(11.8%)を合わせると肯定派は9割以上を占めます。

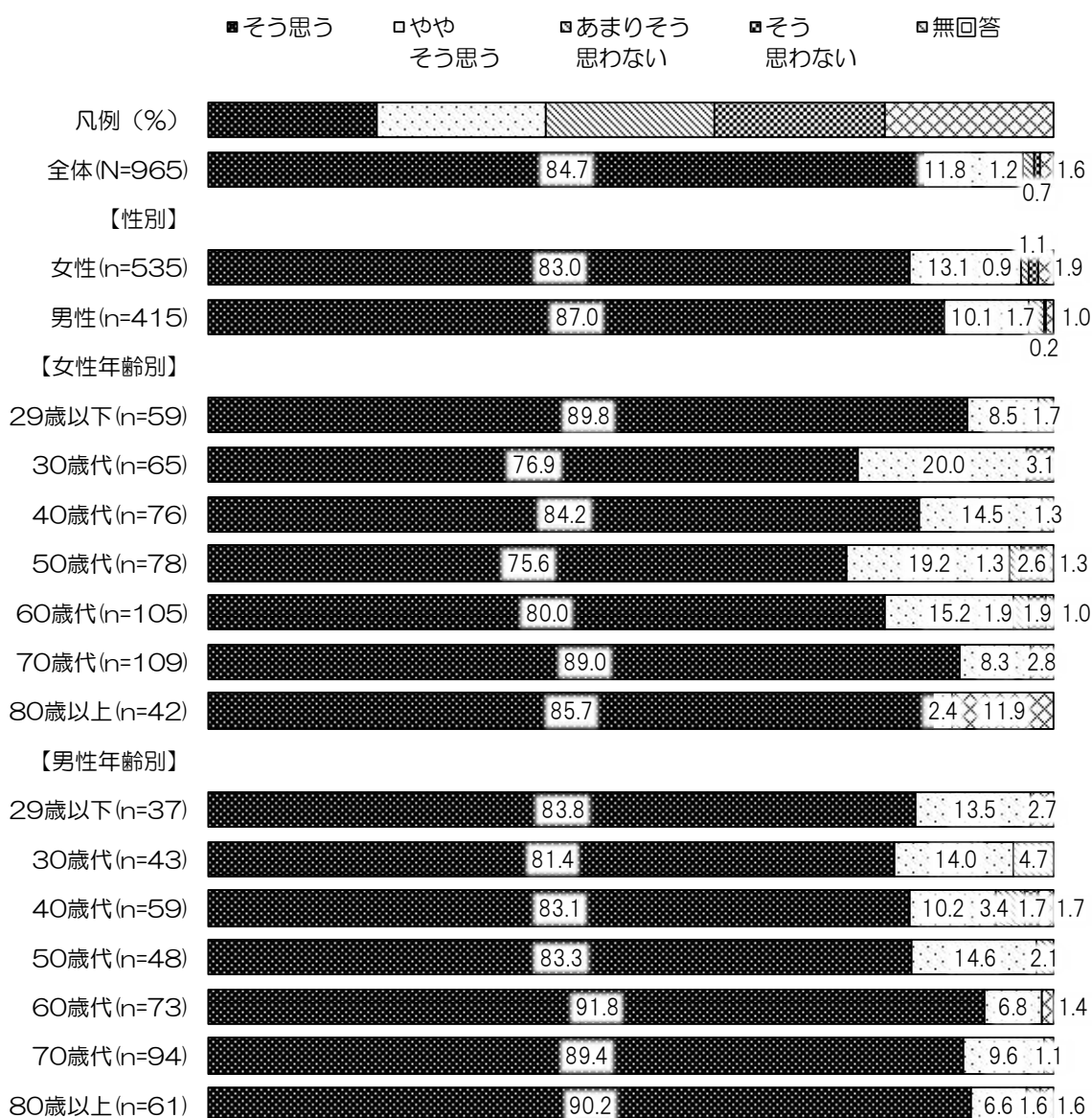
「②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」は、「ややそう思う」が29.0%と最も高く、「そう思う」(27.7%)を合わせると肯定派は過半数(56.7%)を占めます。一方、「あまりそう思わない」(28.5%)と「そう思わない」(12.3%)を合計した否定派は約4割となっており、肯定派が否定派を上回っています。



「①男女区別せず，個人の能力や性格に応じて，その子らしく育てるのがよい」について性別でみても，男女とも肯定派が大半を占めます。

性・年齢別では，女性の30歳代と50歳代で「そう思う」が他の年齢層に比べてやや低いものの，肯定派が大半を占めます。

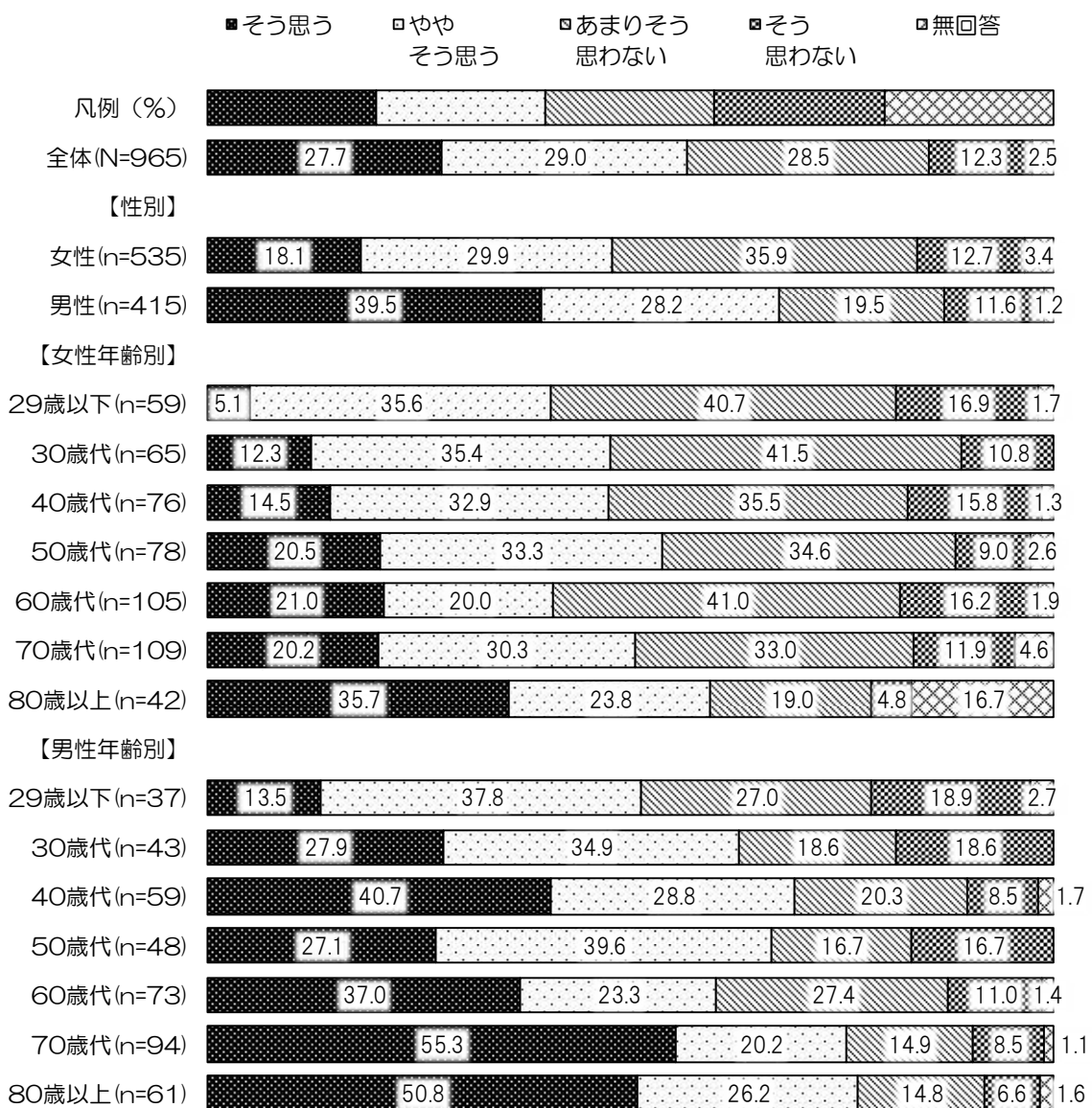
①男女区別せず，個人の能力や性格に応じて，その子らしく育てるのがよい(属性別)



「②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」について性別でみると、男性で「そう思う」の割合が高く、肯定派が67.7%となっています。また、男性に比べて女性は「あまりそう思わない」の割合が高いものの、肯定派と否定派の割合は拮抗しています。

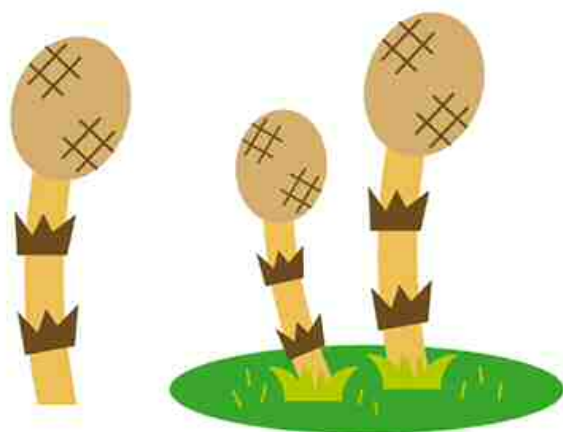
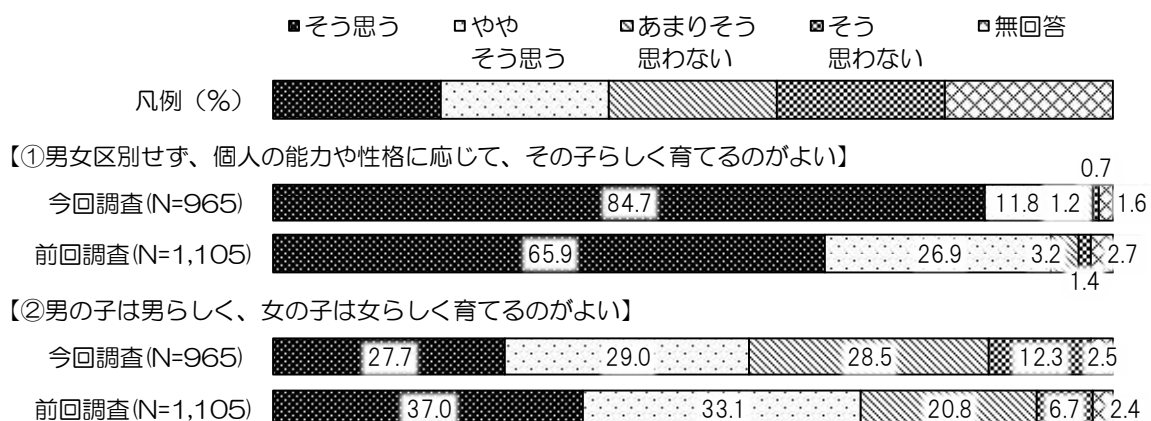
性・年齢別では、女性は年齢が上がるほど「そう思う」の割合が高くなる傾向にあり、男性は70歳以上で「そう思う」の割合が過半数を占めます。

②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい(属性別)



参考／前回調査との比較

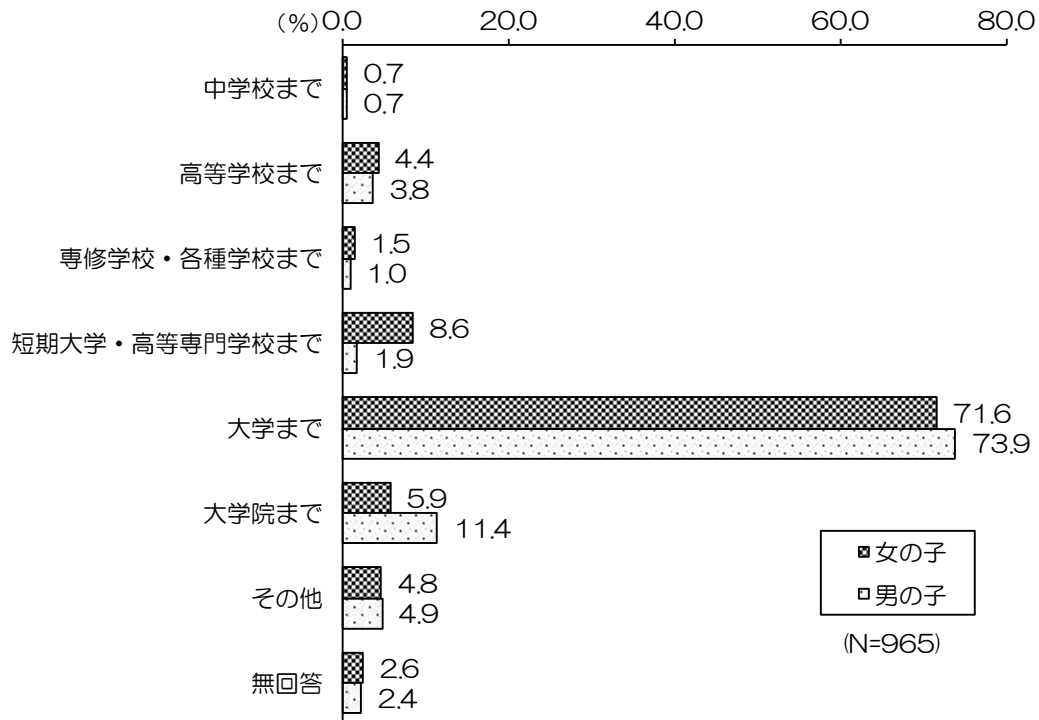
「①男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」については前回調査よりも「そう思う」が 18.8 ポイントと大幅に高くなっている一方で、「②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」については「そう思う」が 9.3 ポイント低くなっています。



2 子どもの性別による教育機会の希望

問 15. もしあなたに子どもがいたら、子どもの教育はどこまでを期待しますか。女の子と男の子のそれぞれの場合について、お答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

子どもの性別による教育機会の希望については、子どもの性別にかかわらず「大学まで」が7割以上となっています。また、「女の子」で「短期大学・高等専門学校まで」、「男の子」で「大学院まで」の割合がやや高くなっています。



性・年齢別では、女性30歳代で子どもの性別にかかわらず「大学まで」が高く、女性80歳以上で男の子の「大学院まで」が他の年齢層に比べて高くなっています。

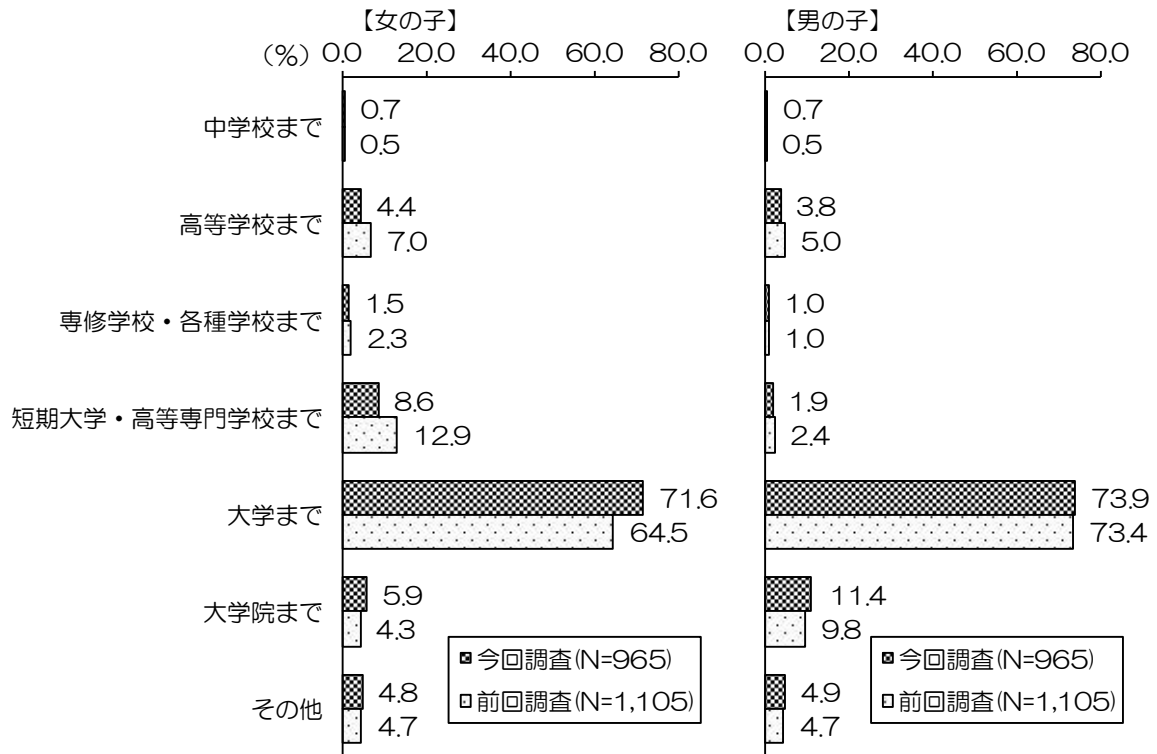
子どもの有無別では、子どもがいる層で「男の子」は「大学院まで」がやや高くなっていますが、全体として性別による差は目立ちません。

単位 (%)	サンプル数 (件)	①女の子							
		中学校まで	高等学校まで	専修学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	
全体	965	0.7	4.4	1.5	8.6	71.6	5.9	4.8	
【性別】									
女性	535	0.7	4.3	1.9	8.0	70.5	6.4	4.9	
男性	415	0.7	4.6	1.0	9.6	72.8	5.5	4.3	
【性・年齢別】									
女性	29歳以下	59	1.7	8.5	1.7	3.4	71.2	6.8	5.1
	30歳代	65	0.0	4.6	4.6	1.5	86.2	3.1	0.0
	40歳代	76	0.0	5.3	0.0	10.5	73.7	5.3	3.9
	50歳代	78	0.0	3.8	1.3	6.4	70.5	9.0	6.4
	60歳代	105	1.9	2.9	1.0	7.6	70.5	6.7	6.7
	70歳代	109	0.9	2.8	1.8	13.8	63.3	4.6	6.4
	80歳以上	42	0.0	4.8	4.8	9.5	57.1	11.9	2.4
	男性	29歳以下	37	0.0	13.5	2.7	0.0	75.7	0.0
30歳代		43	0.0	9.3	0.0	9.3	79.1	0.0	2.3
40歳代		59	3.4	1.7	0.0	10.2	79.7	1.7	1.7
50歳代		48	0.0	8.3	0.0	6.3	64.6	12.5	8.3
60歳代		73	1.4	1.4	0.0	8.2	72.6	11.0	2.7
70歳代		94	0.0	3.2	2.1	16.0	66.0	5.3	6.4
80歳以上		61	0.0	1.6	1.6	9.8	77.0	4.9	3.3
【子どもの有無別】									
子どもがいる	646	0.0	3.3	1.1	9.8	72.3	6.3	4.2	
子どもはいない	289	1.7	6.9	2.4	6.2	70.9	5.5	5.5	

単位 (%)	サンプル数 (件)	②男子							
		中学校まで	高等学校まで	専修学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	
全体	965	0.7	3.8	1.0	1.9	73.9	11.4	4.9	
【性別】									
女性	535	0.7	3.6	0.9	2.1	73.5	11.6	4.7	
男性	415	0.7	4.3	1.2	1.7	74.7	11.3	4.8	
【性・年齢別】									
女性	29歳以下	59	1.7	6.8	1.7	1.7	76.3	6.8	5.1
	30歳代	65	0.0	4.6	1.5	0.0	86.2	6.2	0.0
	40歳代	76	0.0	5.3	0.0	2.6	77.6	9.2	3.9
	50歳代	78	0.0	2.6	1.3	2.6	71.8	15.4	6.4
	60歳代	105	1.9	2.9	0.0	1.0	76.2	9.5	5.7
	70歳代	109	0.9	1.8	0.9	4.6	67.0	12.8	6.4
	80歳以上	42	0.0	2.4	2.4	0.0	54.8	26.2	2.4
男性	29歳以下	37	0.0	13.5	2.7	5.4	67.6	2.7	5.4
	30歳代	43	0.0	11.6	0.0	2.3	76.7	7.0	2.3
	40歳代	59	3.4	3.4	0.0	1.7	78.0	8.5	1.7
	50歳代	48	0.0	8.3	0.0	2.1	60.4	20.8	8.3
	60歳代	73	1.4	0.0	0.0	1.4	76.7	13.7	5.5
	70歳代	94	0.0	1.1	4.3	0.0	76.6	10.6	6.4
	80歳以上	61	0.0	1.6	0.0	1.6	80.3	13.1	3.3
【子どもの有無別】									
子どもがいる	646	0.0	3.1	0.6	1.7	74.5	13.3	4.2	
子どもはいない	289	1.7	5.5	2.1	2.1	74.4	7.6	5.9	

参考／前回調査との比較

いずれの項目についても大きな変化はみられません。



3 子どもの性別による生き方の重要度

問 16. もしあなたに子どもがいたら、あなたは、子どもにはどのような生き方をしてほしいと思いますか。A女の子とB男の子それぞれの場合についてお答えください。
 (A, Bとも〇はそれぞれ1つずつ)

子どもの性別による生き方の重要度については、女の子は「①社会的な地位を得るように」は「あまり重要ではない」の割合が高く、「③家事など身の回りのことが自分のできるように」を「重要」とする割合が高くなっています。一方、男の子は「②経済的に自立できるように」を「重要」とする割合が高くなっています。



性別でみると、男性に比べて女性で、女の子の「②経済的に自立できるように」の「重要」の割合が高く、また、子どもの性別にかかわらず「③家事など身の回りのことが自分でできるように」を「重要」の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、女の子の「②経済的に自立できるように」については、女性 30 歳代で「重要」の割合が高く、子どもの性別にかかわらず「③家事など身の回りのことが自分でできるように」については、特に女性の若い年齢層を中心に「重要」の割合が高くなっています。また、子どもの性別にかかわらず「④自分の意見をはっきりと言える人に」については、男性 40 歳代で「重要」の割合が高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	①社会的な地位を得るように								
		女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	
全体	965	9.7	31.2	43.3	10.5	30.7	38.0	18.7	6.4	
【性別】										
女性	535	9.0	31.8	43.0	10.5	30.1	39.1	17.8	6.4	
男性	415	10.8	30.1	43.9	10.8	31.6	37.1	19.8	6.7	
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	59	13.6	40.7	35.6	6.8	30.5	45.8	16.9	3.4
	30歳代	65	15.4	43.1	38.5	3.1	43.1	36.9	16.9	3.1
	40歳代	76	7.9	38.2	43.4	10.5	32.9	35.5	22.4	6.6
	50歳代	78	12.8	23.1	50.0	11.5	29.5	33.3	26.9	6.4
	60歳代	105	5.7	28.6	51.4	12.4	28.6	38.1	21.0	7.6
	70歳代	109	5.5	25.7	42.2	11.9	22.0	46.8	12.8	6.4
	80歳以上	42	4.8	31.0	26.2	16.7	31.0	31.0	0.0	11.9
男性	29歳以下	37	18.9	43.2	27.0	8.1	32.4	43.2	10.8	8.1
	30歳代	43	11.6	39.5	34.9	14.0	37.2	34.9	18.6	9.3
	40歳代	59	16.9	27.1	44.1	10.2	44.1	23.7	23.7	6.8
	50歳代	48	14.6	22.9	50.0	10.4	22.9	31.3	35.4	6.3
	60歳代	73	5.5	38.4	43.8	8.2	28.8	38.4	23.3	6.8
	70歳代	94	5.3	23.4	52.1	12.8	26.6	45.7	11.7	8.5
	80歳以上	61	11.5	24.6	42.6	11.5	32.8	37.7	18.0	1.6

単位 (%)	サンプル数 (件)	②経済的に自立できるように								
		女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要ではない
全体	965	51.7	38.9	5.4	0.7	87.0	8.1	0.4	0.1	
【性別】										
女性	535	57.2	34.4	4.3	0.6	88.2	6.5	0.2	0.0	
男性	415	44.3	45.3	6.5	1.0	86.0	10.4	0.7	0.2	
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	59	47.5	42.4	6.8	0.0	74.6	22.0	0.0	0.0
	30歳代	65	70.8	27.7	1.5	0.0	93.8	6.2	0.0	0.0
	40歳代	76	56.6	35.5	7.9	0.0	90.8	6.6	0.0	0.0
	50歳代	78	62.8	32.1	3.8	0.0	92.3	3.8	1.3	0.0
	60歳代	105	59.0	33.3	5.7	0.0	93.3	2.9	0.0	0.0
	70歳代	109	51.4	36.7	2.8	0.9	86.2	3.7	0.0	0.0
	80歳以上	42	50.0	33.3	0.0	4.8	78.6	7.1	0.0	0.0
男性	29歳以下	37	45.9	43.2	2.7	5.4	75.7	16.2	0.0	2.7
	30歳代	43	39.5	51.2	9.3	0.0	76.7	23.3	0.0	0.0
	40歳代	59	47.5	44.1	5.1	0.0	89.8	6.8	1.7	0.0
	50歳代	48	54.2	41.7	2.1	0.0	85.4	10.4	0.0	0.0
	60歳代	73	53.4	38.4	2.7	1.4	94.5	4.1	0.0	0.0
	70歳代	94	36.2	53.2	8.5	0.0	86.2	9.6	2.1	0.0
	80歳以上	61	37.7	42.6	13.1	1.6	85.2	9.8	0.0	0.0

単位 (%)	サンプル数 (件)	③家事など身の回りのことが自分でできるように								
		女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要ではない
全体	965	75.0	20.6	0.8	0.2	51.1	39.3	4.0	0.3	
【性別】										
女性	535	80.6	15.1	0.7	0.2	56.8	35.0	2.6	0.2	
男性	415	68.2	27.7	0.7	0.2	44.1	45.1	6.0	0.5	
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	59	67.8	28.8	0.0	0.0	50.8	40.7	5.1	0.0
	30歳代	65	93.8	4.6	1.5	0.0	73.8	24.6	1.5	0.0
	40歳代	76	81.6	18.4	0.0	0.0	63.2	32.9	1.3	0.0
	50歳代	78	84.6	12.8	1.3	0.0	53.8	41.0	1.3	1.3
	60歳代	105	83.8	15.2	0.0	0.0	65.7	27.6	2.9	0.0
	70歳代	109	78.0	12.8	1.8	0.0	44.0	43.1	2.8	0.0
	80歳以上	42	66.7	16.7	0.0	2.4	42.9	33.3	4.8	0.0
男性	29歳以下	37	62.2	35.1	0.0	0.0	51.4	40.5	2.7	0.0
	30歳代	43	69.8	30.2	0.0	0.0	55.8	44.2	0.0	0.0
	40歳代	59	81.4	16.9	0.0	0.0	49.2	44.1	5.1	0.0
	50歳代	48	75.0	20.8	2.1	0.0	52.1	41.7	2.1	0.0
	60歳代	73	61.6	34.2	0.0	0.0	43.8	49.3	4.1	0.0
	70歳代	94	61.7	34.0	2.1	0.0	36.2	51.1	7.4	1.1
	80歳以上	61	70.5	19.7	0.0	1.6	32.8	37.7	16.4	1.6

単位 (%)	サンプル数 (件)	④自分の意見をはっきりと言える人に								
		女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要ではない
全体	965	65.2	29.5	1.7	0.3	78.8	15.8	0.5	0.0	0.0
【性別】										
女性	535	67.7	27.9	0.9	0.2	80.2	14.2	0.4	0.0	0.0
男性	415	61.4	32.5	2.4	0.5	77.1	18.1	0.7	0.0	0.0
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	59	62.7	33.9	0.0	0.0	71.2	25.4	0.0	0.0
	30歳代	65	67.7	32.3	0.0	0.0	84.6	15.4	0.0	0.0
	40歳代	76	65.8	32.9	1.3	0.0	80.3	15.8	1.3	0.0
	50歳代	78	65.4	32.1	1.3	0.0	80.8	15.4	1.3	0.0
	60歳代	105	74.3	23.8	1.0	0.0	83.8	12.4	0.0	0.0
	70歳代	109	70.6	19.3	1.8	0.0	81.7	8.3	0.0	0.0
	80歳以上	42	57.1	28.6	0.0	2.4	71.4	11.9	0.0	0.0
男性	29歳以下	37	70.3	27.0	0.0	0.0	78.4	16.2	0.0	0.0
	30歳代	43	65.1	34.9	0.0	0.0	74.4	25.6	0.0	0.0
	40歳代	59	81.4	15.3	1.7	0.0	93.2	3.4	1.7	0.0
	50歳代	48	58.3	41.7	0.0	0.0	64.6	33.3	0.0	0.0
	60歳代	73	61.6	30.1	4.1	0.0	79.5	16.4	1.4	0.0
	70歳代	94	51.1	38.3	5.3	2.1	74.5	20.2	1.1	0.0
	80歳以上	61	52.5	37.7	1.6	0.0	73.8	14.8	0.0	0.0

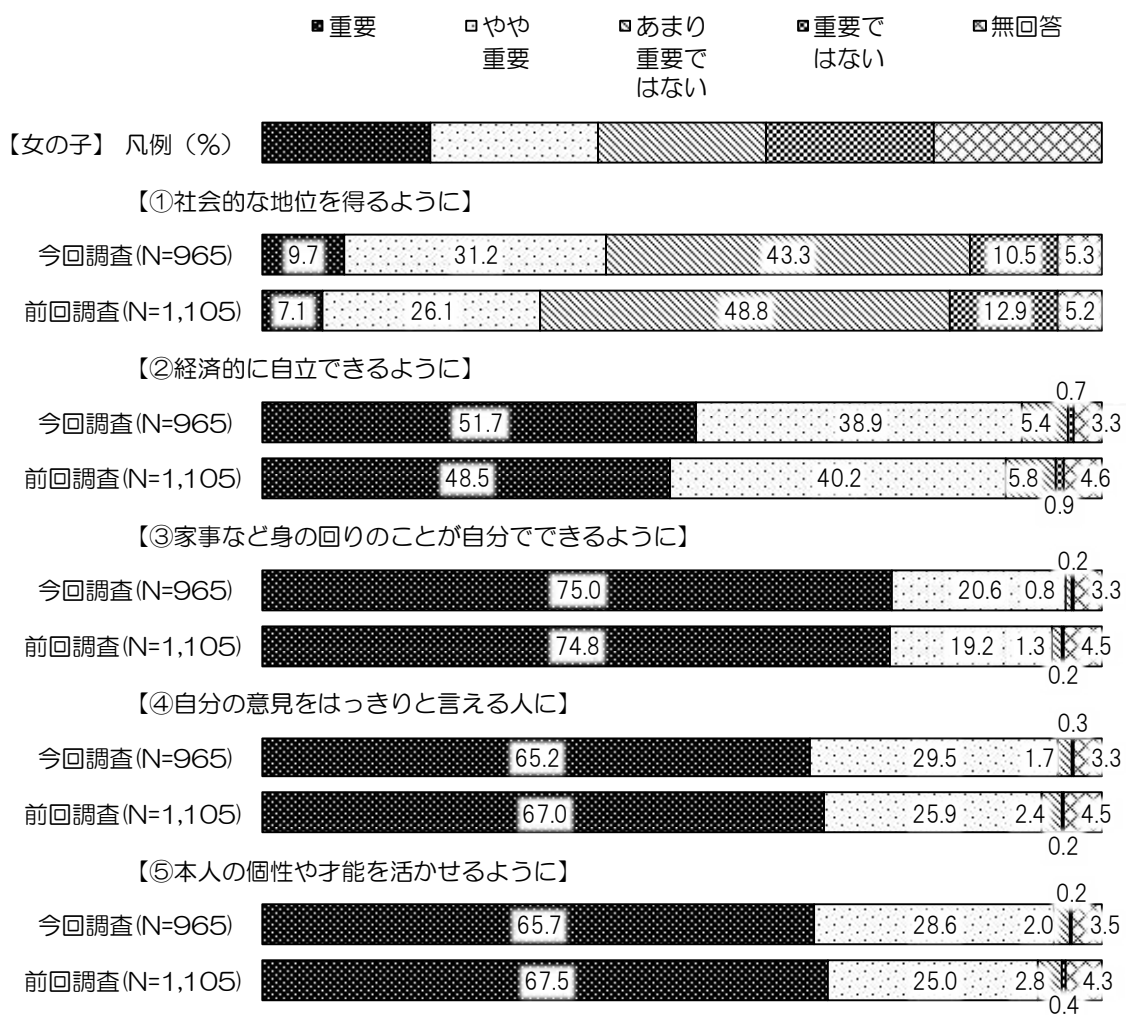
単位 (%)	サンプル数 (件)	⑤本人の個性や才能を活かせるように								
		女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要ではない
全体	965	65.7	28.6	2.0	0.2	76.5	17.2	1.2	0.0	0.0
【性別】										
女性	535	66.9	27.3	1.7	0.4	76.3	17.0	1.1	0.0	0.0
男性	415	63.9	30.8	2.2	0.0	76.6	18.1	1.4	0.0	0.0
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	59	71.2	25.4	0.0	0.0	78.0	18.6	0.0	0.0
	30歳代	65	69.2	29.2	0.0	1.5	76.9	23.1	0.0	0.0
	40歳代	76	69.7	28.9	1.3	0.0	76.3	21.1	0.0	0.0
	50歳代	78	71.8	23.1	3.8	0.0	79.5	15.4	2.6	0.0
	60歳代	105	69.5	26.7	2.9	0.0	79.0	15.2	1.9	0.0
	70歳代	109	60.6	30.3	0.9	0.0	75.2	12.8	1.8	0.0
	80歳以上	42	54.8	23.8	2.4	2.4	64.3	14.3	0.0	0.0
男性	29歳以下	37	81.1	13.5	2.7	0.0	81.1	10.8	2.7	0.0
	30歳代	43	72.1	25.6	2.3	0.0	79.1	18.6	2.3	0.0
	40歳代	59	79.7	16.9	1.7	0.0	86.4	10.2	1.7	0.0
	50歳代	48	68.8	31.3	0.0	0.0	64.6	33.3	0.0	0.0
	60歳代	73	63.0	34.2	0.0	0.0	76.7	20.5	0.0	0.0
	70歳代	94	52.1	38.3	6.4	0.0	75.5	18.1	3.2	0.0
	80歳以上	61	47.5	42.6	0.0	0.0	73.8	14.8	0.0	0.0

参考／前回調査との比較

女の子では、「①社会的な地位を得るように」で「重要」と「やや重要」を合わせた割合が前回調査よりも高くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。

男の子では、いずれの項目についても大きな変化はみられません。

A女の子

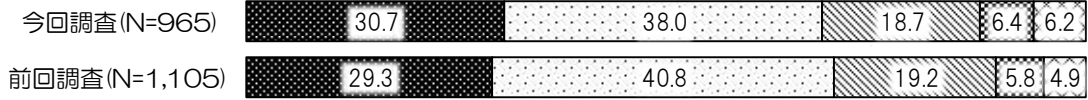


□ 男の子

■ 重要 □ やや重要 □ あまり重要ではない □ 重要ではない □ 無回答

【男の子】 凡例 (%)

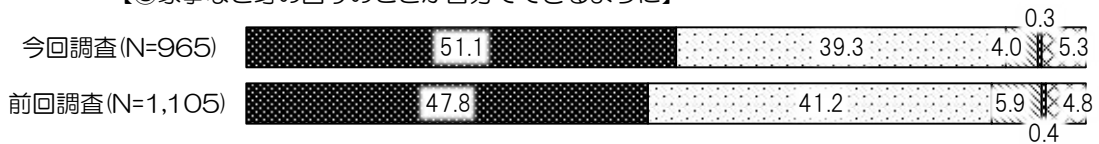
【①社会的な地位を得るように】



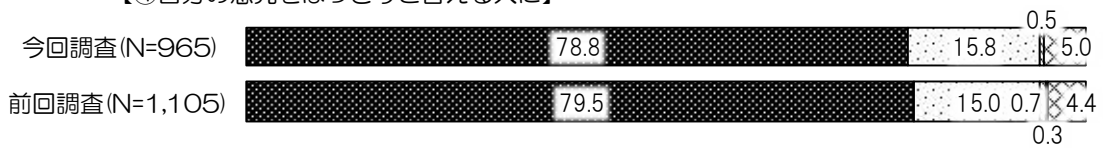
【②経済的に自立できるように】



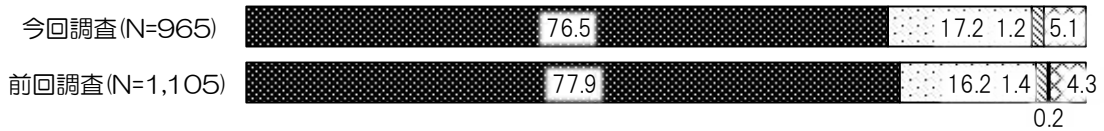
【③家事など身の回りのことが自分でできるように】



【④自分の意見をはっきりと言える人に】



【⑤本人の個性や才能を活かせるように】



【4】職業生活について

1 就労状況・就労意向

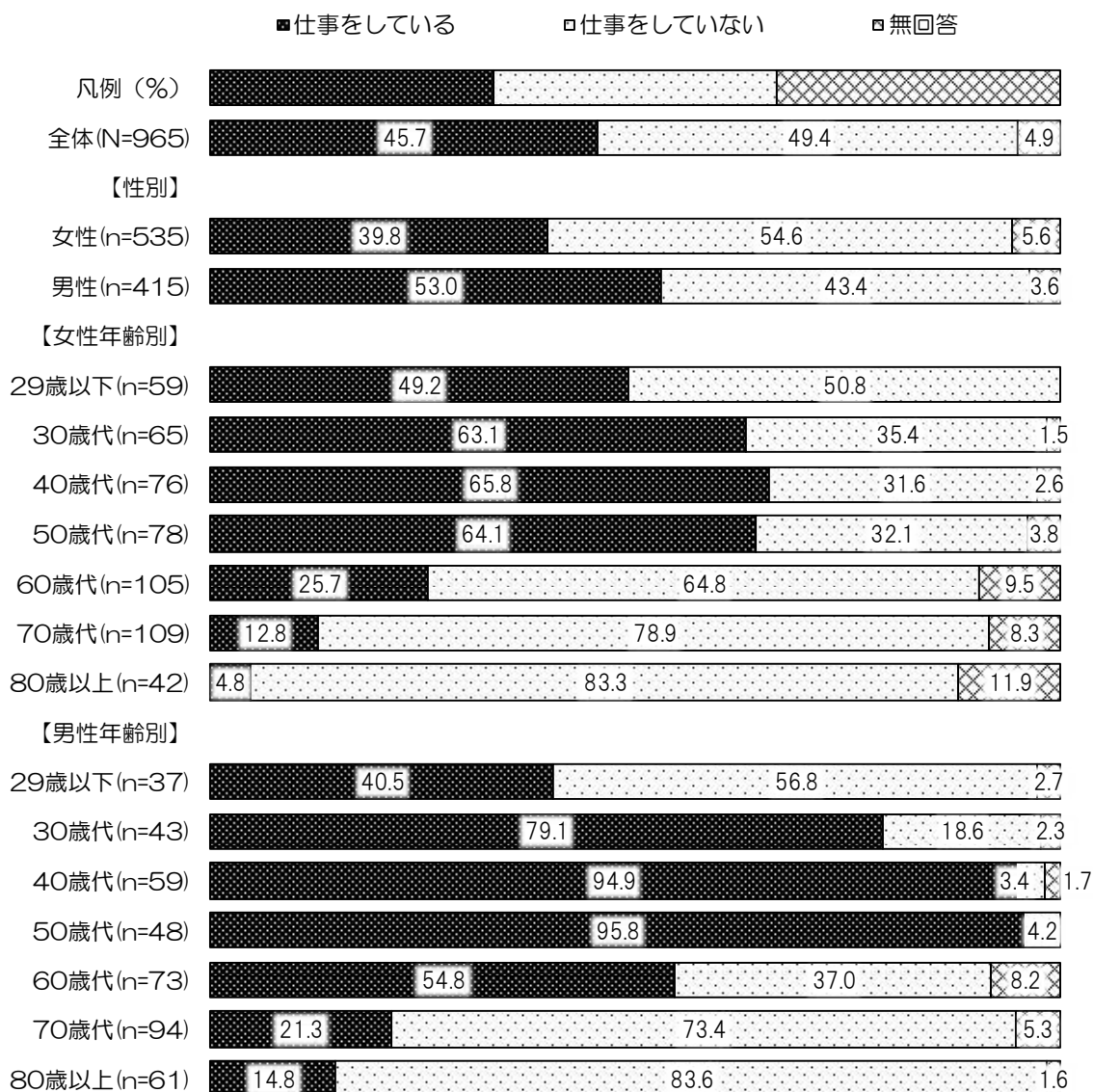
(1) 就労の有無

問 17. あなたは現在、職業をもって仕事をしていますか。(〇は1つ)

就労の有無については、「仕事をしている」が45.7%、「仕事をしていない」が49.4%とほぼ二分されています。

性別では、女性に比べて男性で「仕事をしている」の割合が高く、女性の有職率は39.8%となっています。

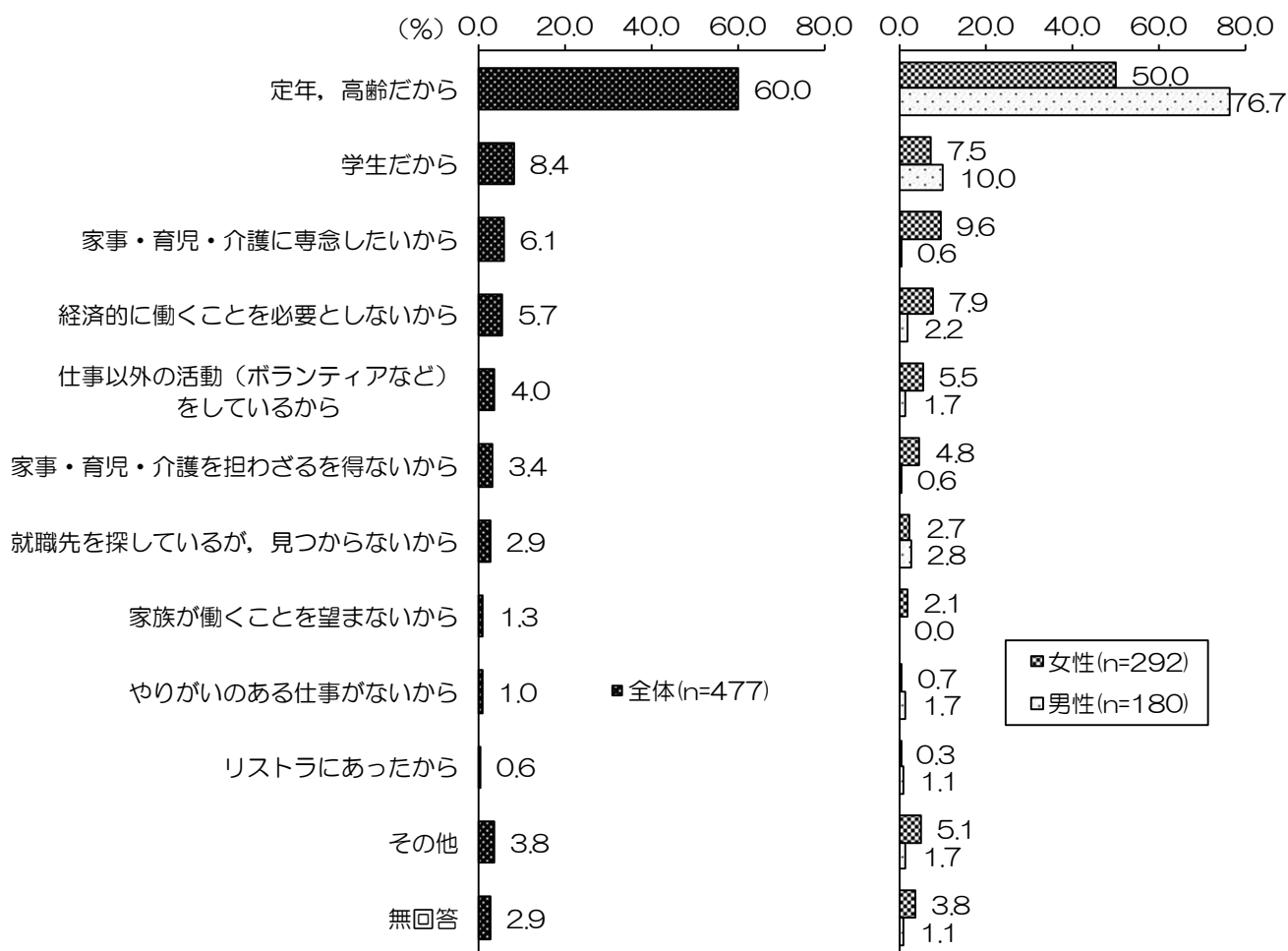
性・年齢別では、男性40～50歳代で「仕事をしている」が他の層に比べて高くなっています。また、女性30～50歳代の6割以上が「仕事をしている」と回答しています。



(2) 未就労の理由

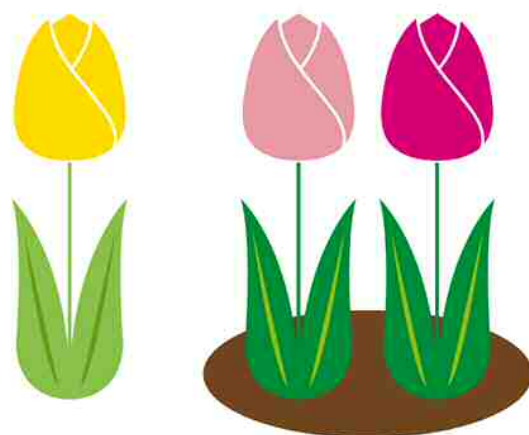
問 17-1. あなたが職業をもって働いていない主な理由は何ですか。(○は1つ)

未就労の理由については、「定年、高齢だから」が6割を占め最も高く、性別で見ると男性の7割以上が「定年、高齢だから」と回答しています。



性・年齢別では、女性 30～40 歳代で「家事・育児・介護に専念したいから」が高く、それに加えて女性 30 歳代は「家事・育児・介護を担わざるを得ないから」、女性 40 歳代は「就職先を探しているが、見つからないから」もそれぞれ高くなっています。また、女性 50 歳代で「経済的に働くことを必要としないから」「仕事以外の活動（ボランティアなど）をしているから」が他の年齢層に比べて高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	定年・高齢だから	学生だから	家事・育児・介護に専念したいから	経済的に働くことを必要としないから	仕事以外の活動（ボランティアなど）をしているから	家事・育児・介護を担わざるを得ないから	就職先を探しているが、見つからないから	家族が働くことを望まないから	やりがいのある仕事がないから	リストウにあつたから	その他
全体	477	60.0	8.4	6.1	5.7	4.0	3.4	2.9	1.3	1.0	0.6	3.8
【性・年齢別】												
女性	29歳以下	30	0.0	73.3	6.7	0.0	3.3	3.3	6.7	0.0	0.0	6.7
	30歳代	23	0.0	0.0	47.8	4.3	0.0	21.7	4.3	4.3	0.0	13.0
	40歳代	24	0.0	0.0	29.2	16.7	0.0	12.5	16.7	0.0	4.2	12.5
	50歳代	25	0.0	0.0	16.0	32.0	20.0	4.0	4.0	12.0	0.0	8.0
	60歳代	68	63.2	0.0	5.9	8.8	11.8	1.5	0.0	1.5	0.0	4.4
	70歳代	86	82.6	0.0	0.0	4.7	2.3	2.3	0.0	1.2	1.2	2.3
	80歳以上	35	88.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	29歳以下	21	0.0	85.7	0.0	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
30歳代		8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	37.5
40歳代		2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代		2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
60歳代		27	81.5	0.0	3.7	0.0	3.7	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0
70歳代		69	95.7	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0
80歳以上		51	96.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0



(3) 就労意向

問 17-2. 今後、職業をもち、仕事をしたいと思えますか。(〇は1つ)

仕事をしていない人の就労意向については、「するつもりはない」が54.3%となっており、「すぐにでもしたい」(7.8%)と「将来したい」(13.8%)を合わせた就労意向率は21.6%でした。

性別では、女性に比べて男性で「するつもりはない」が高くなっています。

性・年齢別では、女性40歳代の約3割が「すぐにでもしたい」と回答しており、他の層に比べて高くなっています。

